

田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)

特 記	改訂番号	改訂月日	改訂内容	承認	審査	検図	製図	工事名称	一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
								図面内容	縮尺	図面区分 建築意匠
								表紙		図面番号 表紙内

図面リスト

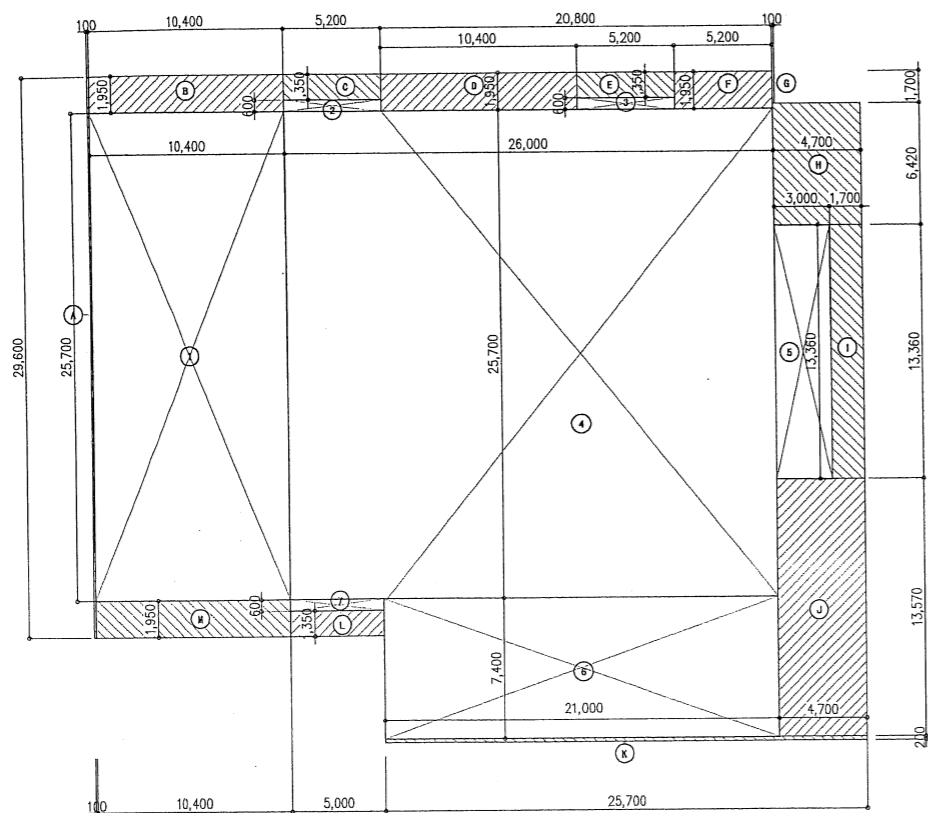
図面番号	建築意匠（増築部）	縮尺	図面番号	建築意匠（既存改修部）	縮尺	図面番号	建築構造	縮尺
						S-01	構造特記仕様書	——
1	図面リスト	——	32	下地範囲平面図	1:150	S-02	配筋標準図 1	——
2	特記仕様書 NO1	——	33	土間伏図	1:100	S-03	配筋標準図 2	——
3	特記仕様書 NO2	——	34	体育器具・コート・基礎配置図	1:100	S-04	配筋標準図 3	——
4	特記仕様書 NO3	——	35	体育器具詳細図(1)	1:40	S-05	鉄骨標準図 1	——
5	特記仕様書 NO4	——	36	体育器具詳細図(2)	1:50	S-06	鉄骨標準図 2	——
6	求積図 屋内運動場・接続廊下	1:200	37	体育器具詳細図(3)	1:100	S-07	ロールH形鋼大梁継手、小梁仕口表	——
7	求積図 居室面積	1:200	38	接続廊下詳細図	1:50	S-08	基礎伏図	1:100
8	仕上表	——	39	仮設計画図	1:400	S-09	2階 床伏梁図	1:100
9	配置図	1:800				S-10	小屋伏図	1:100
10	1階 平面図	1:100				S-11	軸組図 1	1:100
11	キャットウォーク平面図	1:100				S-12	軸組図 2	1:100
12	東・南 立面図	1:100				S-13	軸組図 3	1:100
13	西・北 立面図	1:100				S-14	基礎断面表	1:30
14	断面図	1:100				S-15	地中梁断面表	1:30
15	屋根伏図	1:100				S-16	部材リスト表	1:30
16	矩計図(1)	1:30				S-17	鉄骨架構詳細図	1:30
17	矩計図(2)	1:30						
18	矩計図(3)	1:50						
19	アリーナ展開図(1)	1:100						
20	アリーナ展開図(2)	1:100						
21	展開図(1) ステージ	1:50						
22	展開図(2)	1:50						
23	展開図(3)	1:50						
24	1階天井伏図	1:100						
25	キャットウォーク天井伏図	1:100						
26	1階建具平面図	1:100						
27	キャットウォーク建具平面図	1:100						
28	金属建具表	1:50						
29	木製建具表	1:50						
30	部分詳細図	1:20						
31	家具詳細図	1:30						

鉄骨工事	1. 鉄骨製作工場	・ 監督員の承諾する製作工場 建築基準法第68条の第1項(同法第88条第1項)の規定に基づき国土交通大臣の認定を受けた鉄骨製作工場 (M) グレード以上	(7.1.3)
	2. 施工管理	鉄骨製作管理技術者の適用 ※ 適用する 適用しない	(7.1.4)
	3. 工作	床書き原寸図 ・ 作成する ○ 作成しない	(7.3.2)
	4. 鋼材	高力ボルト及び普通ボルトのゲージ、ピッチ、ヘリあき等 ※ 「建築鉄骨設計基準」別表4.5~4.8による 図示	(7.3.2)
	5. 高力ボルト	鋼材の材質 (7.2.1)(表7.2.1)(7.2.10)	(7.2.1)(表7.2.1)(7.2.10)
	6. アンカーボルト	板厚方向に引張力を受ける鋼材 ※ SN規格C材 (JIS G 3136建築構造用圧延鋼材でのC材) 7.2.10(c)の試験 (JIS G 9901) を7.2.10(a)により行い、JIS G 3136 でのC材に相当することが確認された鋼材	(7.2.1)(表7.2.1)(7.2.10)
	7. ターンナップ	鋼材の断面形状及び規格 ※ 図示	(7.2.1)
	8. 溶接部の試験	鋼材の断面形状及び寸法 ※ 図示	(7.2.1)
	9. 錆止め塗装	高力ボルトの適用 ○ トルシア形高力ボルト (大臣指定又は認定品) (S10T) ○ J1S形高力ボルト (JIS B 1186) (F10T) ・ 溶接部締めつき高力ボルト (大臣指定又は認定品) (F8T相当)	(7.2.2)
	10. 耐火被覆材の種類及び性能	高力ボルトの径 ・ M20 ・ M22	(7.2.2)

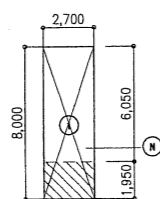
コンクリート・ALCパネル・ALCパネル・ALCパネル	1. 補強コンクリートブロック造	ブロックの種類 ※ 空洞ブロック 16 標仕 表8.2.2以外のコンクリートの設計基準強度 (F _c) ※ 21 N/mm ² 以上	(8.2.2)
	2. コンクリートブロック	壁の配筋 ・ 図示 交差部及び端部 (開口部) の配筋 ※ 標仕 別図 8.1による まぐさの配筋 ※ 標仕 別図 8.2, 8.3による 図示	(8.2.4)
	3. ALCパネル	ブロックの種類 ※ 標仕 表8.3.1による	(8.2.5)
	4. 押出し成形セメント板	ブロックの厚さ 施工箇所 厚さ (mm) 壁の高さが2m以下の箇所 ※120 壁の高さが2mを超える箇所 ※150	(8.3.2)
	5. ターンナップ	ブロックの基礎、控壁のコンクリートの呼び強度 ※ 21 N/mm ² 以上	(8.3.2)
	6. 溶接部の試験	各部の配筋 ※ 標仕 別図 各部配筋9節による 図示	(8.3.3)
	7. ターンナップ	パネルの種類 (8.4.2~8.4.5)(表8.4.3)(表8.4.4)	(8.3.2)
	8. 溶接部の試験	パネルの種類 種別 単位荷重 (N/m ²) 厚さ (mm) 取付け工法種別 ・ 外壁パネル (窓扉パネル) ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 外壁パネル (平パネル) ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 間仕切壁パネル ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 屋根パネル ・ E種 ・ 床パネル	(8.4.2~8.4.5)(表8.4.3)(表8.4.4)
	9. 錆止め塗装	出隅入隅部の目地幅 (mm) ※ 20mm	(8.4.4)
	10. 耐火被覆材の種類及び性能	種類 ※ JIS A 5441 (8.5.2~8.5.5)(表8.5.1)(表8.5.2)	(8.4.4)

防水工事	3. 合成高分子系ルーフィングシート防水	防水層の種類 (工法) (9.4.3)(表9.4.1)	(9.4.3)(表9.4.1)
	4. 塗膜防水	種別 厚さ (mm) 施工箇所 仕上塗料 (露出) ・ S-F1 ※1.2 ・ S-F2 ※2.0 ・ S-M1 ※1.5 ・ S-M2 ※1.5+2.0 図示 ・ S-M3 ※1.2	(9.4.3)(表9.4.1)
	5. シーリング	絶縁用シートの材質 (9.4.2) ※ 発泡ポリエチレンシート ウレタン系塗膜防水の種類 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)	(9.4.2)
	6. 防水施工保証書	種別 材質 設置数量 ・ 平面部脱気型 ・ 立上がり部脱気型	(9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)
	7. ターンナップ	ゴムアスファルト系塗膜防水 (Y-2) の保護層 (9.5.3)(表9.5.2) ・ 設ける	(9.5.3)(表9.5.2)
	8. 溶接部の試験	シーリング材の種類、施工箇所 (9.6.2)(表9.6.1)(7.2.2)(7.3.2) ※ 被着体に応じたものとし、標仕 表9.6.1を標準とする ・ 下記による	(9.6.2)(表9.6.1)(7.2.2)(7.3.2)
	9. 錆止め塗装	種別 材質 設置数量 ・ 平面部脱気型 ・ 立上がり部脱気型	(9.6.3)
	10. 耐火被覆材の種類及び性能	シーリング材の目地寸法 (9.6.3)	(9.6.3)
	11. 屋根及びびとい工事	種別 材質 設置数量 ・ 平面部脱気型 ・ 立上がり部脱気型	(9.6.5)
	12. 屋根及びびとい工事	種別 材質 設置数量 ・ 平面部脱気型 ・ 立上がり部脱気型	(9.6.5)

木工事	1. 表面仕上げ	程度 ・ A種 ※ B種 ・ C種 (12.1.4)	(12.1.4)
	2. 木	現場搬入時の含水率 ※ A種 ・ B種 (12.2.1)	(12.2.1)
	3. 代用樹種使用の禁止	構造材、下地材の等級 ・ 標仕12.2.1(b)(4)による (12.2.1)(表12.2.2)	(12.2.1)(表12.2.2)
	4. 集成材	造作材の等級 ※ A種 ・ B種 (12.2.1)(表12.2.3)	(12.2.1)(表12.2.3)
	5. 床張り用合板	樹種 ・ 標仕12章 2~8節による (12.2.1)(表12.2.3)	(12.2.1)(表12.2.3)
	6. 接着剤	・ 設計図書の樹種について、下記の使用箇所及び樹種については代用樹種を使用することはできない。	(12.2.1)(表12.2.3)
	7. 防蟻	構造用集成材 (12.2.2)	(12.2.2)
	8. 防蟻	・ 適用する 適用範囲 強度等級 材面の品質 ※ 2種 接着性能 樹種名 寸法	(12.2.2)
	9. 防蟻	構造用単板積層材 (12.2.2)	(12.2.2)
	10. 防蟻	・ 適用する 適用範囲 樹種名 寸法 等級 曲げ性能 水平せん断性能	(12.2.2)



屋内運動場 求積図 1/200



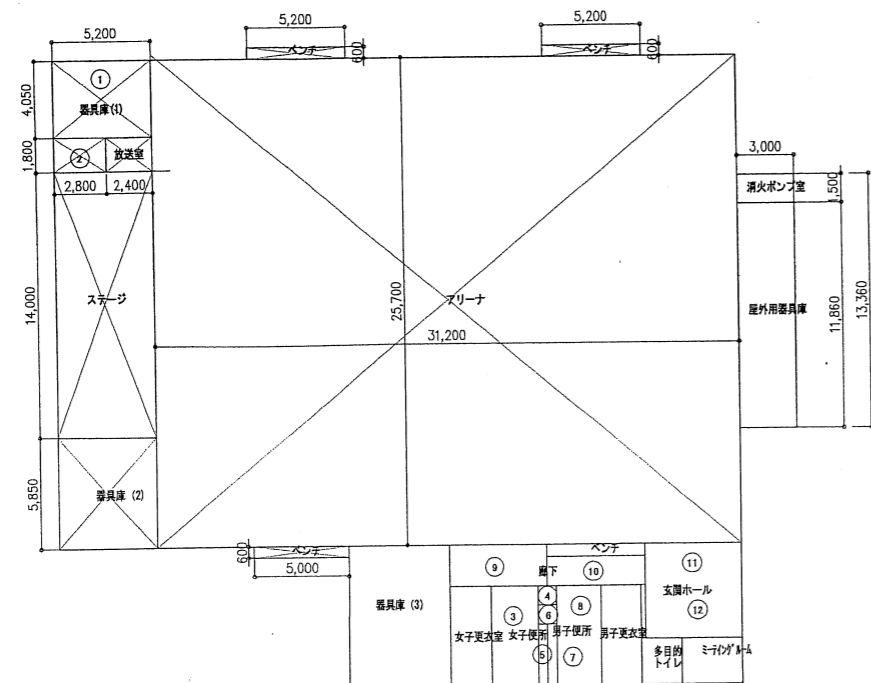
接続廊下 求積図 1/200

面積表

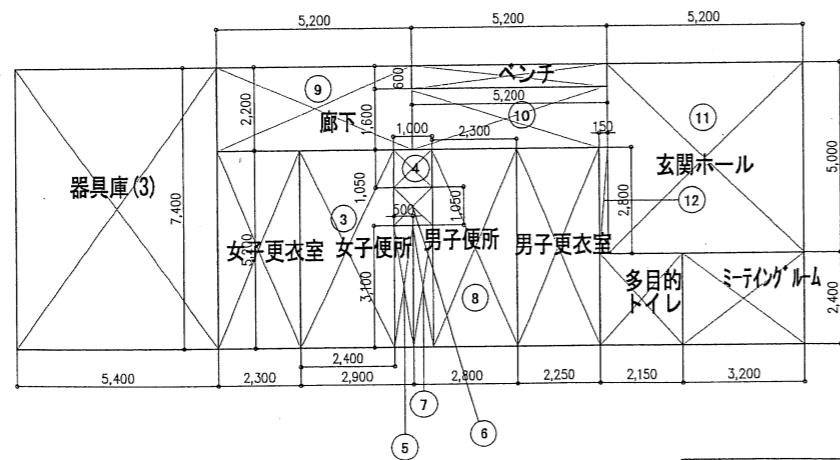
屋内運動場 1階床面積表(m2)			
①	10.40	25.70	267.28
②	5.20	0.60	3.12
③	5.20	0.60	3.12
④	26.00	25.70	668.20
⑤	3.00	13.36	40.08
⑥	7.40	21.00	155.40
⑦	5.00	0.60	3.00
計			1140.20
接続廊下 1階床面積表(m2)			
①	2.70	8.00	21.60
計			21.60
合計			1,161.80

屋内運動場 建築面積表(m2)			
1階床面積			
A	0.10	29.60	2.96
B	10.40	1.95	20.28
C	5.20	1.35	7.02
D	10.40	1.95	20.28
E	5.20	1.35	7.02
F	5.20	1.95	10.14
G	0.10	1.70	0.17
H	4.70	6.42	30.174
I	1.70	13.36	22.712
J	4.70	13.57	63.779
K	25.70	0.20	5.14
L	5.00	1.35	6.75
M	10.40	1.95	20.28
計			1,356.905
接続廊下 建築面積表(m2)			
N	2.70	6.05	16.00
計			16.00
合計			1,372.905

面積表



体育館 1/200

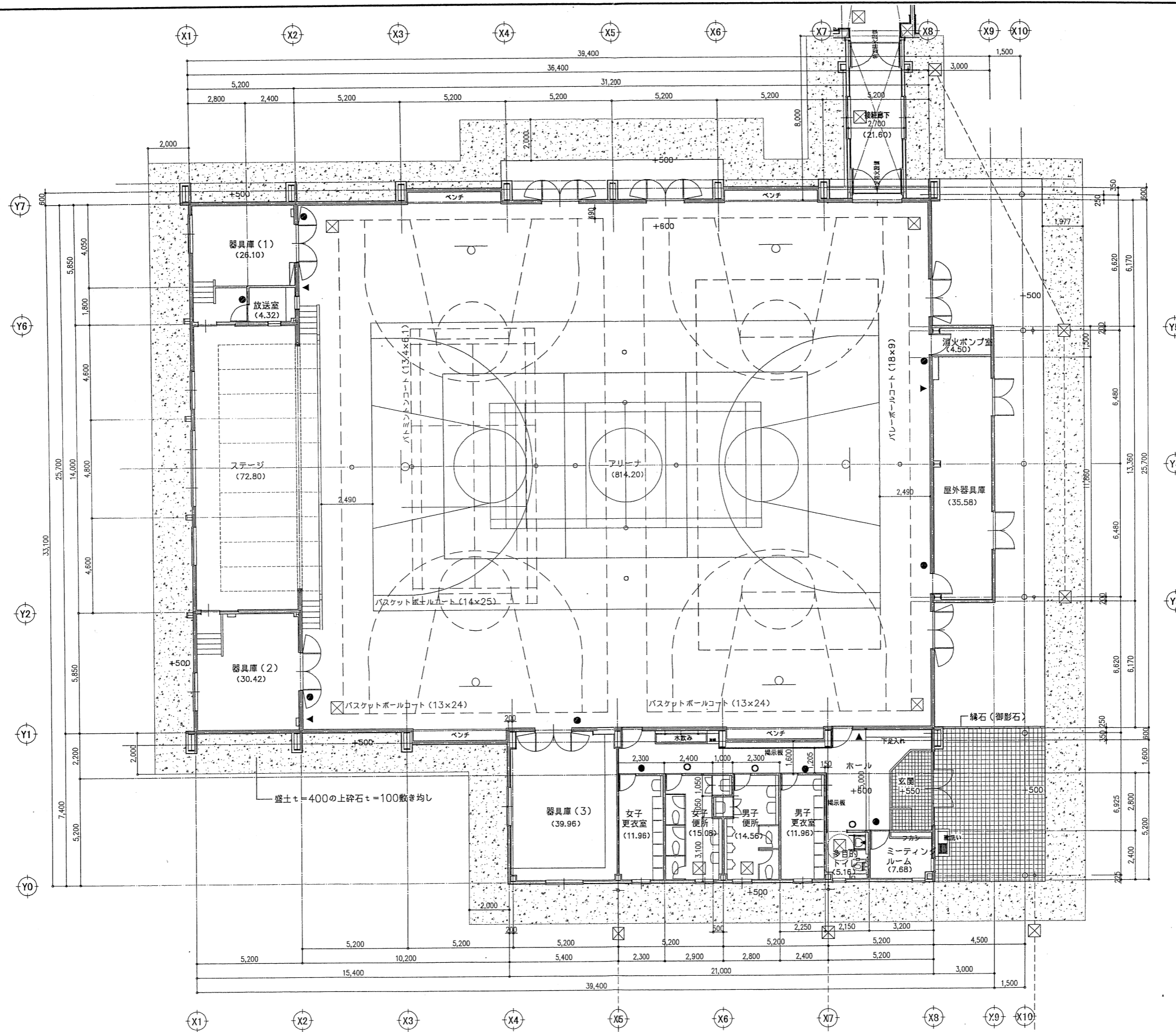


拡大図

田野畑村立田野畑中学校屋内運動場 面積表
各室床面積(m²)

器具庫(1)	①	5.20	4.05	21.06
	②	2.80	1.80	5.04
	①+②			26.10
放送室		2.40	1.80	4.32
ステージ		5.20	14.00	72.80
器具庫(2)		5.20	5.85	30.42
ベンチ		5.00	0.60	3.00
器具庫(3)		5.40	7.40	39.96
女子更衣室		2.30	5.20	11.96
女子便所	③	2.40	5.20	12.48
	④	1.00	1.05	1.05
	⑤	0.50	3.10	1.55
	③+④+⑤			15.08
男子便所	⑥	1.00	1.05	1.05
	⑦	0.50	3.10	1.55
	⑧	2.30	5.20	11.96
	⑥+⑦+⑧			14.56
男子更衣室		2.25	5.20	11.70
廊下	⑨	5.20	2.20	11.44
	⑩	5.20	1.60	8.32
	⑨+⑩			19.76
ベンチ		5.20	0.60	3.12
玄関ホール	⑪	5.20	5.00	26.00
	⑫	0.15	2.80	0.42
	⑪+⑫			26.42
多目的トイレ		2.15	2.40	5.16
ミーティングルーム		3.20	2.40	7.68
屋外器具庫		3.00	11.86	35.58
消火ポンプ室		3.00	1.50	4.50
アリーナ		31.20	25.70	801.84
ベンチ		5.20	0.60	3.12
ベンチ		5.20	0.60	3.12
	合計			1140.20

外部仕上表				内部仕上表										
名称	内容	名称	内容	室名	床	巾木	壁	天井	天井高	室名札	備考			
屋根	○ 本屋根 鉄骨小屋組ノ上 ハット型タルキ下地 カラー 木毛セメント板 t=25下張り アスファルトルーフィング940下葺 フッ素樹脂鋼板 t=0.4 段差 t=4.0ベフ裏張り (勾配3.5/10) 役物 フッ素樹脂鋼板 t=0.4加工取付 破風、鼻隠、雨押工、横包ミ、谷納メ、唐草水切アルミ 同上下地材 構造用合板 (特製) t=12+12 種: 軒種120×120塩ビ製EP、縦筋塩ビ製80ΦEP	ビット	○ 便所配管・流り廊下ビット (本工程全て) 床: 防水モルタル金ゴテ仕上 塗層500×500×300 (スパンに1ヶ所取付) 通水管VP(1/2)各スパンごとに取付、トラップφ19 床点検口1ヶ所に2ヶ取付 壁: 防水モルタル金ゴテ仕上 (外部面 現場発泡ウレタン t=25吹付) スラブ下: 現場発泡ウレタン t=25吹付 床点検口下漏れ	玄関	モルタル塗り金ゴテ下地 床用磁器質150角タイル張り 段差: 役物タイル	御影石 H50×30	木調下地 積層化粧壁材 t=15張り 木見切縁100×30 OS	LGS野縁下地 石膏ボード t=9.5の上 ビニールクロス張り	2,450		上取付: 御影石 H=70 W=80			
	○ 下屋、庇屋根 鉄骨小屋組ノ上 ハット型タルキ下地 木毛セメント板 t=25下張りアスファルトルーフィング940下葺 ハ合式瓦葺 (丸根カバー) フッ素樹脂鋼板 t=0.4 t=4.0ベフ裏張り 円筒葺き φ60 (勾配2.0/10) 雪止めアングル 50×50×4 焼付塗装		○ アリーナ下部 床: コンクリート金ゴテ目地切仕上 塗層: 防水モルタル金ゴテ仕上 500×500×300 2ヶ所 外部廻りRC壁: コンクリート打放し補修下地現場発泡ウレタン t=25吹付	ホール	モルタル塗り下地 天然木化粧複合フローリング t=15張り (クッション付き)	木製 100*25 OS	木調下地 積層化粧壁材 t=15張り 木見切縁100×30 OS	LGS野縁下地 石膏ボード t=9.5の上 ビニールクロス張り	2,400		木製下足入れ: ユニボード 地示板: H1.5×W2.7、H1.5×W5.4 水飲みステンレス張り: ユニボード 掃除用具入れ 防錆化粧板457×610 3ヶ			
軒天井	○ 本屋根 LGS野縁下地けい酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り EP (2) ○ 廻縁 アルミ既製品 ○ 下屋、庇廻り: 同上	保温材	○ 土間下 砕石地盤ノ上砂締メ t=30 ポリエチレンフィルム t=0.15敷込合成樹脂発泡材 t=25敷込日類2種 (ポーチ、スロープ除く)	多目的 トイレ	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木調下地 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ビタ ○	腰板: ステンレス加工 t=1.2 大型化防錆化粧板457×914 樹脂製手摺: 洗面用、可動式、L型手摺 (手摺補強アングル50×50×3.2) 床下化粧点検口600角			
	○ 本体部分 鉄骨鋼下地透湿防水シートの上押出成形セメント板 t=15 ヨコ張り (金具止め) 塗装品 空気層10mm (ジョイントシーリング充填) 出隅、入隅: コーナー材は共材 (シーリング充填) 水切: アルミ既製品 サッシュ幕板 アルミパネル (アクリル) t=2.0加工 裏ロックウール t=35吹付 表面幕板 焼付鋼板 t=1.6加工ジュラクロン仕上 裏ロックウール t=35吹付 裏面サッシュ幕板 焼付鋼板 t=1.6加工ジュラクロン仕上 裏ロックウール t=35吹付 裏切縁: フッ素樹脂鋼板 t=0.6加工包み L 170-60 構造用合板2+12下地 金物取合シーリング充填		○ 外壁廻り 防湿フィルム+グラスウールA50+50入り 24K (クロス) ○ サッシ廻り S、RC部: 現場発泡ウレタン充填 ○ 下屋、控室: 天井裏 外壁に面する天井裏 グラスウール 24K t=50+50 (クロス) 敷込	木材	○ 木調下地 松45×40 @303タテ ヨコ、キャットウォーク上部25×40 @303 ○ 柱コナ、出隅入隅 特記なき限り杉上小45×45丸面取加工取付 OS、SOP ○ 額縁 米つが上小 t=25加工 OS、SOP ○ 木製器具枠 米つが上小加工 OS、SOP ○ C、BOX 米つが t=25加工 OS、SOP ○ 構造材 特記なき限り松1等材トスル コンクリートに接する部分防虫処理材 又はクレオソート塗 ○ 造作材 特記なき限り米つが上小節材トスル	女子便所	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木調下地 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ビタ ○	腰板: ステンレス加工 t=1.2 防錆化粧板457×610 2ヶ 床下化粧点検口600角	
外壁	○ 基礎廻り コンクリート打放し補修ノ上アクリル系トップコート吹付仕上	一般金物及び その他	○ 軽鉄間仕切 スタット65形(65×45×0.8)@303振れ止め25×10×1.2@1200 スタット90形(90×45×0.8)@303振れ止め25×10×1.2@1200	男子更衣室	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木調下地 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ○	木製更衣室: ユニボード 腰板: ステンレス加工 t=1.2 防錆化粧板457×610			
	○ 外側 半外付け用アルミサッシ (アクリル) (A種) (出外壁より30mm以上) フロントサッシュ (アクリル) 見込み100 ステンレス可動網戸 (SUS) 出入口サッシュ 全てステンレス スチールサッシュ 見込み100 ○ 枠周囲 結露防止: 現場発泡ウレタン充填 RC部: 防水モルタル詰め ○ 硝子 透明硝子 FL3 型板硝子 F4 ミラーガラス 網入層板 PW6.8、学校用強化硝子 4		○ ライニング 軽鉄間仕切 90形 ○ 軽鉄天井野縁 屋外25形 室内19形とする ○ ステンレス材 特記なき限りSUS304材とする ○ 床見切 ドア下部 ステンレス G-40×20 ○ 床下点検口 床下点検口: 各床仕様用 600角(埋付) (7+1減) 箇所 アルミ製 ○ 天井点検口 検査: 化粧アルミハッチ450角 (10+2減) ヌ所 1000×1000 1ヶ所 ○ 天井見切材 特記なき限り塩ビ製トスル ○ シーリング材 特記なき限りポリサルファイド系カラーシーリング材とする ○ 車椅子用便所 大便器用手摺、NS-CM1、NS-T7070、洗面用手摺 NS-L1 ○ ノコギリ階段金物 ステンレス製 ○ SUS諸板 SUS t=1.2加工 取合ポリサルファイド系シーリング ○ 水飲み ステンレス製 (ユニボード下地) ○ 鍵箱 既製品 60本用 1個 ○ 消火器 ABC粉末消火器10型 5個所 (手摺係含む) ○ 室名札 平付、突出型木製 250×80 9箇所 ○ 便所ピクトサイン 便所ピクトサイン: 木製 240×210 3箇所 平付、突出型及び位置は現場指示 ○ 掲示板 木調下地ノ上 構造用合板 t=12下地標示用クロス貼 アルミ枠取付	○ 軽鉄間仕切 90形 ○ ステンレス材 特記なき限りSUS304材とする ○ 床見切 ドア下部 ステンレス G-40×20 ○ 床下点検口 床下点検口: 各床仕様用 600角(埋付) (7+1減) 箇所 アルミ製 ○ 天井点検口 検査: 化粧アルミハッチ450角 (10+2減) ヌ所 1000×1000 1ヶ所 ○ 天井見切材 特記なき限り塩ビ製トスル ○ シーリング材 特記なき限りポリサルファイド系カラーシーリング材とする ○ 車椅子用便所 大便器用手摺、NS-CM1、NS-T7070、洗面用手摺 NS-L1 ○ ノコギリ階段金物 ステンレス製 ○ SUS諸板 SUS t=1.2加工 取合ポリサルファイド系シーリング ○ 水飲み ステンレス製 (ユニボード下地) ○ 鍵箱 既製品 60本用 1個 ○ 消火器 ABC粉末消火器10型 5個所 (手摺係含む) ○ 室名札 平付、突出型木製 250×80 9箇所 ○ 便所ピクトサイン 便所ピクトサイン: 木製 240×210 3箇所 平付、突出型及び位置は現場指示 ○ 掲示板 木調下地ノ上 構造用合板 t=12下地標示用クロス貼 アルミ枠取付	男子更衣室	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木調下地 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ○	木製更衣室: ユニボード 腰板: ステンレス加工 t=1.2 防錆化粧板457×610		
開口部	○ 外側 半外付け用アルミサッシ (アクリル) (A種) (出外壁より30mm以上) フロントサッシュ (アクリル) 見込み100 ステンレス可動網戸 (SUS) 出入口サッシュ 全てステンレス スチールサッシュ 見込み100 ○ 枠周囲 結露防止: 現場発泡ウレタン充填 RC部: 防水モルタル詰め ○ 硝子 透明硝子 FL3 型板硝子 F4 ミラーガラス 網入層板 PW6.8、学校用強化硝子 4	その他	○ 軽鉄間仕切 スタット65形(65×45×0.8)@303振れ止め25×10×1.2@1200 スタット90形(90×45×0.8)@303振れ止め25×10×1.2@1200	ミーティング ルーム	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木調下地 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ○	キャットウォーク下 LGS野縁下地 ラワンベニヤ t=4.0捨張り シナベニヤ t=5.5目透かし張りOS 見え掛かり鉄部 錆止めの上SOP			
	○ 基礎廻り コンクリート打放し補修ノ上アクリル系トップコート吹付仕上		○ 軽鉄間仕切 90形 ○ ステンレス材 特記なき限りSUS304材とする ○ 床見切 ドア下部 ステンレス G-40×20 ○ 床下点検口 床下点検口: 各床仕様用 600角(埋付) (7+1減) 箇所 アルミ製 ○ 天井点検口 検査: 化粧アルミハッチ450角 (10+2減) ヌ所 1000×1000 1ヶ所 ○ 天井見切材 特記なき限り塩ビ製トスル ○ シーリング材 特記なき限りポリサルファイド系カラーシーリング材とする ○ 車椅子用便所 大便器用手摺、NS-CM1、NS-T7070、洗面用手摺 NS-L1 ○ ノコギリ階段金物 ステンレス製 ○ SUS諸板 SUS t=1.2加工 取合ポリサルファイド系シーリング ○ 水飲み ステンレス製 (ユニボード下地) ○ 鍵箱 既製品 60本用 1個 ○ 消火器 ABC粉末消火器10型 5個所 (手摺係含む) ○ 室名札 平付、突出型木製 250×80 9箇所 ○ 便所ピクトサイン 便所ピクトサイン: 木製 240×210 3箇所 平付、突出型及び位置は現場指示 ○ 掲示板 木調下地ノ上 構造用合板 t=12下地標示用クロス貼 アルミ枠取付	アリーナ	コンクリート金ゴテ下地 鋼製根太組下地 (H=700) 構造用合板 t=15 積層フローリングボード t=18 ウレタン塗装 (3) ネオプレンゴム 18×20	木製 100*25 OS	木調下地 (一部LGS) 下地 積層化粧壁材 t=15張り 上部有孔積層化粧材 t=15張り (梁型共) 寒冷紗裏張り	キャットウォーク下 LGS野縁下地 ラワンベニヤ t=4.0捨張り シナベニヤ t=5.5目透かし張りOS 見え掛かり鉄部 錆止めの上SOP	6,000		床下点検口 600角 4ヶ所 木製梯子: 天端集成材 t=30 OS (LGS鋼下地ラワン合板 t=5.5捨張り) シナベニヤ t=5.5目透かし張りOS 紅白専受ステンレスフック上下 アリーナ三方 @900 140ヶ 移動式木製階段 (OS) 1ヶ所 W=1,000×H1,000			
玄関ポーチ	○ ポーチ床 モルタル塗り下地200角磁器タイル貼 ○ 靴洗い ステンレスグレーチング500×500 2枚 アサ掛けφ71ヶ所付 立上壁 コンクリート打放し補修下地アクリル系トップコート吹付仕上 水槽内防水モルタル金ゴテ仕上 E-60-70付 配管立上りカバー ステンレスHL t=1.0加工 W=120、H=650 1ヶ所取付 金物廻りシーリング充填	その他	○ 建築材料等の使用制限 (建築物のシックハウス対策) 全ての製品は環境対応材料品 (4☆☆☆☆) とする。(各居室の化学物質放出量許容値) (ホルムアルデヒド 0.08ppm以下、トルエン 0.07ppm以下、キシレン 0.20ppm以下、 パラジクロロベンゼン 0.04ppm以下) ・化粧石膏ボード: ホルムアルデヒド吸収分解仕様品 ・家具における対策: 第4種製品とする ・器具における対策: 第4種製品とする ・施工完了後化学物質放出量調査を実施のこと。(3居室) (ホルムアルデヒド: 2検体 キシレン、トルエン、パラジクロロベンゼン: 2検体) 報告書提出2部	ステージ	コンクリート金ゴテ下地 鋼製根太組下地 (H=1,000) 構造用合板 t=15 積層フローリングボード t=18 ウレタン塗装 (3) ネオプレンゴム 18×20	木製 100*25 SOP	木調下地 (一部LGS) 下地 木調下地有孔シナ合板 t=5.5目透かし張り SOP 仕上 (900×900加工) 寒冷紗裏張り グラスウール入り t=50+50 24K (クロス)	見え掛かり鉄部 錆止めの上SOP	6,000		木製階段 (OS) 2ヶ所 ステージ下: 取納万能台車 5.0m 5台 ステージ上: 取納台車 5.0m 5台 ステージ三方枠 集成材 OS ステージ上りコマチ 集成材 OS			
	○ 犬走り コンクリート土間 (砕石 t=150、鉄筋φ10タテヨコ@200)の上金ゴテ仕上 目地切仕上 ○ 階段 コンクリート金ゴテ仕上 目地切仕上 (面取り) ○ 建物周囲 盛土の上砕石敷き均し t=100		○ 校舎 ステンレス下地 ステンレス t=1.5ボックス加工 (アリーナφ1000 玄関φ450) スコッチカルフィルム貼の上 ブロンズプレート (校舎) (アリーナφ800玄関φ400取付) ○ 施設文字 ステンレス箱文字120角 (16文字) ○ 旗受金物 ステンレス既製品 1組 ○ 定礎板 御影石 600*450 文字彫込	○ 建築材料等の使用制限 (建築物のシックハウス対策) 全ての製品は環境対応材料品 (4☆☆☆☆) とする。(各居室の化学物質放出量許容値) (ホルムアルデヒド 0.08ppm以下、トルエン 0.07ppm以下、キシレン 0.20ppm以下、 パラジクロロベンゼン 0.04ppm以下) ・化粧石膏ボード: ホルムアルデヒド吸収分解仕様品 ・家具における対策: 第4種製品とする ・器具における対策: 第4種製品とする ・施工完了後化学物質放出量調査を実施のこと。(3居室) (ホルムアルデヒド: 2検体 キシレン、トルエン、パラジクロロベンゼン: 2検体) 報告書提出2部	器具庫 (1)	モルタル塗り下地 天然木化粧複合フローリング t=15張り (クッション付き)	木製 100*25 SOP	木調下地 シナ合板 t=5.5 目透かし張り SOP (900×900加工)	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5 直張り	3,500	木製 ○	木製階段 OS スチールトラップ OP		
物周囲	○ 犬走り コンクリート土間 (砕石 t=150、鉄筋φ10タテヨコ@200)の上金ゴテ仕上 目地切仕上 ○ 階段 コンクリート金ゴテ仕上 目地切仕上 (面取り) ○ 建物周囲 盛土の上砕石敷き均し t=100	その他	○ 校舎 ステンレス下地 ステンレス t=1.5ボックス加工 (アリーナφ1000 玄関φ450) スコッチカルフィルム貼の上 ブロンズプレート (校舎) (アリーナφ800玄関φ400取付) ○ 施設文字 ステンレス箱文字120角 (16文字) ○ 旗受金物 ステンレス既製品 1組 ○ 定礎板 御影石 600*450 文字彫込	器具庫 (2)	モルタル塗り下地 天然木化粧複合フローリング t=15張り (クッション付き)	木製 100*25 SOP	木調下地 シナ合板 t=5.5 目透かし張り SOP (900×900加工)	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5 直張り	3,500	木製 ○	木製階段 OS スチールトラップ OP 2ヶ所 天井点検口アルミ1000×1000 両開き			
	○ 校舎 ステンレス下地 ステンレス t=1.5ボックス加工 (アリーナφ1000 玄関φ450) スコッチカルフィルム貼の上 ブロンズプレート (校舎) (アリーナφ800玄関φ400取付) ○ 施設文字 ステンレス箱文字120角 (16文字) ○ 旗受金物 ステンレス既製品 1組 ○ 定礎板 御影石 600*450 文字彫込		○ 建築材料等の使用制限 (建築物のシックハウス対策) 全ての製品は環境対応材料品 (4☆☆☆☆) とする。(各居室の化学物質放出量許容値) (ホルムアルデヒド 0.08ppm以下、トルエン 0.07ppm以下、キシレン 0.20ppm以下、 パラジクロロベンゼン 0.04ppm以下) ・化粧石膏ボード: ホルムアルデヒド吸収分解仕様品 ・家具における対策: 第4種製品とする ・器具における対策: 第4種製品とする ・施工完了後化学物質放出量調査を実施のこと。(3居室) (ホルムアルデヒド: 2検体 キシレン、トルエン、パラジクロロベンゼン: 2検体) 報告書提出2部	器具庫 (3)	モルタル塗り下地 天然木化粧複合フローリング t=15張り (クッション付き)	木製 100*25 SOP	木調下地 シナ合板 t=5.5 目透かし張り SOP (900×900加工)	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5 直張り	2,400	木製 ○	木製階段 OS			
材料	○ 屋根: ダンツキルーフ240同等品 ○ 屋根: 丸根瓦葺TRX同等品 ○ 外壁: 押出成形板15mm厚アクリル系同等品 (10年補償) ○ 鋼製床: スリベース101、301同等品 ○ 床: 大型積層フローリング18加工同等品 ○ 壁: 天然木化粧合板タモ15クリア塗装品ダイヤウォール同等品	防火認定	屋根: 金屋板+木毛板 t=25 耐火 FP030RF号 屋根30分 外壁: 押出成形セメント板 t=15 QF045BE-9226 外壁45分 接続部下部分防火戸上部壁: LGS65下地9.5TB+9.5TSH (両面張り) QF045NP-9009 けい酸カルシウム板 t=6.0 NM-8578	屋外器具庫	モルタル塗り金ゴテ仕上 防塵塗料仕上 (目地切)	木製 100*25 SOP	木調下地 シナ合板 t=5.5目透かし張り SOP	LGS野縁下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り EP (2)	2,400	木製 ○ 2				
	○ 屋根: ダンツキルーフ240同等品 ○ 屋根: 丸根瓦葺TRX同等品 ○ 外壁: 押出成形板15mm厚アクリル系同等品 (10年補償) ○ 鋼製床: スリベース101、301同等品 ○ 床: 大型積層フローリング18加工同等品 ○ 壁: 天然木化粧合板タモ15クリア塗装品ダイヤウォール同等品		屋根: 金屋板+木毛板 t=25 耐火 FP030RF号 屋根30分 外壁: 押出成形セメント板 t=15 QF045BE-9226 外壁45分 接続部下部分防火戸上部壁: LGS65下地9.5TB+9.5TSH (両面張り) QF045NP-9009 けい酸カルシウム板 t=6.0 NM-8578	放送室	モルタル塗り金ゴテ仕上 防塵塗料仕上 (目地切)	木製 100*25 SOP	木調下地 シナ合板 t=5.5目透かし張り SOP	LGS野縁下地 有孔シナ合板 t=5.5直目透かし張り SOP寒冷紗裏張り グラスウール入り t=50+50 (千鳥)	2,500	木製 ○	木製カウンター: 集成材 t=30 OS			
体育器具	コートライン メインバスケットボールコート 1面 サブメインバスケットボールコート 2面 メインバレーボールコート 1面 サブメインバレーボールコート 1面 メインバドミントン 1面 サブバドミントン 1面	床金具及び基礎 バレーボール 4ヶ所 バドミントン 4ヶ所 その他 天吊用電動式バスケットゴール 1対 壁面固定折畳式バスケットゴール板 2対	防球ネット セパレーターネット 1面 サイド防球ネット 2面 ステージ前防球ネット 1面 裏側防球ネット 1面	キャットウォーク 2倍ヒダ 2ヶ 一文字 2倍ヒダ 1ヶ ドン断り2倍ヒダ電動式 1ヶ バック 2倍ヒダ 1ヶ 見切帯 2倍ヒダ 2ヶ カスミ帯 2倍ヒダ 1ヶ 紅白帯 H1.8×W9.0 9枚 紅白帯 H1.8×W2.0 1枚	予備パト 8m 2ヶ 照明パト 8m 1ヶ	暗幕 1.5倍ヒダ キャットウォーク部暗幕 4.75×2.8 (引分け) 8ヶ 電動式 キャットウォーク部暗幕 4.85×2.8 (引分け) 2ヶ 電動式 キャットウォーク部暗幕 4.5×3.7 (片引き) 2ヶ 電動式 1階入り口部暗幕 2.4×1.7 (引分け) 4ヶ 手動式 1階入り口部暗幕 2.7×1.7 (引分け) 1ヶ 手動式 1階入り口部暗幕 1.8×1.7 (引分け) 2ヶ 手動式 ステージ部暗幕 1.8×0.88 (引分け) 2ヶ 紐付手動式 ステージ部暗幕 3.6×0.88 (引分け) 1ヶ 紐付手動式	放送室	モルタル塗り金ゴテ仕上 防塵塗料仕上 (目地切)	木製 100*25 SOP	木調下地 シナ合板 t=5.5目透かし張り SOP	LGS野縁下地 有孔シナ合板 t=5.5直目透かし張り SOP寒冷紗裏張り グラスウール入り t=50+50 (千鳥)	2,500	木製 ○	木製カウンター: 集成材 t=30 OS
	コートライン メインバスケットボールコート 1面 サブメインバスケットボールコート 2面 メインバレーボールコート 1面 サブメインバレーボールコート 1面 メインバドミントン 1面 サブバドミントン 1面	床金具及び基礎 バレーボール 4ヶ所 バドミントン 4ヶ所 その他 天吊用電動式バスケットゴール 1対 壁面固定折畳式バスケットゴール板 2対	防球ネット セパレーターネット 1面 サイド防球ネット 2面 ステージ前防球ネット 1面 裏側防球ネット 1面	キャットウォーク 2倍ヒダ 2ヶ 一文字 2倍ヒダ 1ヶ ドン断り2倍ヒダ電動式 1ヶ バック 2倍ヒダ 1ヶ 見切帯 2倍ヒダ 2ヶ カスミ帯 2倍ヒダ 1ヶ 紅白帯 H1.8×W9.0 9枚 紅白帯 H1.8×W2.0 1枚	予備パト 8m 2ヶ 照明パト 8m 1ヶ	暗幕 1.5倍ヒダ キャットウォーク部暗幕 4.75×2.8 (引分け) 8ヶ 電動式 キャットウォーク部暗幕 4.85×2.8 (引分け) 2ヶ 電動式 キャットウォーク部暗幕 4.5×3.7 (片引き) 2ヶ 電動式 1階入り口部暗幕 2.4×1.7 (引分け) 4ヶ 手動式 1階入り口部暗幕 2.7×1.7 (引分け) 1ヶ 手動式 1階入り口部暗幕 1.8×1.7 (引分け) 2ヶ 手動式 ステージ部暗幕 1.8×0.88 (引分け) 2ヶ 紐付手動式 ステージ部暗幕 3.6×0.88 (引分け) 1ヶ 紐付手動式	放送室	モルタル塗り金ゴテ仕上 防塵塗料仕上 (目地切)	木製 100*25 SOP	木調下地 シナ合板 t=5.5目透かし張り SOP	LGS野縁下地 有孔シナ合板 t=5.5直目透かし張り SOP寒冷紗裏張り グラスウール入り t=50+50 (千鳥)	2,500	木製 ○	木製カウンター: 集成材 t=30 OS
地下受水槽	コートライン メインバスケットボールコート 1面 サブメインバスケットボールコート 2面 メインバレーボールコート 1面 サブメインバレーボールコート 1面 メインバドミントン 1面 サブバドミントン 1面	床金具及び基礎 バレーボール 4ヶ所 バドミントン 4ヶ所 その他 天吊用電動式バスケットゴール 1対 壁面固定折畳式バスケットゴール板 2対	防球ネット セパレーターネット 1面 サイド防球ネット 2面 ステージ前防球ネット 1面 裏側防球ネット 1面	キャットウォーク 2倍ヒダ 2ヶ 一文字 2倍ヒダ 1ヶ ドン断り2倍ヒダ電動式 1ヶ バック 2倍ヒダ 1ヶ 見切帯 2倍ヒダ 2ヶ カスミ帯 2倍ヒダ 1ヶ 紅白帯 H1.8×W9.0 9枚 紅白帯 H1.8×W2.0 1枚	予備パト 8m 2ヶ 照明パト 8m 1ヶ	暗幕 1.5倍ヒダ キャットウォーク部暗幕 4.75×2.8 (引分け) 8ヶ 電動式 キャットウォーク部暗幕 4.85×2.8 (引分け) 2ヶ 電動式 キャットウォーク部暗幕 4.5×3.7 (片引き) 2ヶ 電動式 1階入り口部暗幕 2.4×1.7 (引分け) 4ヶ 手動式 1階入り口部暗幕 2.7×1.7 (引分け) 1ヶ 手動式 1階入り口部暗幕 1.8×1.7 (引分け) 2ヶ 手動式 ステージ部暗幕 1.8×0.88 (引分け) 2ヶ 紐付手動式 ステージ部暗幕 3.6×0.88 (引分け) 1ヶ 紐付手動式	地下受水槽	モルタル塗り金ゴテ仕上		防水モルタル塗り金ゴテ仕上		スラブ下現場発泡ウレタン t=25吹付		



- ☒ 床下点検口 600角 アルミ化粧ハッチ 7ヶ所
- ▲ 消火器ボックス位置(消火器10型共) 4ヶ所
- 室名札 木製 260×80×30
- ピクト 木製 240×210×30
- (m²) 内は床面積を示す

1階 平面図 1:100

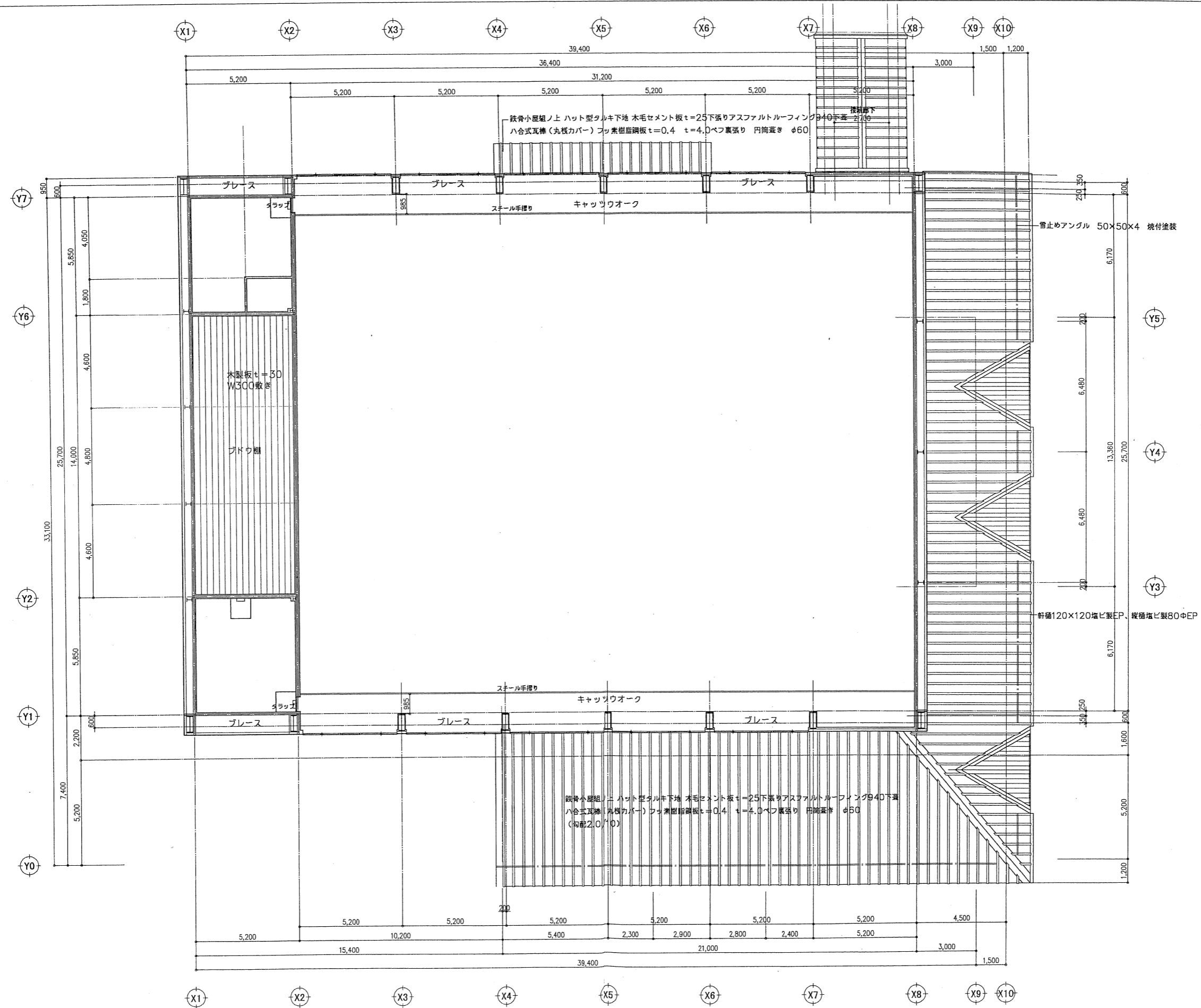
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検閲	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事(建築工事)
図面内容	1階 平面図

一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 10



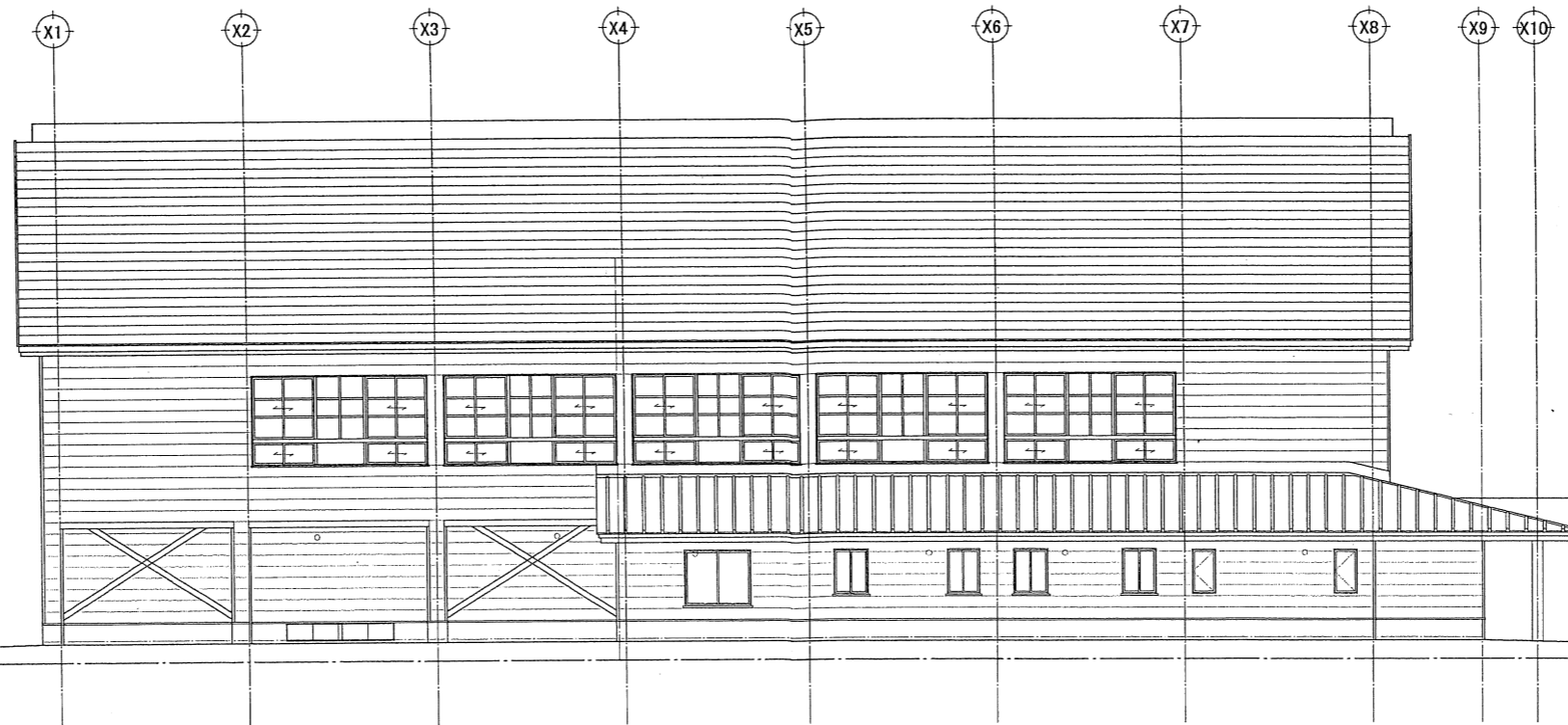
キヤッツウオーク 平面図 1:100

特記	
改訂番号	
改訂月日	
改訂内容	

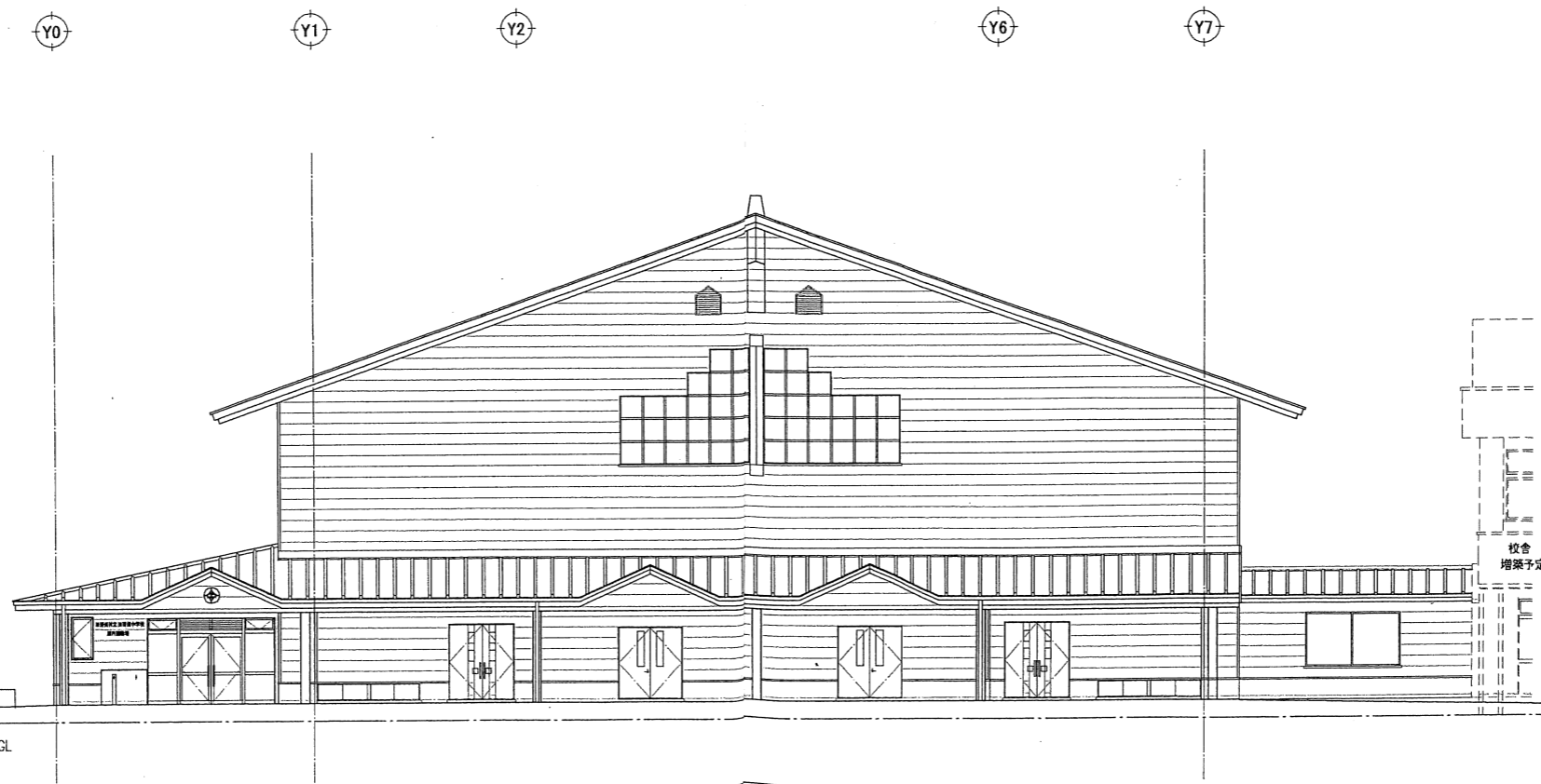
承認	番査	検図	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事(建築工事)
図面内容	キヤッツウオーク平面図

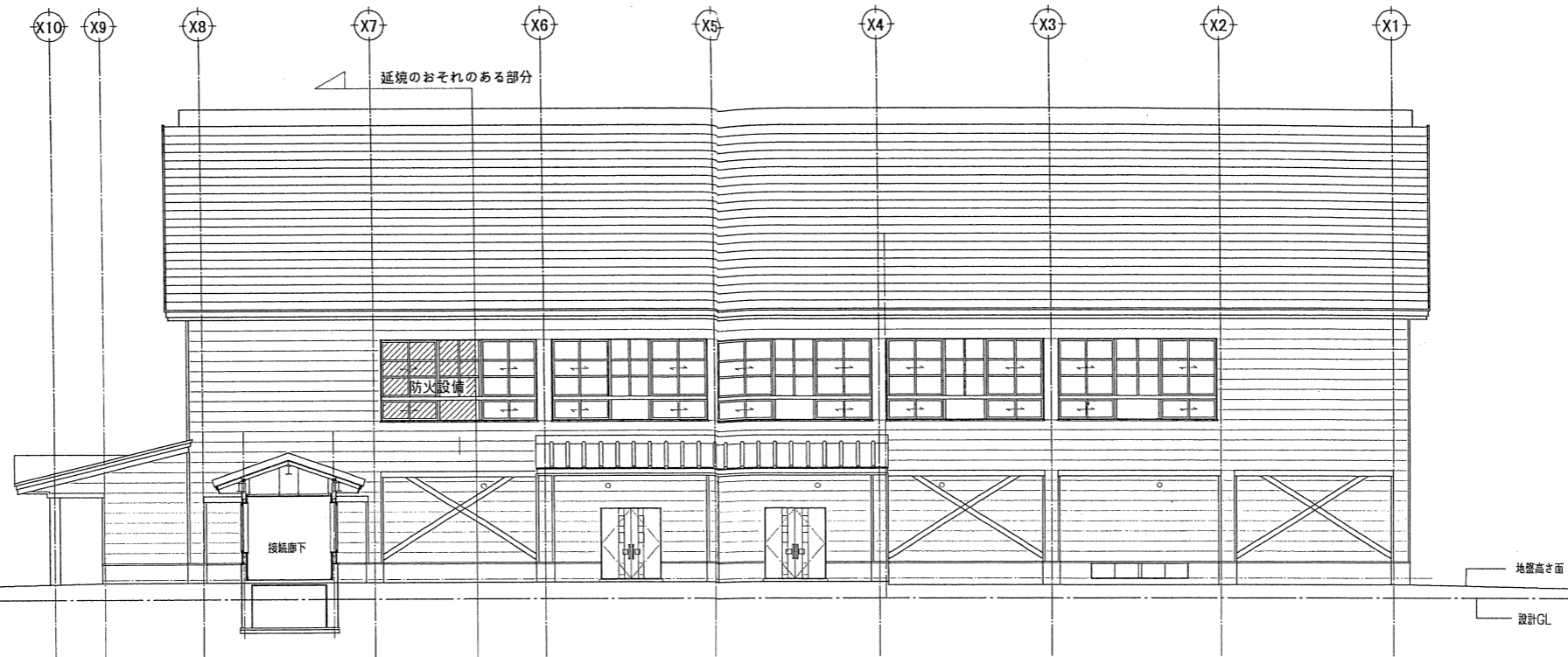
一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 11



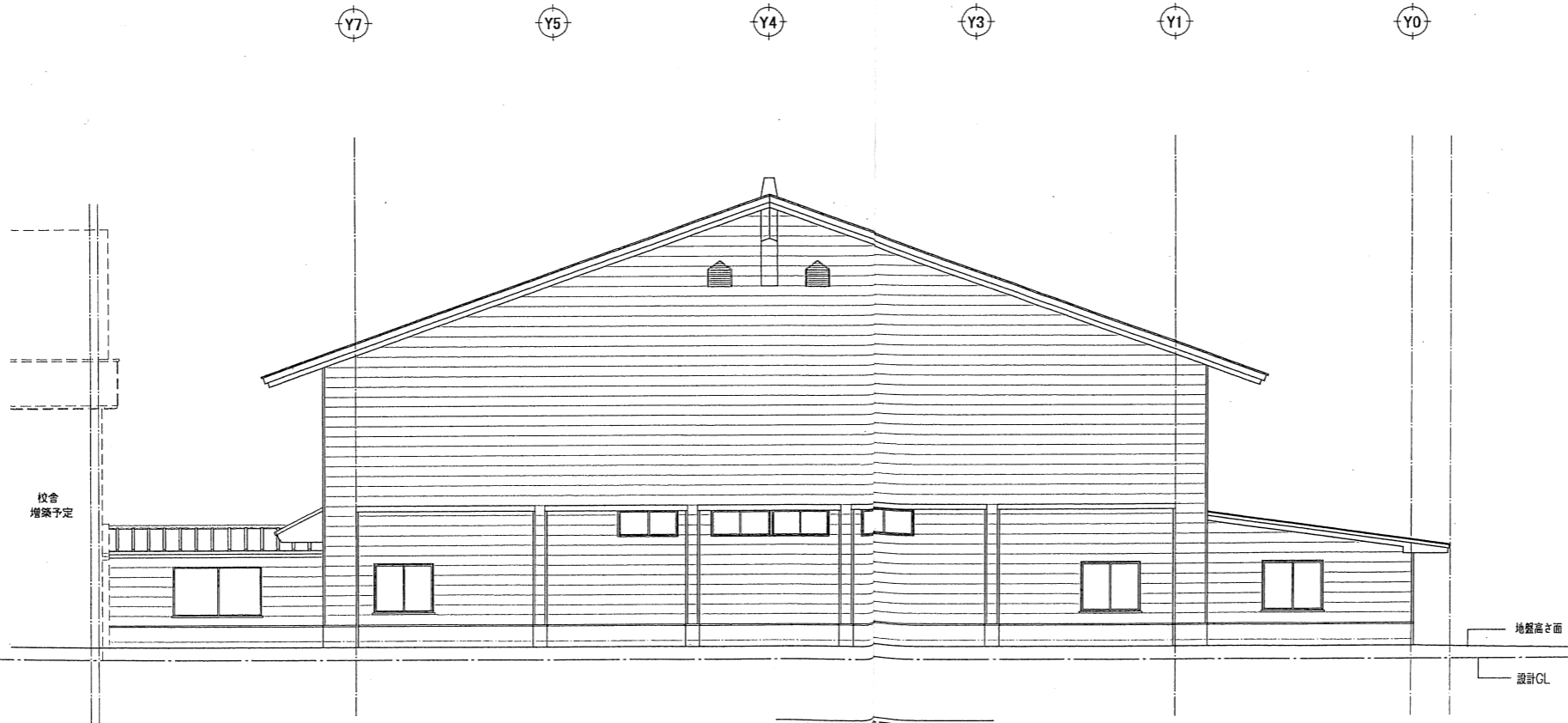
西側立面图 1:100



南側立面图 1:100



東側立面図 1:100



北側立面図 1:100

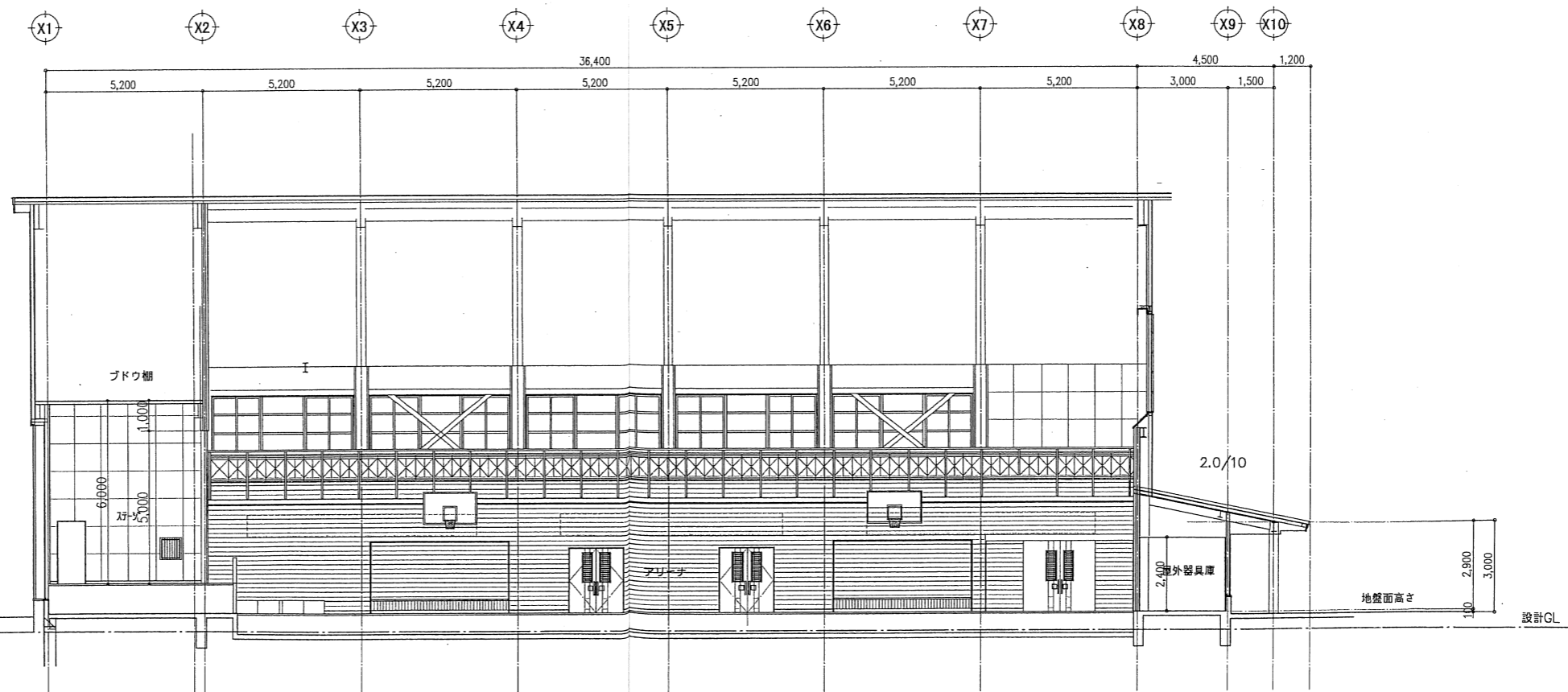
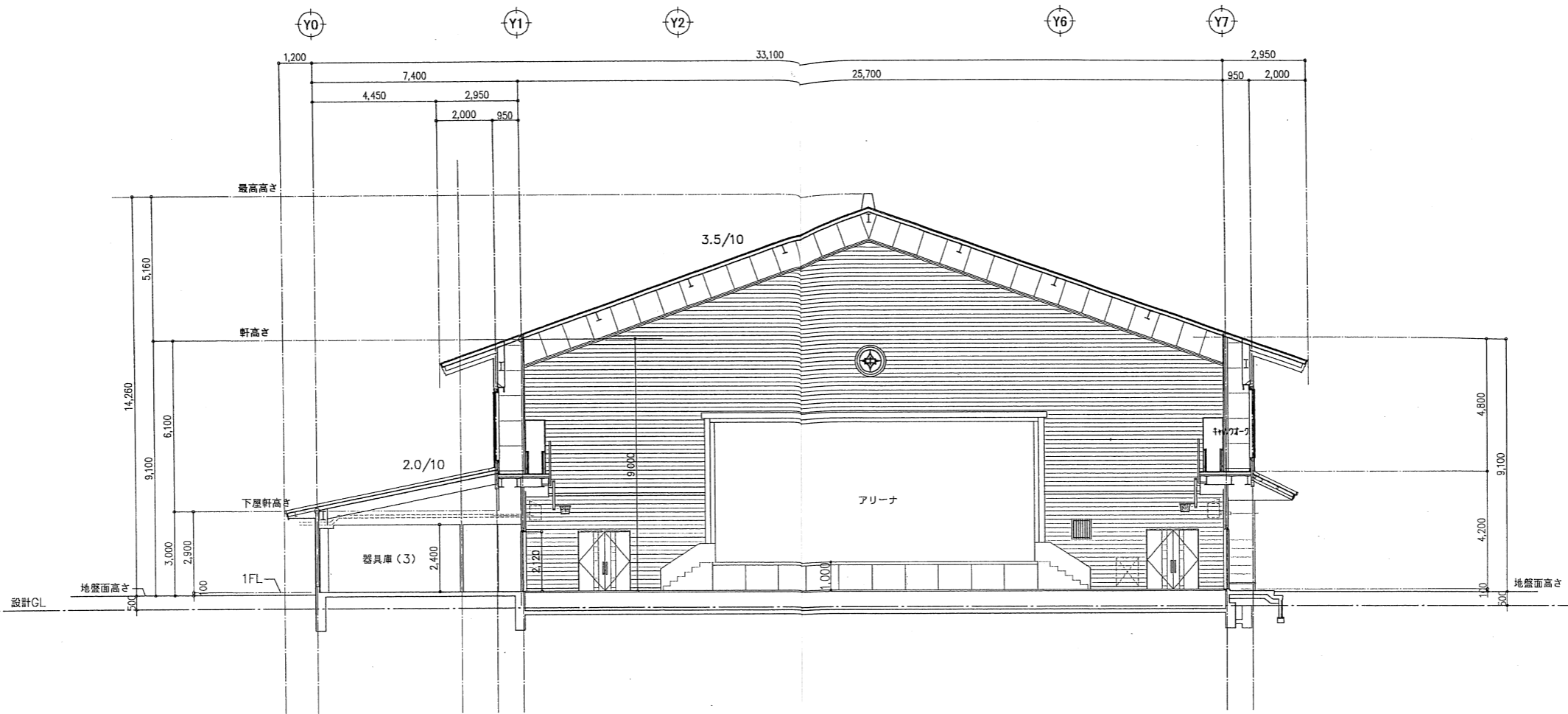
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検図	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	北・西側立面図

一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 13



断面図 1:100

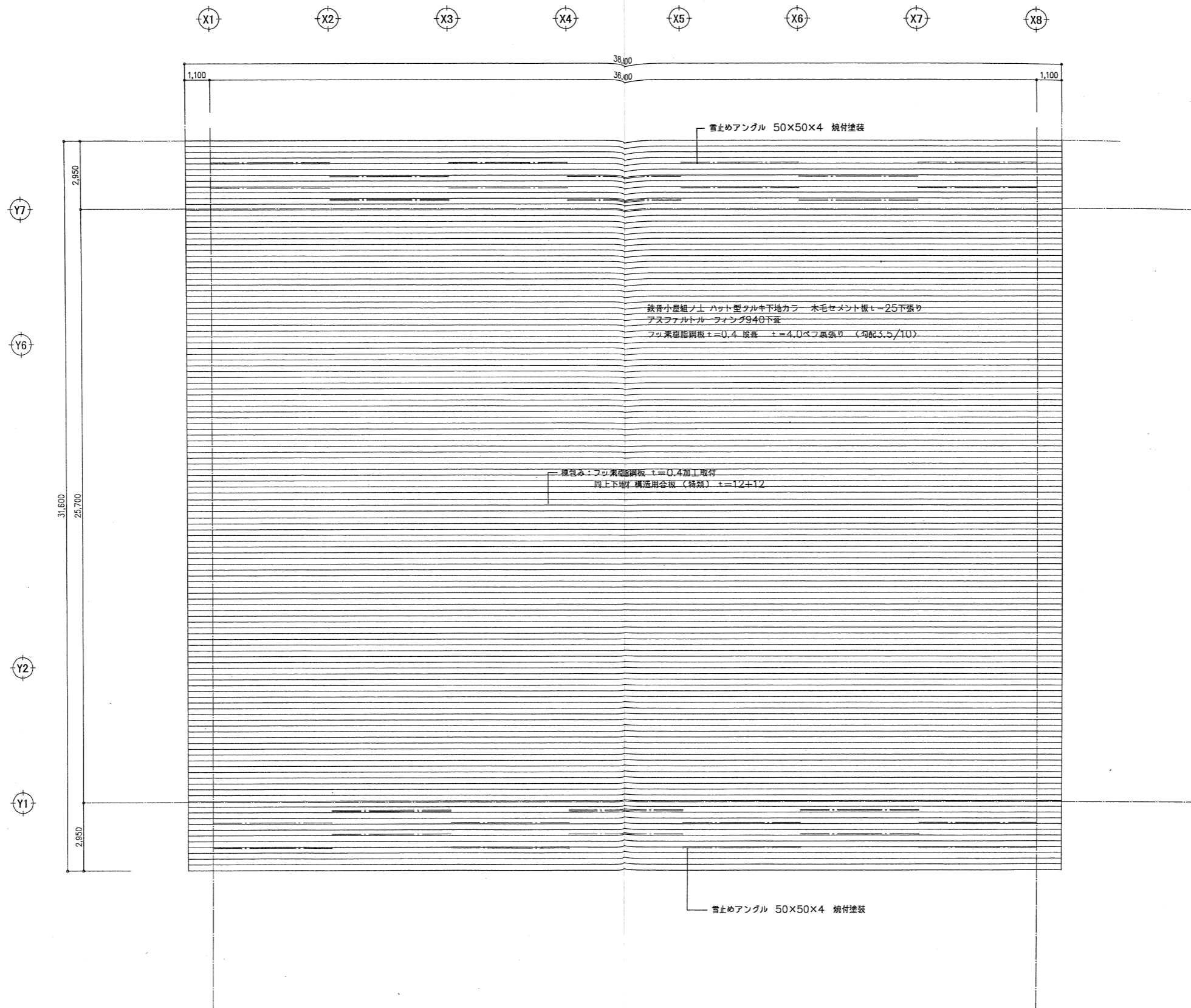
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検図	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	断面図

一級建築士 登録第32339号 小川 博	契約番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 14



屋根伏図 1:100

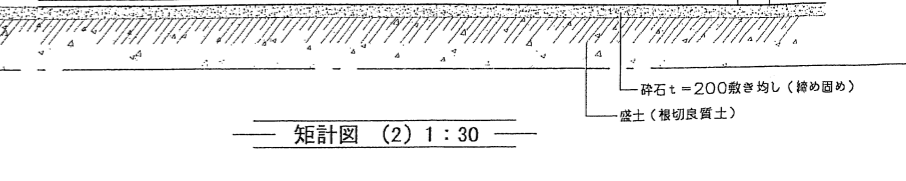
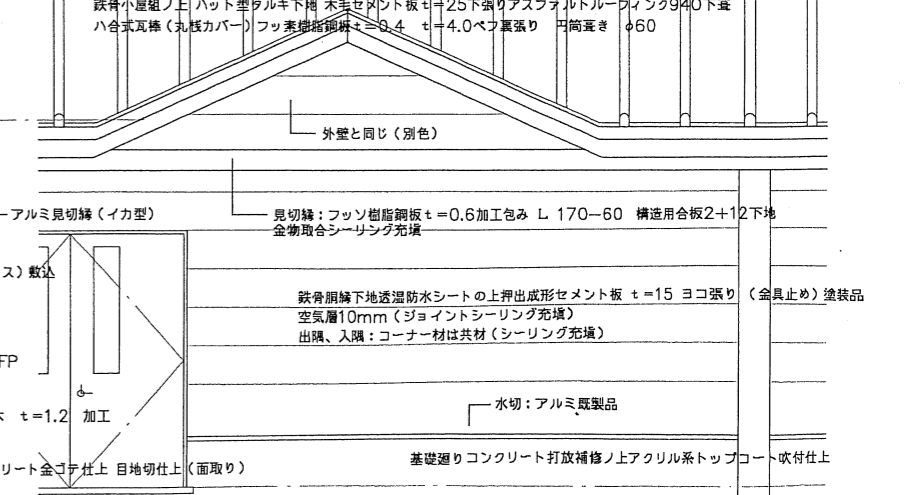
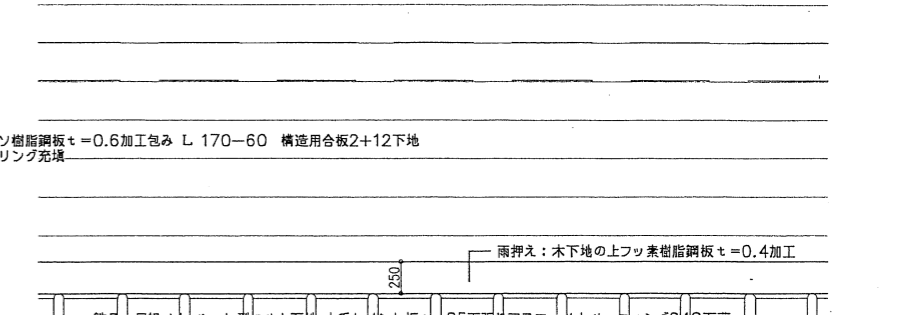
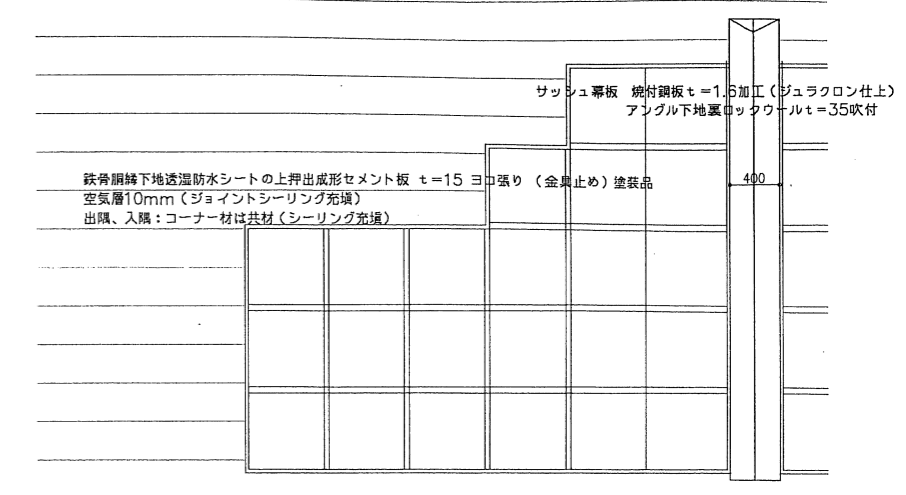
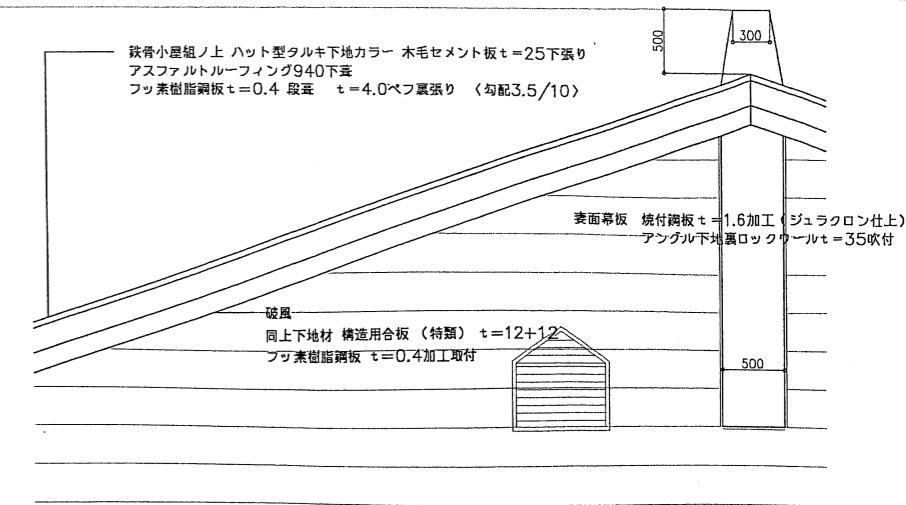
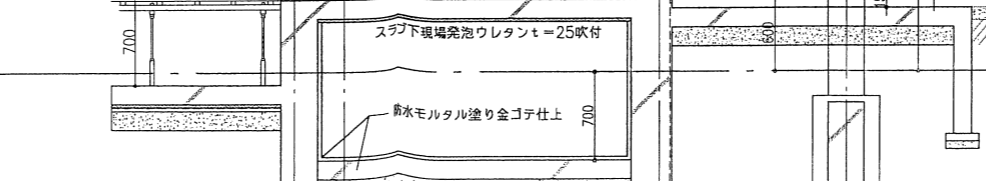
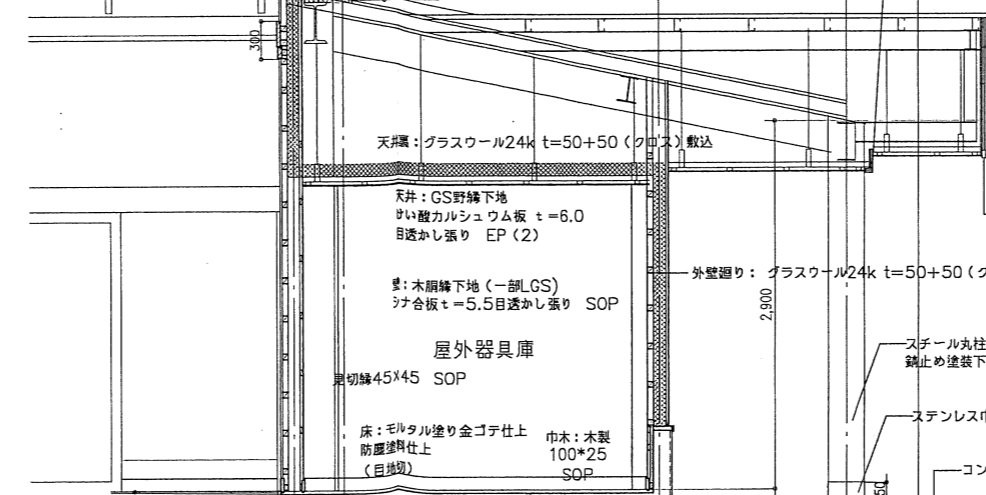
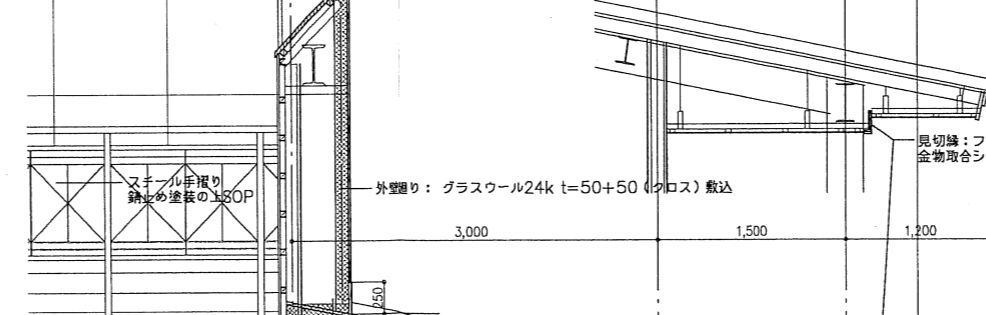
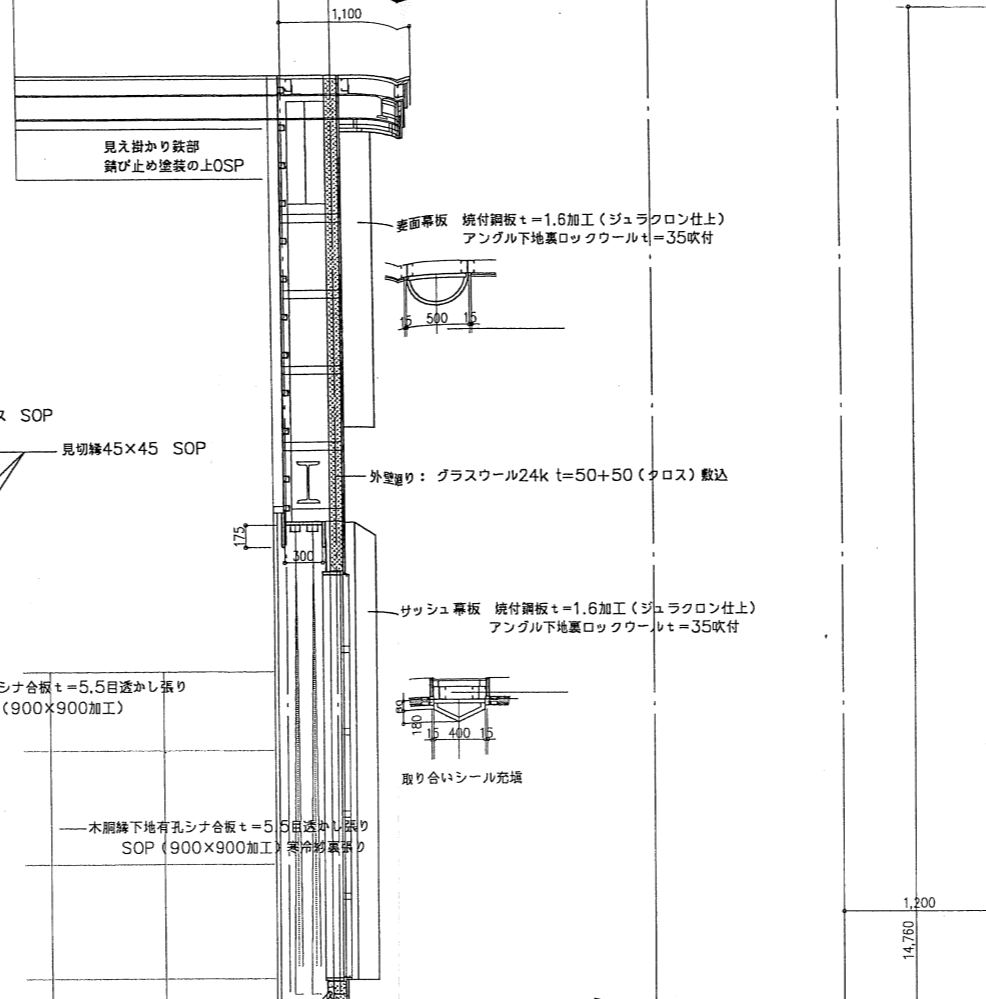
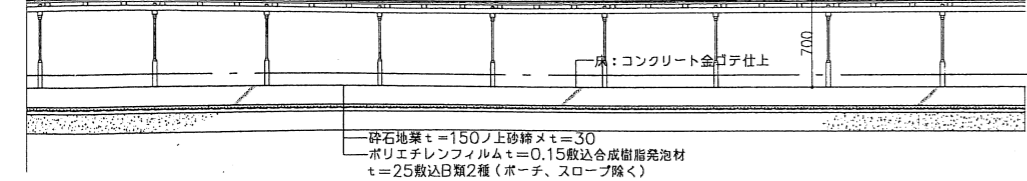
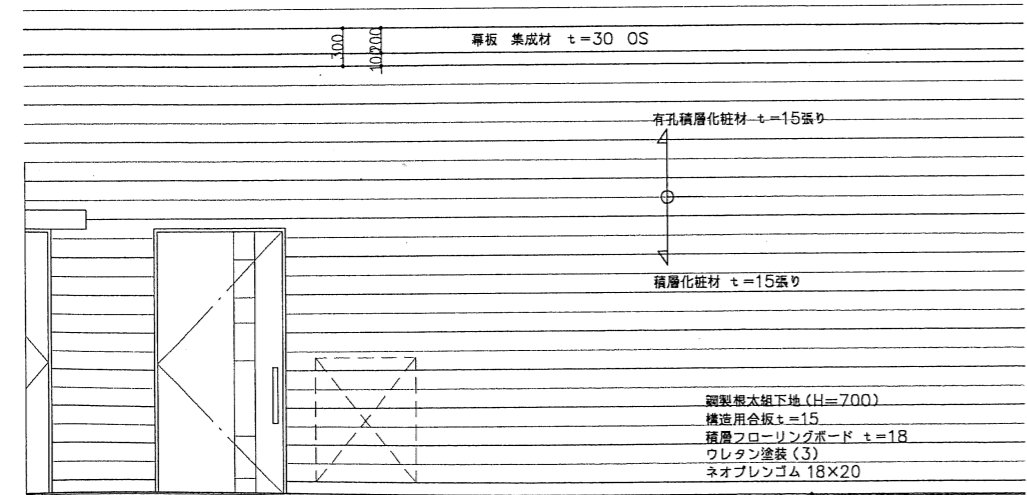
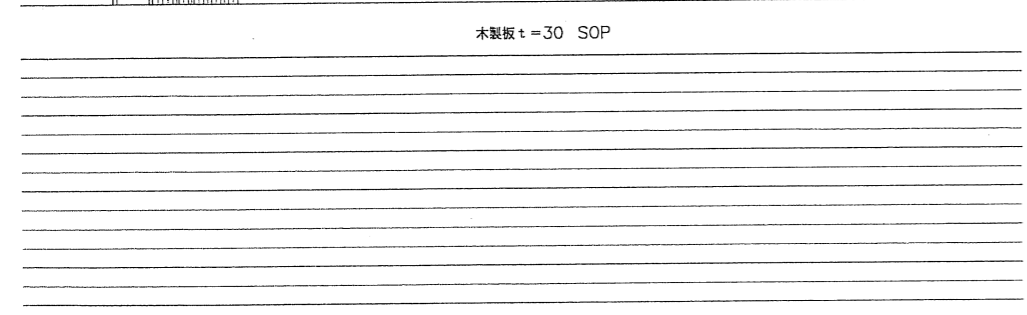
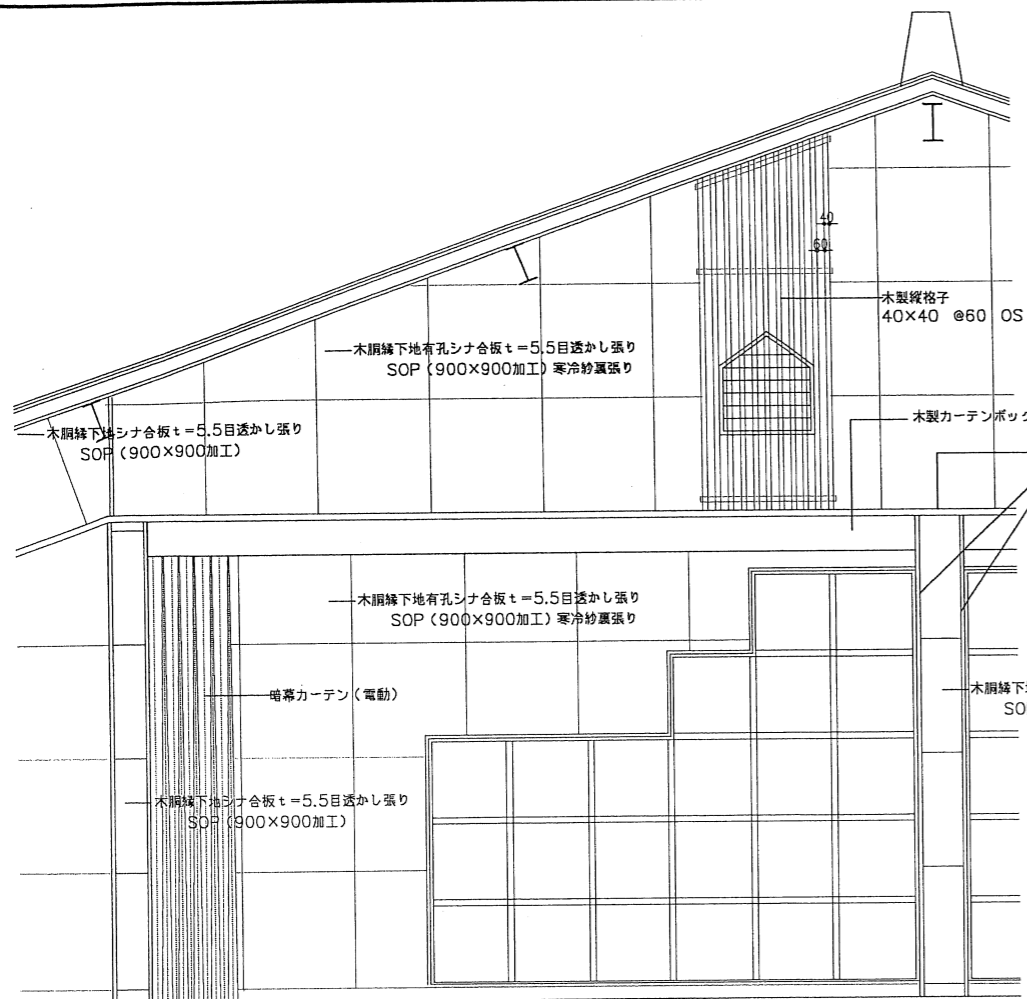
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検閲	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	屋根伏図

一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 15

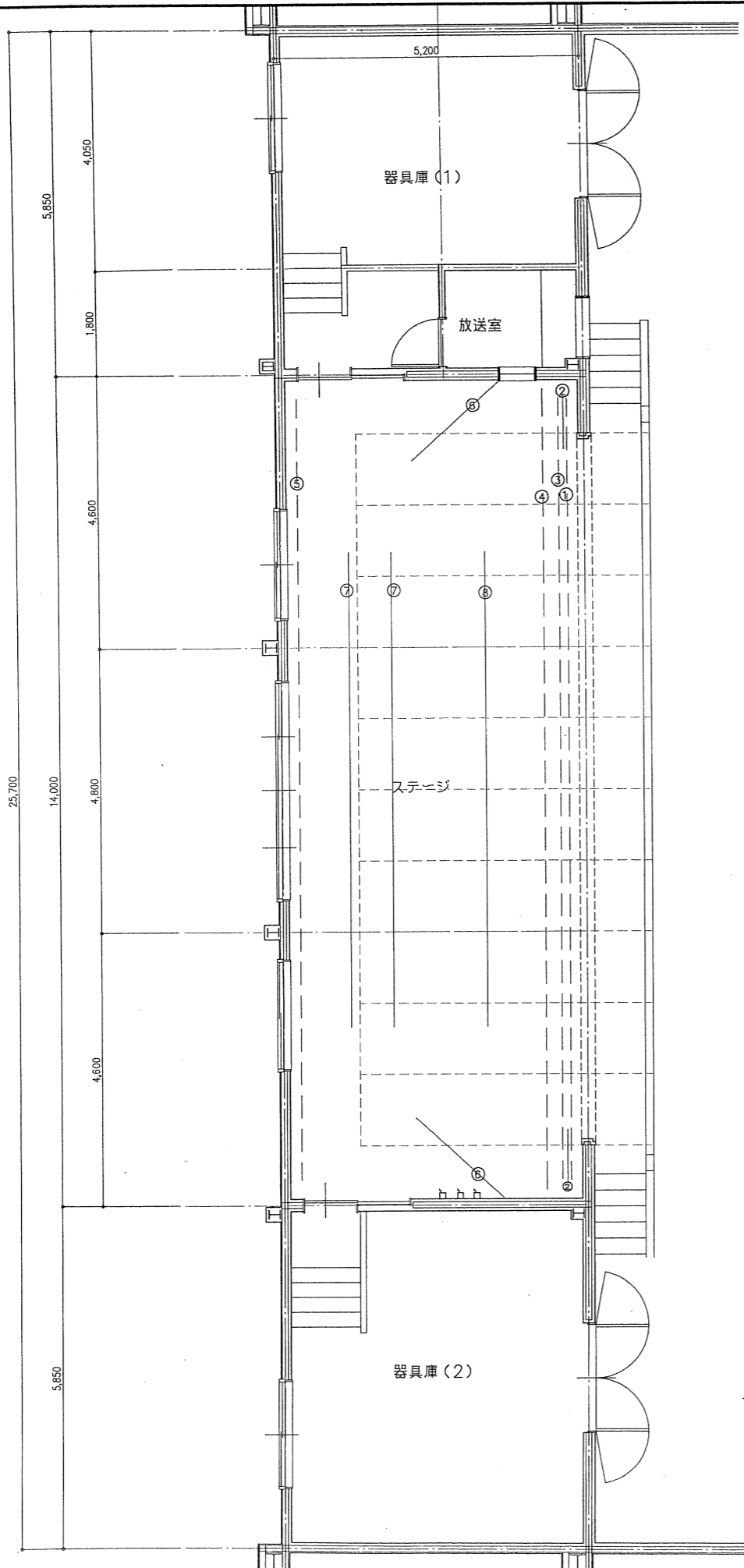


Y7

Y6

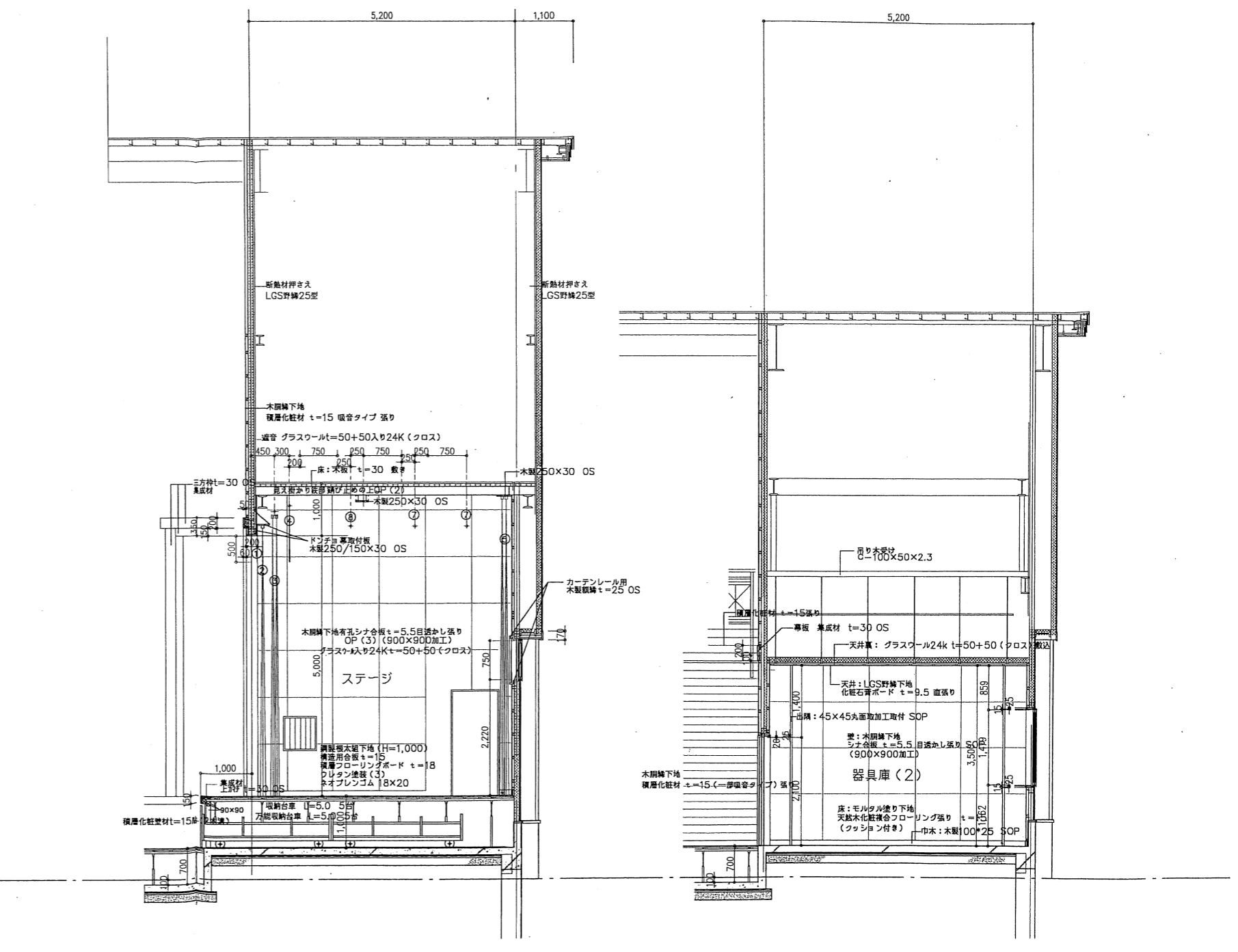
Y2

Y1



NO	名称	幕地	ヒタ	幕寸法	ワイヤ	吊点	数	吊り物設備仕様
①	一文字幕	ニカ-11554(黒地)LC-377077(夜幕)7779450φ	2倍	12,000 800			1	アロコ-47-47-47-47-47-47
②	袖幕	ニカ-11554(黒地)LC-577077	2倍	900 5,200			2	手動手引開閉 アルミペーレール天井付
③	引割ドーン板	ニカ-11554(黒地)LC-577077	2倍	7000 5,200			2	電動開閉式 100V0.4kWKT0203 30型フック付
④	カスミ幕	ニカ-11554	2倍	12,500 1,200			1	25φパイプ固定吊り
⑤	バック幕	ニカ-11554	2倍	7,000 5,800			2	手動手引開閉 30型フック付 1/2止付+2.2kg
⑥	見切幕	ニカ-11554	2倍	2,000 5,500				
⑦	予備吊ボタン				3mm	4	2	手動ワインチ昇降KT0302型付42.7φパイプ=8,000 15:1
⑧	照明吊ボタン				3mm	4	1	手動ワインチ昇降KT0302型付42.7φパイプ=8,000 15:1

1) 電動用一次側二次側共配管は電気設備工事とする。



矩計図 (3) 1:30

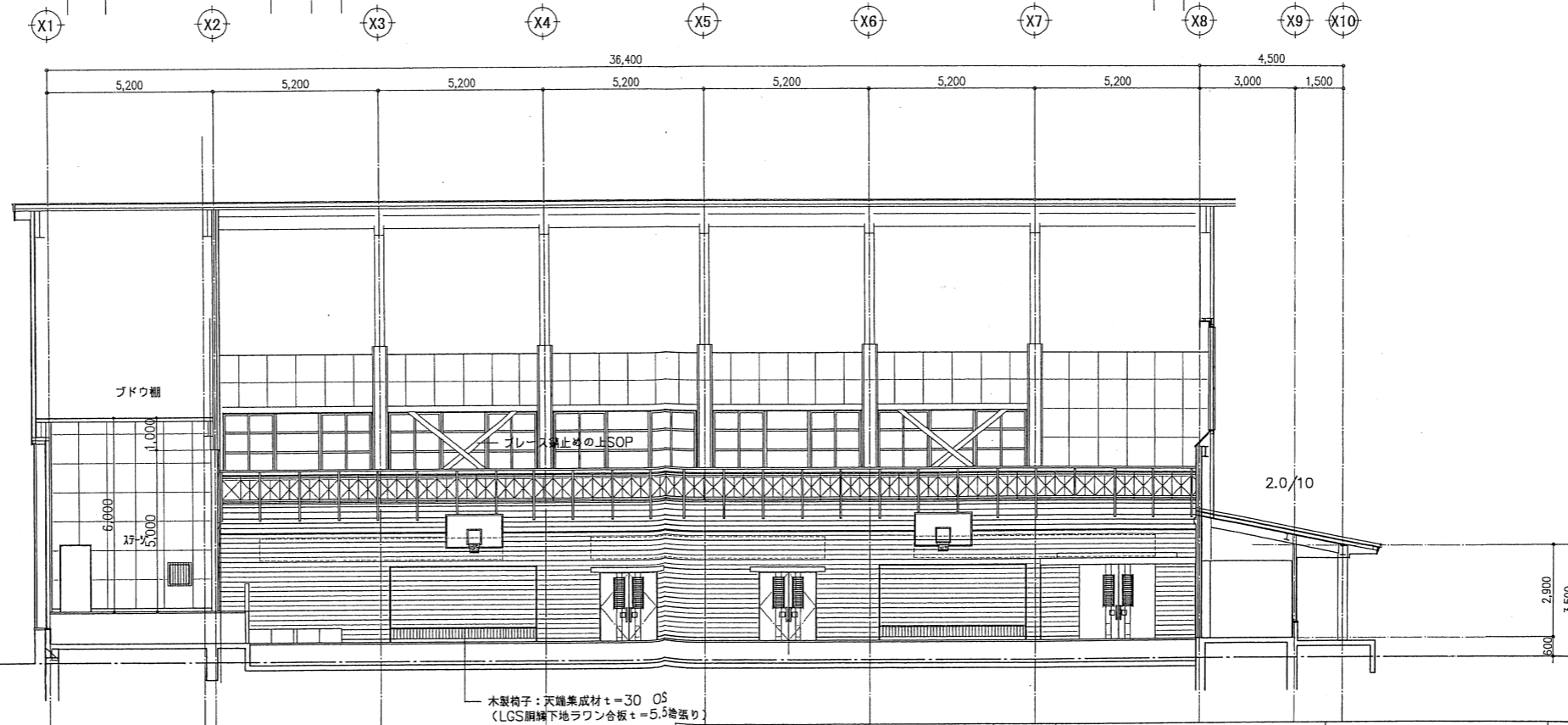
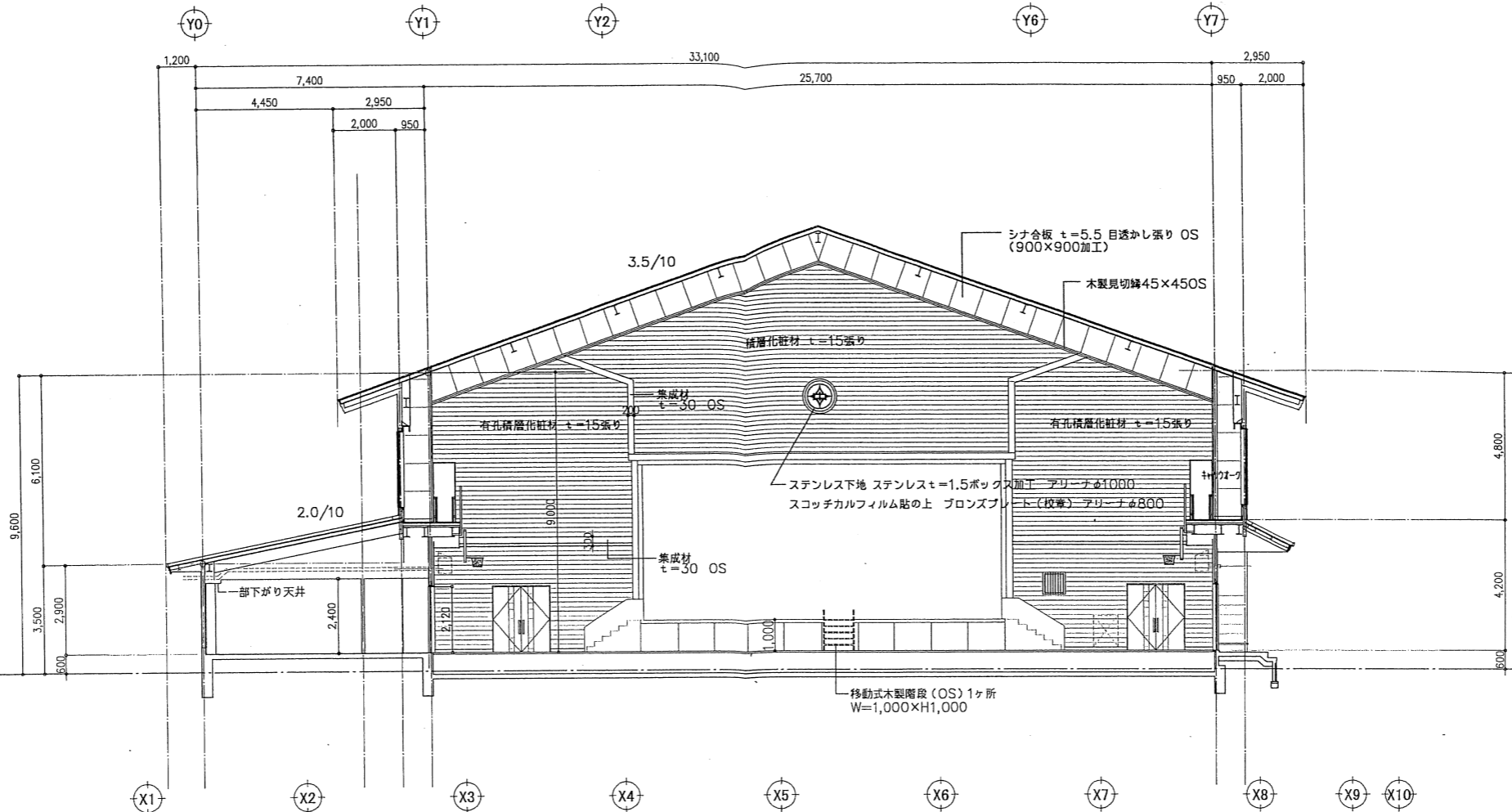
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検閲	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	矩計図 (3)

一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:50	図面区分 建築意匠
	図面番号 18



アリーナ	コンクリート金ゴテ下地 鋼製根太組下地 (H=700) 構造用合板 t=15 積層フローリングボード t=18 ウレタン塗装 (3) ネオプレンゴム 18×20	木製 100×25 OS	木間縁 (一部LGS) 下地 積層化粧材 t=15張り 上部有孔積層化粧材 t=15張り (梁型共) 集塵紗裏張り	キャットウォーク下 LGS野縁下地 ラワンベニヤ t=4.0捨張り シナベニヤ t=5.5目透かし張り OS 見え掛かり鉄部 錆び止めの上SOP	床下点検口 600角 4ヶ所 木製椅子: 天端集成材 t=30 OS (LGS胴下地ラワン合板 t=5.5捨張り) 紅白専受ステンレスフック上下 アリーナ三方 @900 140ヶ 移動式木製階段 (OS) 1ヶ所 W=1,000×H1,000
------	---	--------------------	--	---	---

アリーナ展開図 1:100

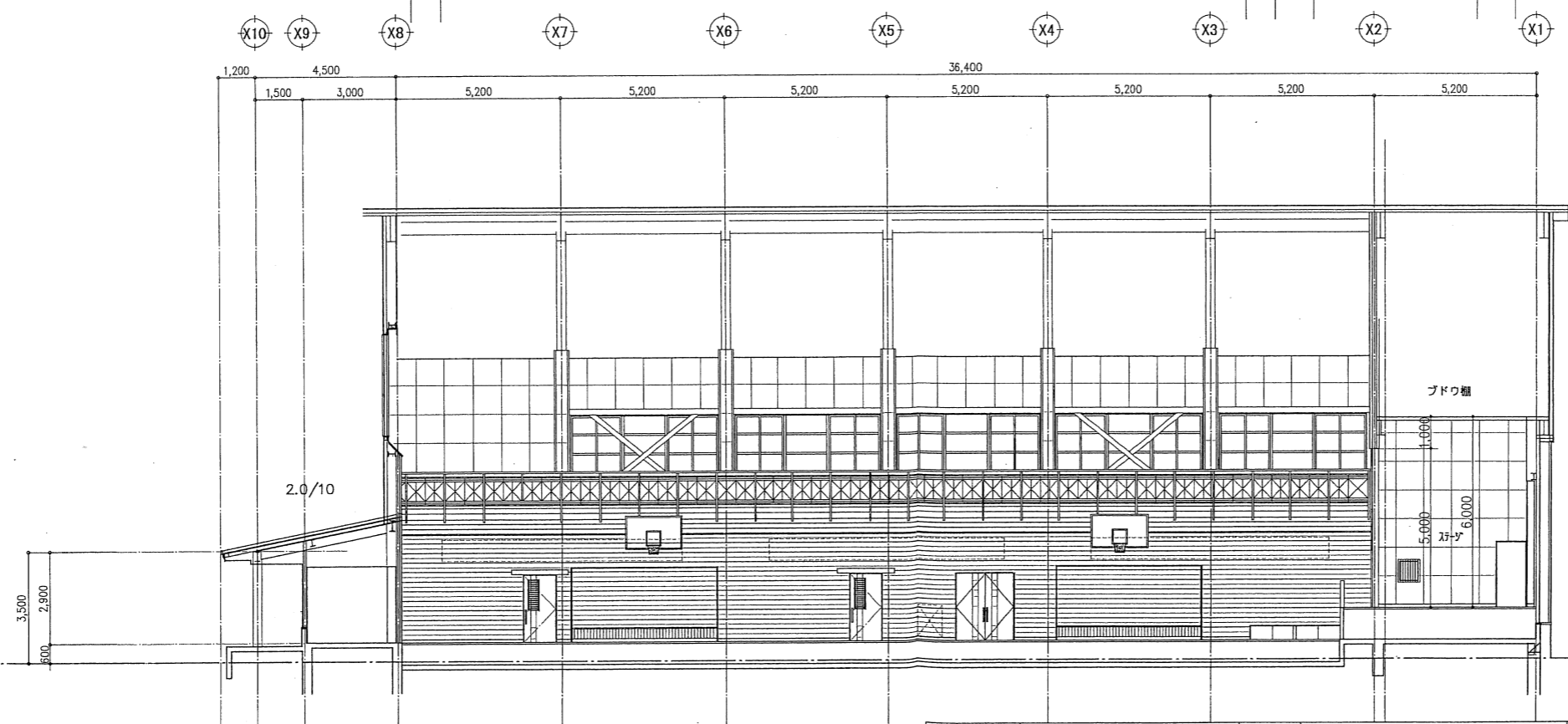
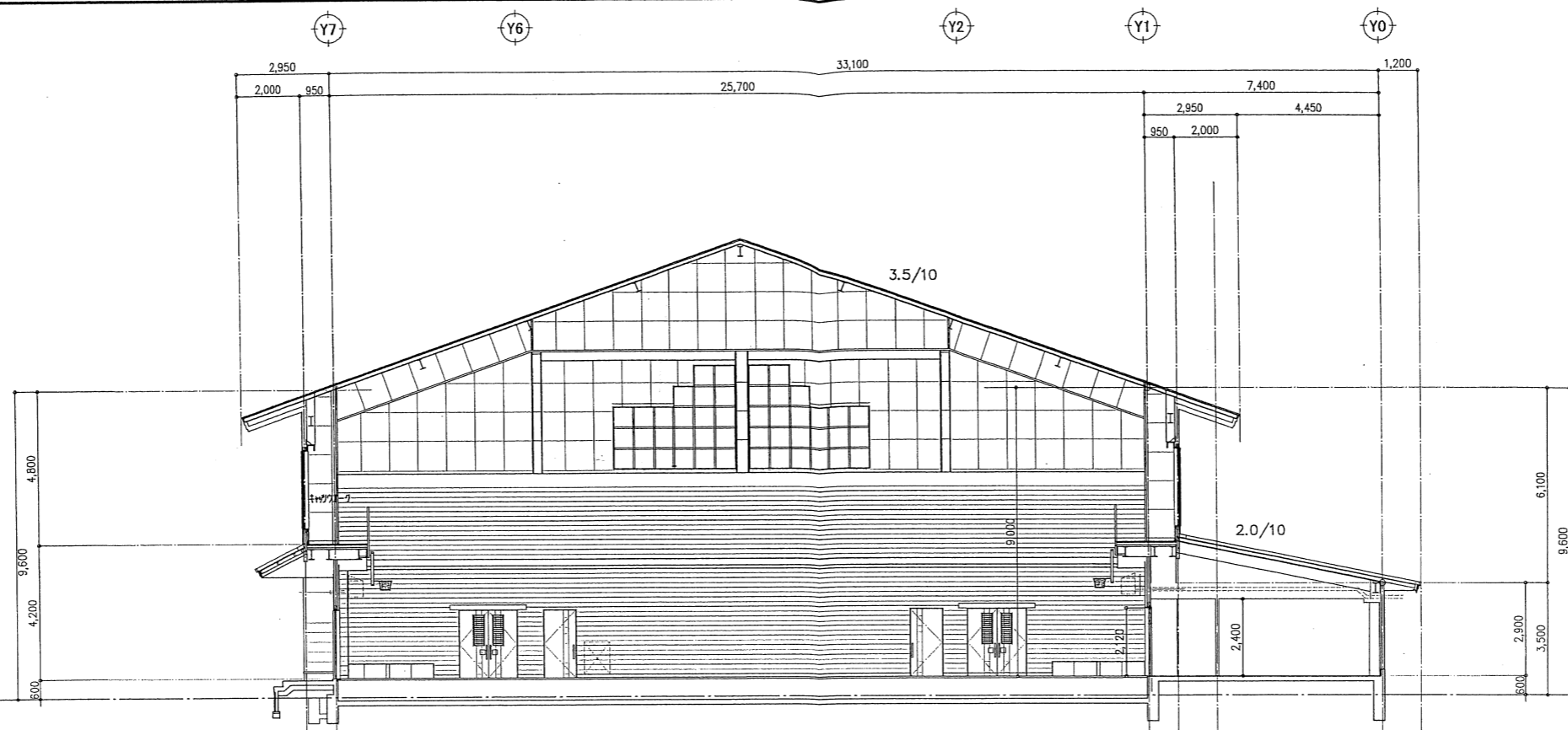
特記

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検図	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	アリーナ 展開図 (1)

一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 19



アリーナ	コンクリート金ゴテ下地 鋼製根太下地 (H=700) 構造用合板 t=15 積層フローリングボード t=18 ウレタン塗装 (3) ネオブレングム 18×20	木製 100×25 OS	木筋縁 (一部LGS) 下地 積層化粧材 t=15系り 上部有孔積層化粧材 t=15系り (梁型共) 寒冷紗張張り	キャッツウオーク下 LGS野縁下地 ラワンベニヤ t=4.0捨張り シナベニヤ t=5.5目透かし系りOS 見え掛かり鉄部 錆び止めの上SOP	床下点検口 600角 4ヶ所 木製椅子:天端集成材 t=30 OS (LGS崩壊下地ラワン合板 t=5.5捨張り) 紅白幕受ステンレスフック上下 アリーナ三方 @900 140ヶ 移動式木製階段 (OS) 1ヶ所 W=1,000×H1,000
------	--	--------------------	--	--	---

アリーナ展開図 1:100

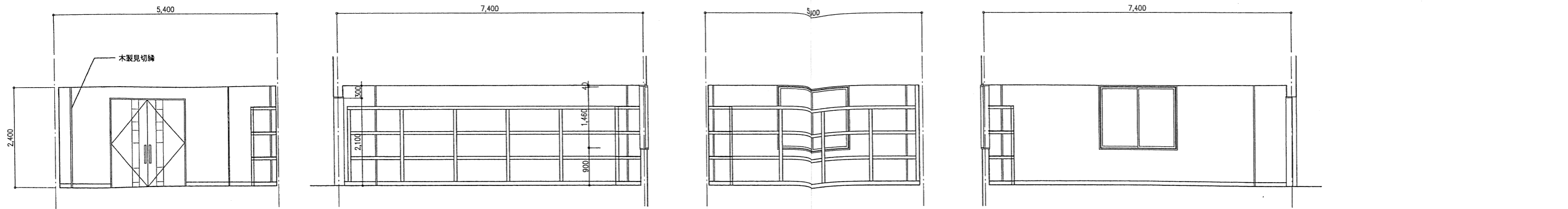
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

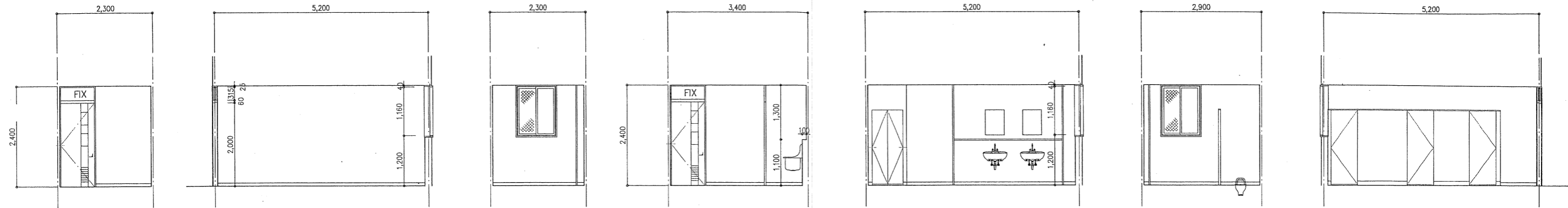
承認	審査	検図	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	アリーナ 展開図 (2)

一級建築士 登録第32,339号 小川 博	業務番号 06178
図面区分	建築意匠
縮尺	1:100
図面番号	20

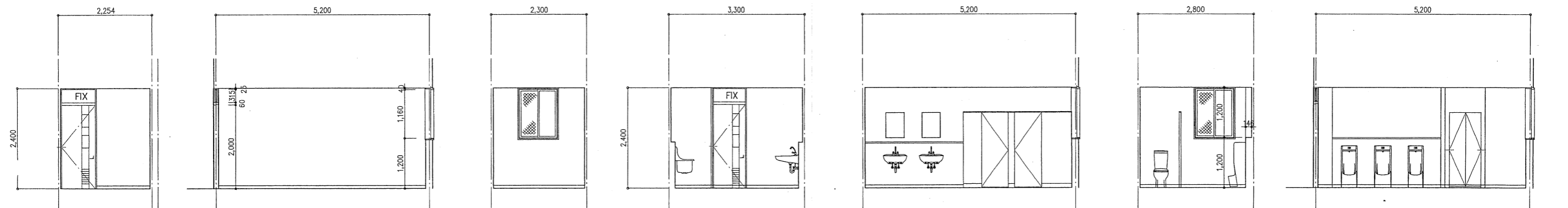


器具庫 (3)



女子更衣室

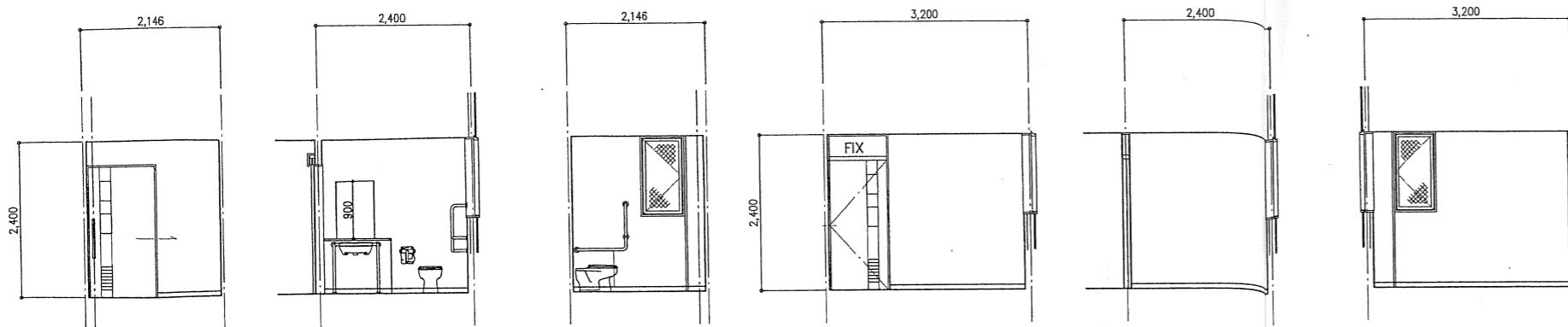
女子便所



男子更衣室

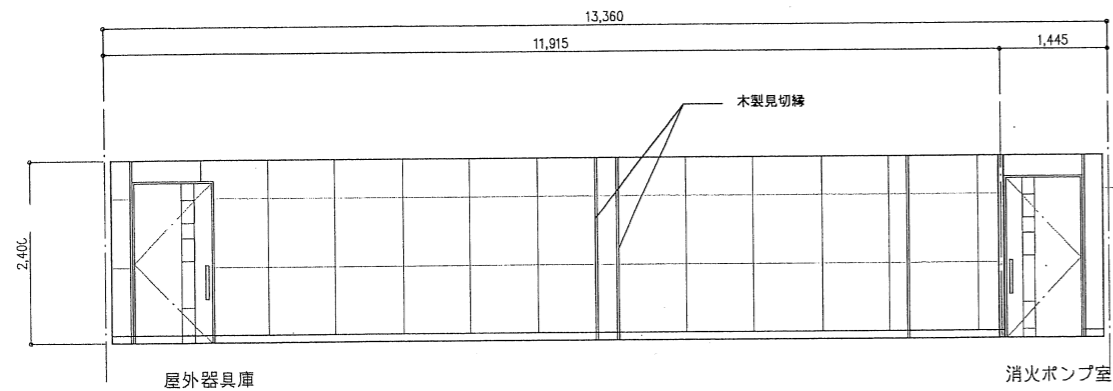
男子便所

女子便所	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5 張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木脚縁 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ピク ○	膳板: ステンレス加工 t=1.2 防錆化粧鏡457×610 2ヶ 床下化粧点検口600角	女子更衣室	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5 張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木脚縁 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ○	木製更衣棚: ユニボード 膳板: ステンレス加工 t=1.2 防錆化粧鏡457×610
男子便所	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5 張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木脚縁 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ピク ○	膳板: ステンレス加工 t=1.2 防錆化粧鏡457×610 2毛 床下化粧点検口600角	器具庫 (3)	モルタル塗り下地 天然木化粧混合フローリング t=15張り (クッション付き)	100*25 SOP	木脚縁 下地 シナ合板 t=5.5 目透かし張り SOP (900×900加工)	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5 直張り	2,400	木製 ○	木製棚 OS
男子更衣室	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニールシート t=2.5 張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木脚縁 (一部LGS) 下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り (塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ○	木製更衣棚: ユニボード 膳板: ステンレス加工 t=1.2 防錆化粧鏡457×610								



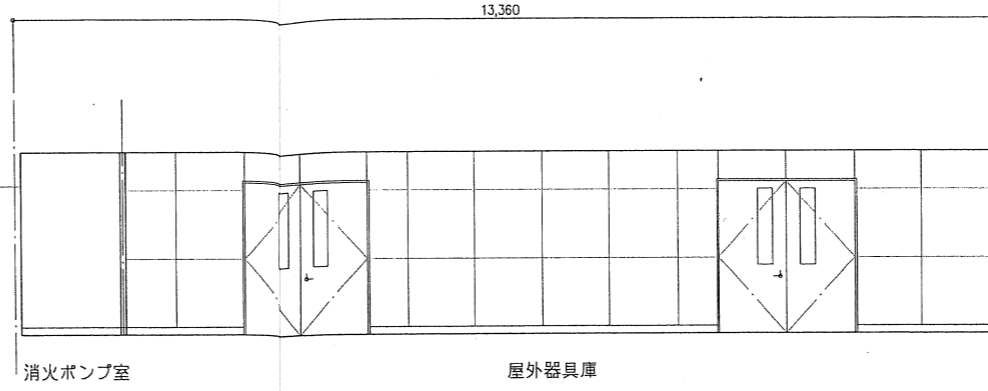
多目的トイレ

ミーティングルーム



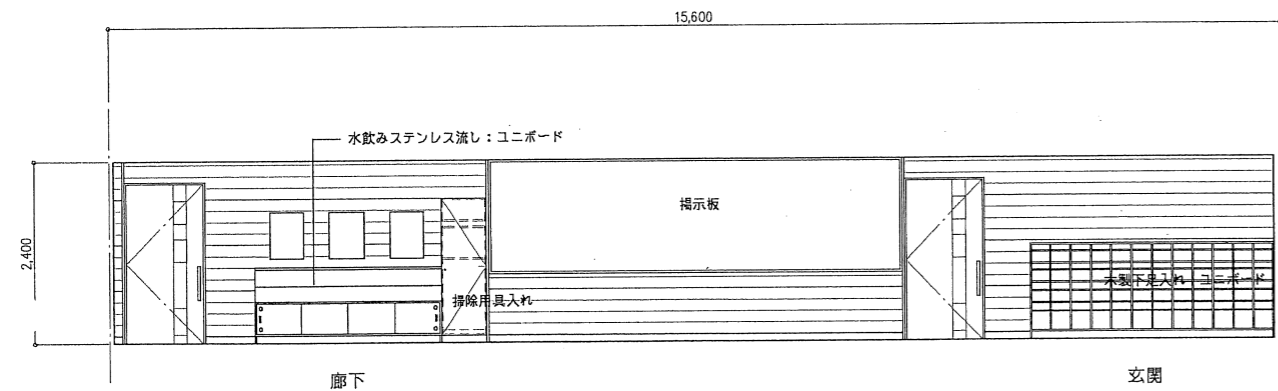
屋外器具庫

消火ポンプ室



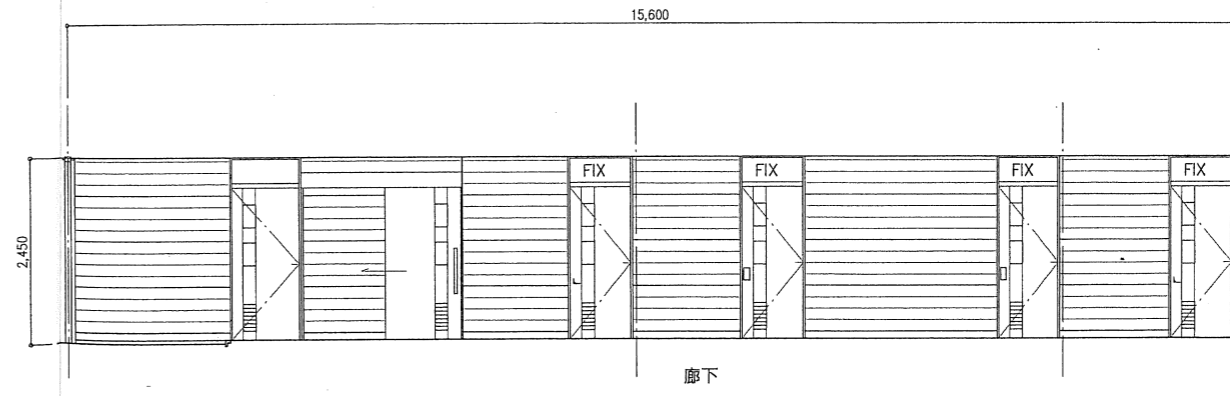
消火ポンプ室

屋外器具庫



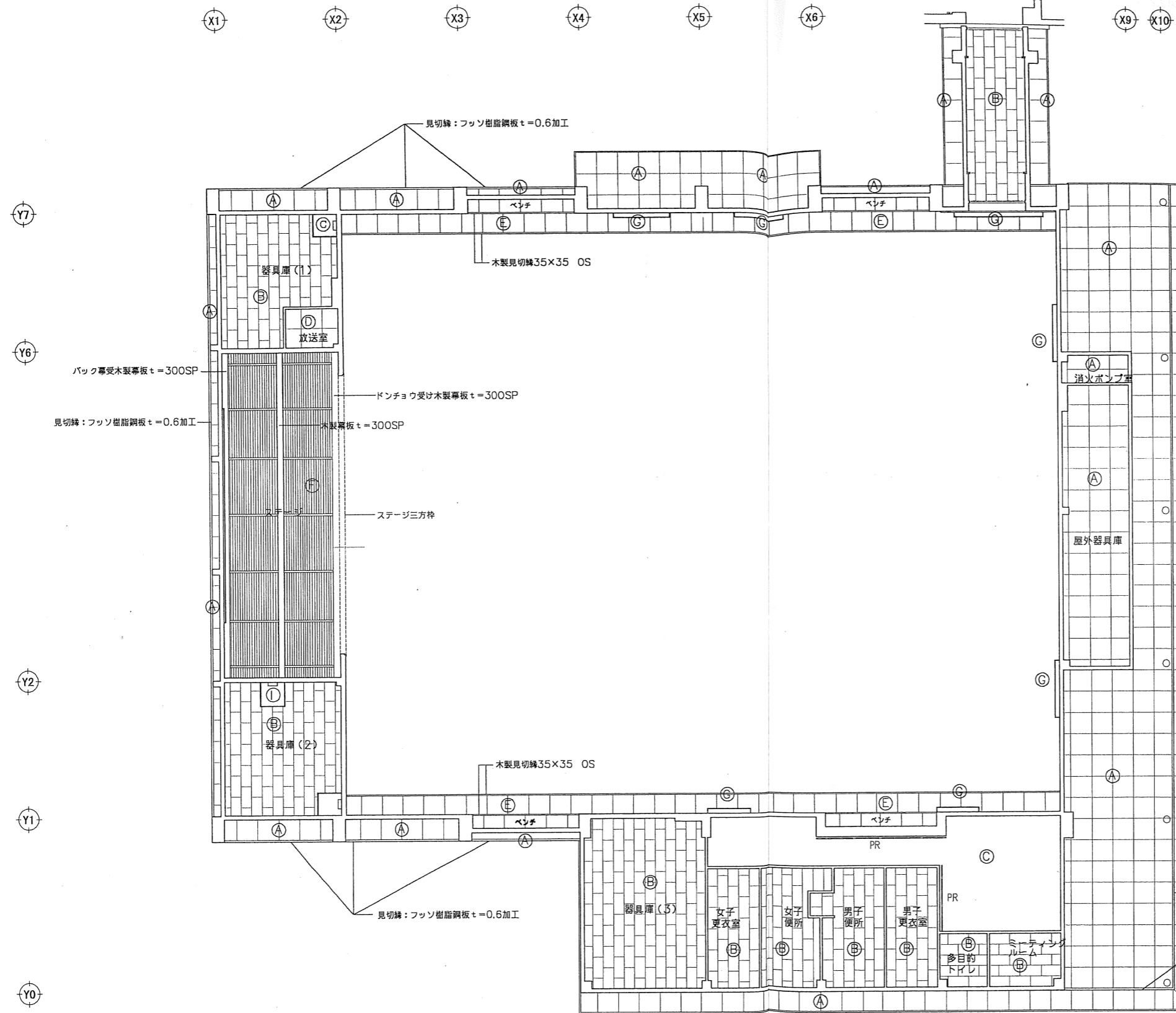
廊下

玄関



廊下

玄関	モルタル塗り金ゴテ下地 床用磁器質150角タイル張り 段鼻：役物タイル	御影石 H50×30	木脚縁下地 積層化粧壁材 t=15 張り 木見切縁100×30 OS	LGS野縁下地 石膏ボード t=9.5 の上 ビニルクロス張り	2,450	上サマ：御影石 H=70 W=80	屋外器具庫	モルタル塗り金ゴテ仕上 防塵塗料仕上 (目地切)	木製 100*25 SOP	木脚縁下地 シナ合板 t=5.5目透かし張り SOP	LGS野縁下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り EP(2)	2,400	木製 ○ 2	
ホール	モルタル塗り下地 天然木化粧複合フローリング t=15張り (クッション付き)	木製 100*25 OS	木脚縁(一部LGS)下地 積層化粧壁材 t=15張り 木見切縁100×30 OS	LGS野縁下地 石膏ボード t=9.5 の上 ビニルクロス張り	2,400	木製下足入れ：ユニボード 掲示板：H1.5×W2.7、H1.5×W5.4 水飲みステンレス流し：ユニボード 掃除用具入れ 防錆化粧鏡457×610 3ヶ	消火 ポンプ室	モルタル塗り金ゴテ仕上 防塵塗料仕上 (目地切)	ソフト巾木 H=75	LGS下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り EP(2)	LGS野縁下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り EP(2)			マンホールカバー600中密閉型
多目的 トイレ	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニルシート t=2.5 張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木脚縁(一部LGS)下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り(塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ビク ○	地下受水槽	防水モルタル塗り金ゴテ仕上		防水モルタル塗り金ゴテ仕上	スラブ下現場発泡ウレタン t=25吹付			
ミーティング ルーム	モルタル塗り金ゴテ下地 長尺ビニルシート t=2.5 張り (溶接工法)	ソフト巾木 H=75	木脚縁(一部LGS)下地 石膏ボード t=9.5下地 けい酸カルシウム板 t=6.0 張り(塗装品) 目地カラーシーリング処理	LGS野縁下地 化粧石膏ボード t=9.5張り	2,400	木製 ○								



凡例

A	珪酸カルシウム板目透かし張り t=6.0 EP (2)
B	化粧石膏ボード t=9.5張り トラバーチン
C	石膏ボード t=9.5下地 ビニールクロス張り
D	有孔シナ合板 t=5.5目スカシ張り 寒冷沙裏張り グラスウールt=50+50敷き込み
E	ラワン合板 t=4.0捨張り 有孔シナ合板 t=5.5目スカシ張り OS
F	見え係鉄部 錆び止め塗装の上OP (2)
G	木製暗幕用ボックス OP (3) W150xH120x25 (レール)
H	木製暗幕用ボックス OP (3) W270xH155x25 (電動レール)
I	天井点口 1000角 アルミ製 引き込み式 化粧石膏ボード張り 天井点口 450角 アルミ製 10+2ヶ所 (渡2) アルミ見切縁
PR	ピクチャーレール フック2ヶ/m

1階 天井伏図 1:100

特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

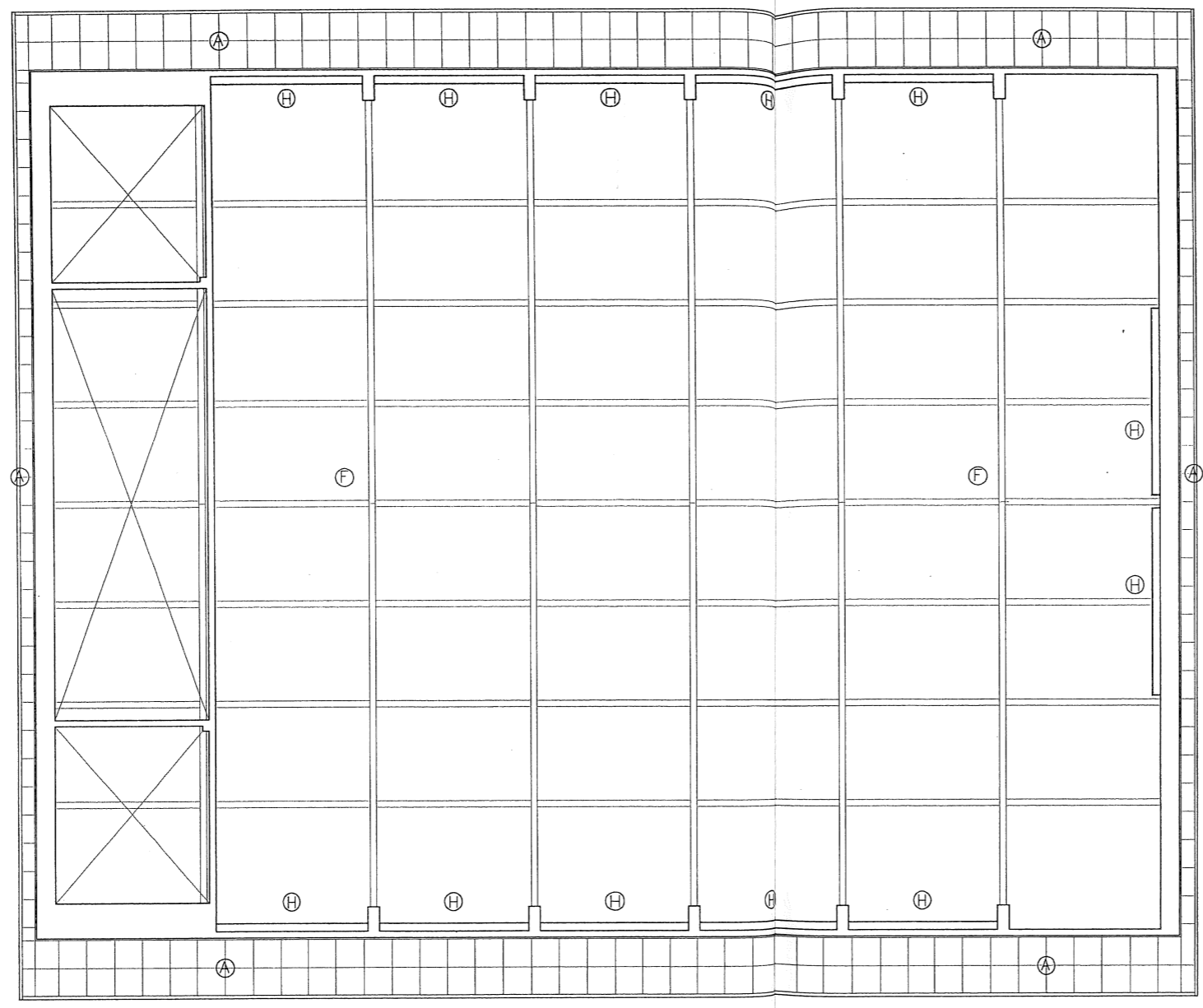
承認	審査	検閲	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	1階 天井伏図

一級建築士 登録第32339号 小川 稔	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 24

X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8 X9 X10

Y7
Y6
Y2
Y1



凡例

A	珪酸カルシウム板目透かし張り t=6.0 EP(2)
B	化粧石膏ボード t=9.5張り トラバーチン
C	石膏ボード t=9.5下地 ビニールクロス張り
D	有孔シナ合板 t=5.5目スカシ張り 寒冷紗裏張り グラスウールt=50+50敷き込み
E	ラワン合板 t=4.0捨張り 有孔シナ合板 t=5.5目スカシ張り OS
F	見え掛かり鉄部 錆び止め塗装の上OP(2)
G	木製カーテンボックス OP(3) W150×H120×25
H	木製カーテンボックス OP(3) W270×H155×25
I	天井点口 1000角 アルミ製 引き込み式 化粧石膏ボード張り 天井点口 450角 アルミ製 10ヶ所 (渡廊下 2ヶ所) アルミ見切縁

キャットウォーク 天井伏図 1:100

KUJI ARCHITECTS STUDIO
株式会社 久慈設計
1級建築士事務所 岩手県 (株) 第5号
TEL019-624-2020 FAX019-652-3040
盛岡市緑町3番11号

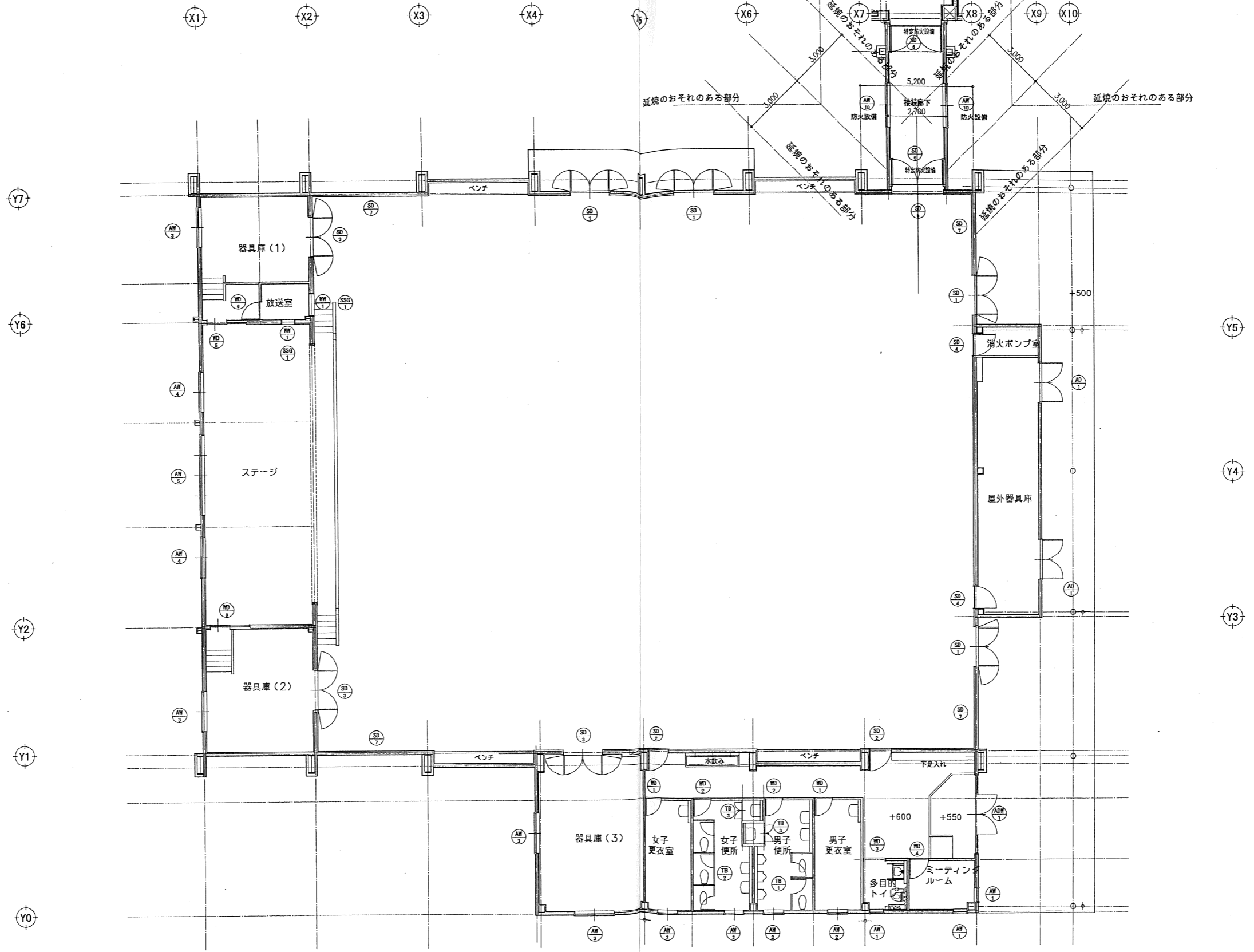
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検図	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	キャットウォーク 天井伏図

一級建築士 登録第32339号 小川 隼	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 25



1階 建具平面図 1:100

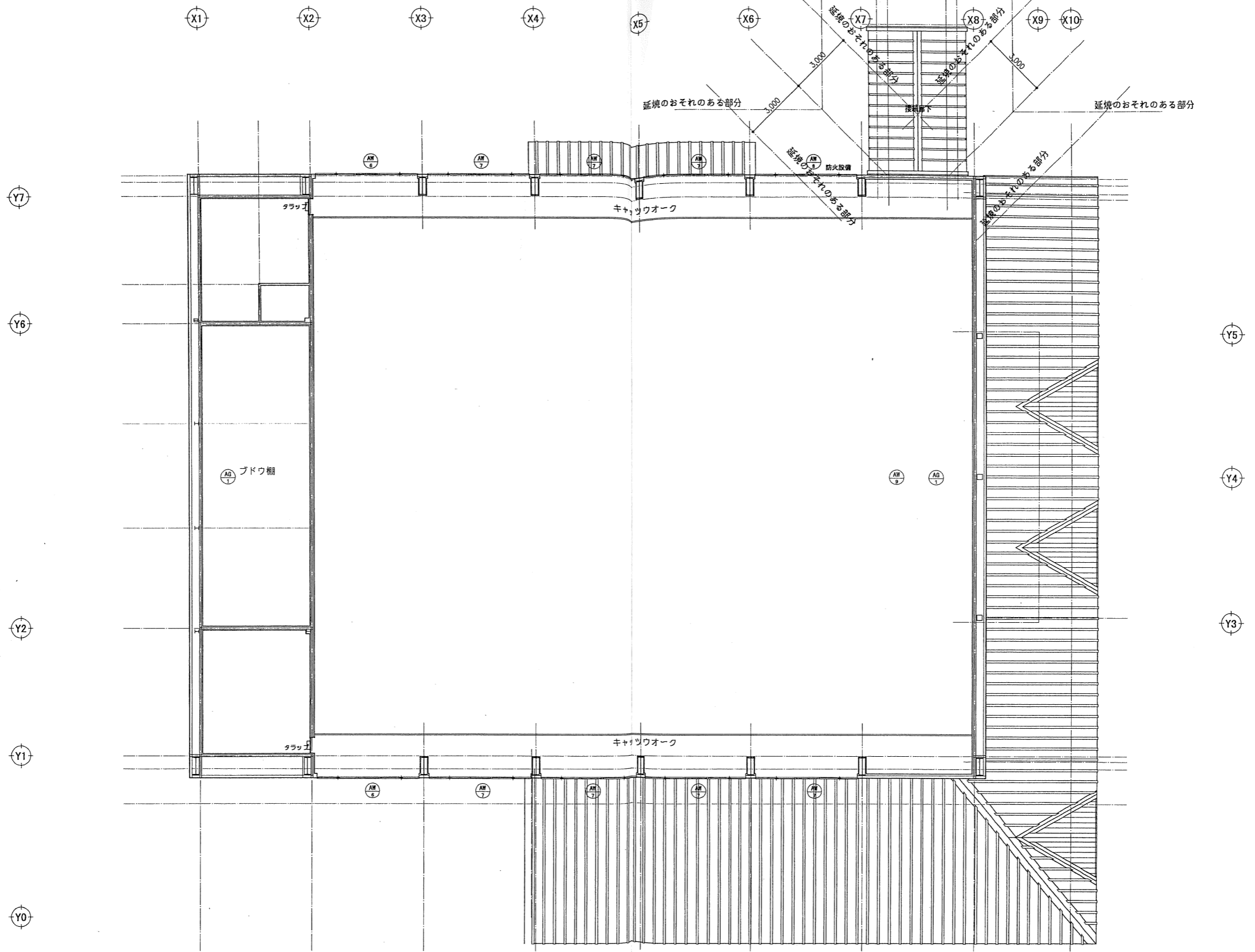
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検閲	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	1階 建具平面図

一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 26



キャットウォーク 建具平面図 1:100

特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検図	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	キャットウォーク 建具平面図

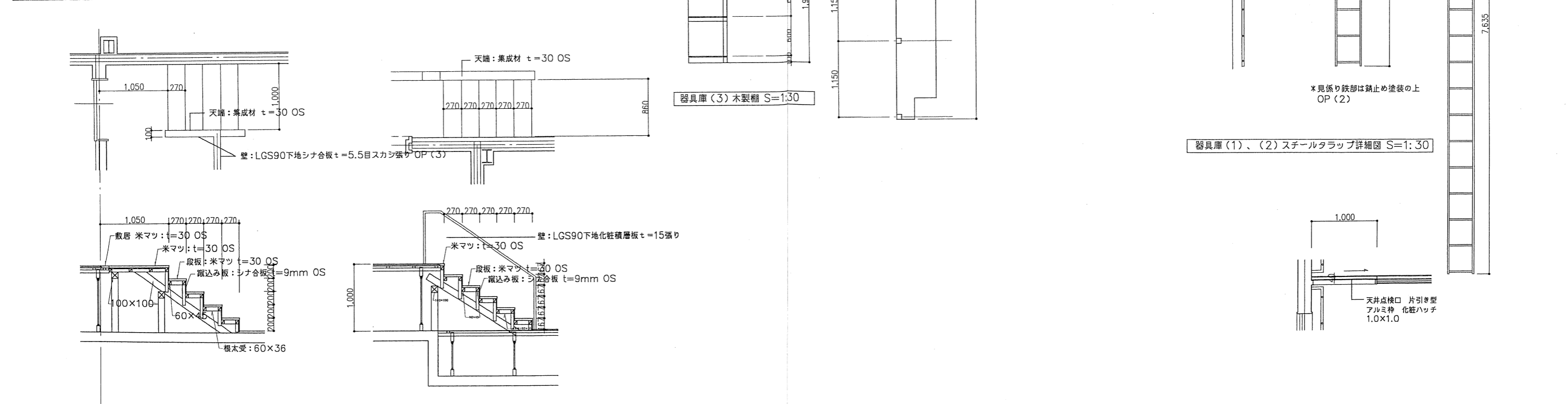
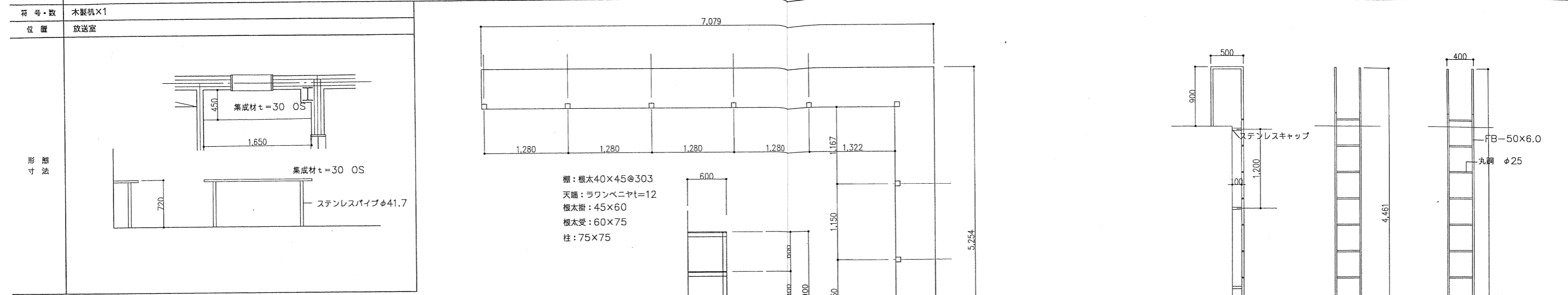
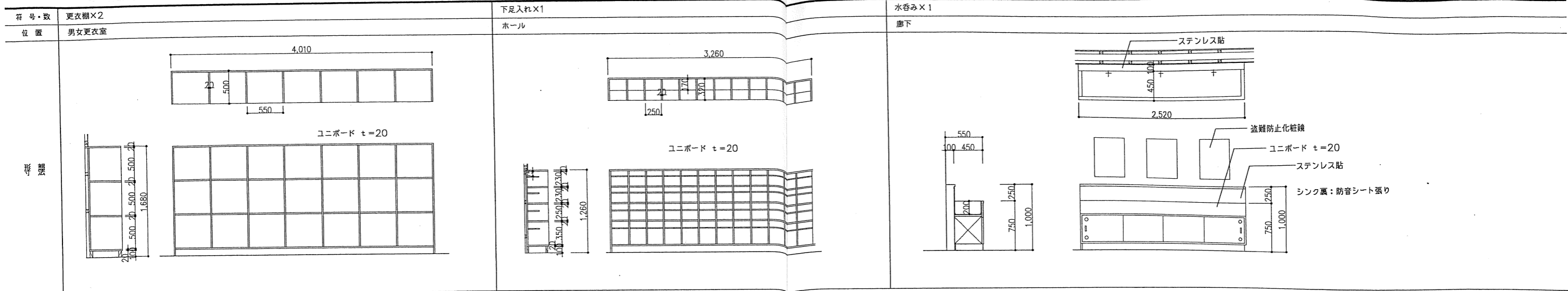
一級建築士 登録第32339号 小川 隼	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 27

符号・数 位置	ADW-1 玄関	1	ADW-1 屋外器具庫	2	AW-1 ミーティングルーム・多目的トイレ	3	AW-2 男女更衣室・男女便所	4	AW-3 器具庫(1)(2)(3)	4	AW-4 ステージ	2	AW-5 ステージ	1	
形態・寸法															
形式	外張りランマ(ガラリ)付両開き窓		両開き戸(フラッシュ戸)		片開き窓		片開き窓		引き違い窓		引き違い窓		引き違い窓		
材種・仕上	アルミ・ステンカラー・強化硝子4.0・ランマ透明3.0		アルミ・ステンカラー・型板4.0		アルミ・ステンカラー・型板4.0		アルミ・ステンカラー・型板4.0		アルミ・ステンカラー・型板4.0		アルミ・ステンカラー・型板4.0		アルミ・ステンカラー・型板4.0		
硝子	ヒボットヒンジ・サムターン付シリンドラ錠		ステンレスT番・DC・サムターン付シリンドラ錠		ステンレスT番・カムラッチ		クレセント		クレセント		クレセント・埋め込み排煙用オペレーター付		クレセント・埋め込み排煙用オペレーター付		
金物・備考	外部三方アルミ額縁・ステンレス押棒L=600(両面)		DC・外部三方アルミ額縁・ステンレスノブ・フランス差し・戸当り		アルミ水切り・結露受け・内部SUS網戸		アルミ水切り・結露受け・SUS網戸		アルミ水切り・結露受け・SUS網戸		アルミ水切り・結露受け・SUS網戸		アルミ水切り・結露受け・SUS網戸		

符号・数 位置	AW-6 キャットウォーク	2	AW-7 キャットウォーク	7	AW-8 キャットウォーク	1	AW-9 アリーナ上部	2	AW-10 接続廊下	2	AG-1 アリーナ上部	4
形態・寸法												
形式	半外付けサッシ(出30以上)		半外付けサッシ(出30以上)		半外付けサッシ(出30以上) 防火設備		半外付けサッシ(出30以上)		半外付けサッシ(出30以上) 防火設備		引き違い窓	
材種・仕上	アルミ・ステンカラー・強化硝子4.0		アルミ・ステンカラー・強化硝子4.0一部アルミパネルt=2.0		アルミ・ステンカラー・網入り透明6.8		アルミ・ステンカラー・強化硝子4.0		アルミ・ステンカラー・網入り透明6.8		アルミ	
硝子	クレセント 埋め込み式オペレーター(上部のみ)		クレセント 埋め込み式オペレーター(上部のみ)		クレセント 埋め込み式オペレーター(上部のみ)		カラーフィルム張り		クレセント		SUS水返し・外部SUS防虫網付	
金物・備考	アルミ水切り・結露受け・SUS網戸		アルミ水切り・結露受け・SUS網戸		アルミ水切り・結露受け・SUS網戸		アルミ水切り・結露受け		アルミ水切り・結露受け・SUS網戸			

符号・数 位置	SD-1 アリーナ	4	SD-2 アリーナ	2	SD-3 アリーナ	3	SD-4 アリーナ	2	SD-5 アリーナ	1	
形態・寸法											
形式	両開きスチール戸		片開きスチール戸		両開きスチール戸		片開きスチール戸		スチール製吊戸(重量型吊金具仕様)		
材種・仕上	スチール・焼付け塗装(ジュラクロン)(特共)		スチール・焼付け塗装(ジュラクロン)(特共)		スチール・焼付け塗装(ジュラクロン)(特共)		スチール・焼付け塗装(ジュラクロン)(特共)		スチール・焼付け塗装(ジュラクロン)(特共)		
錠・硝子	サムターン付シリンドラ錠・フランス差し・強化硝子4.0		サムターン付シリンドラ錠・強化硝子4.0		サムターン付シリンドラ錠・フランス差し		サムターン付シリンドラ錠		サムターン付シリンドラ錠 強化硝子4.0		
金物・備考	ステンレスT番・ステンレス軸スリ・SUS押棒L450(両面)・DC・戸当り		ステンレスT番・ステンレス軸スリ・SUS押棒L450(両面)・DC・戸当り		ステンレスT番・ステンレス軸スリ・SUS押棒L450(両面)・DC・戸当り		ステンレスT番・ステンレス軸スリ・SUS押棒L450(両面)・DC・戸当り		吊金具・SUS押棒L450(両面)・戸当り・下部触れ止めレール付		

符号・数 位置	SD-6 接続廊下	2	SD-7 アリーナ	4	SSG-1 放送室	2
形態・寸法						
形式	両開きフラッシュ戸		引き違いフラッシュ戸		窓ガード	
材種・仕上	スチール・焼付け塗装(ジュラクロン)(特共)		スチール・焼付け塗装(ジュラクロン)(特共)		ステンレス HL	
錠・他	ケースハンドル		クレセント			
金物・備考	フロアヒンジ・スチール枠		ステンレス水切り・戸車・レール		SUSアングル50×50・SUSパイプφ13	

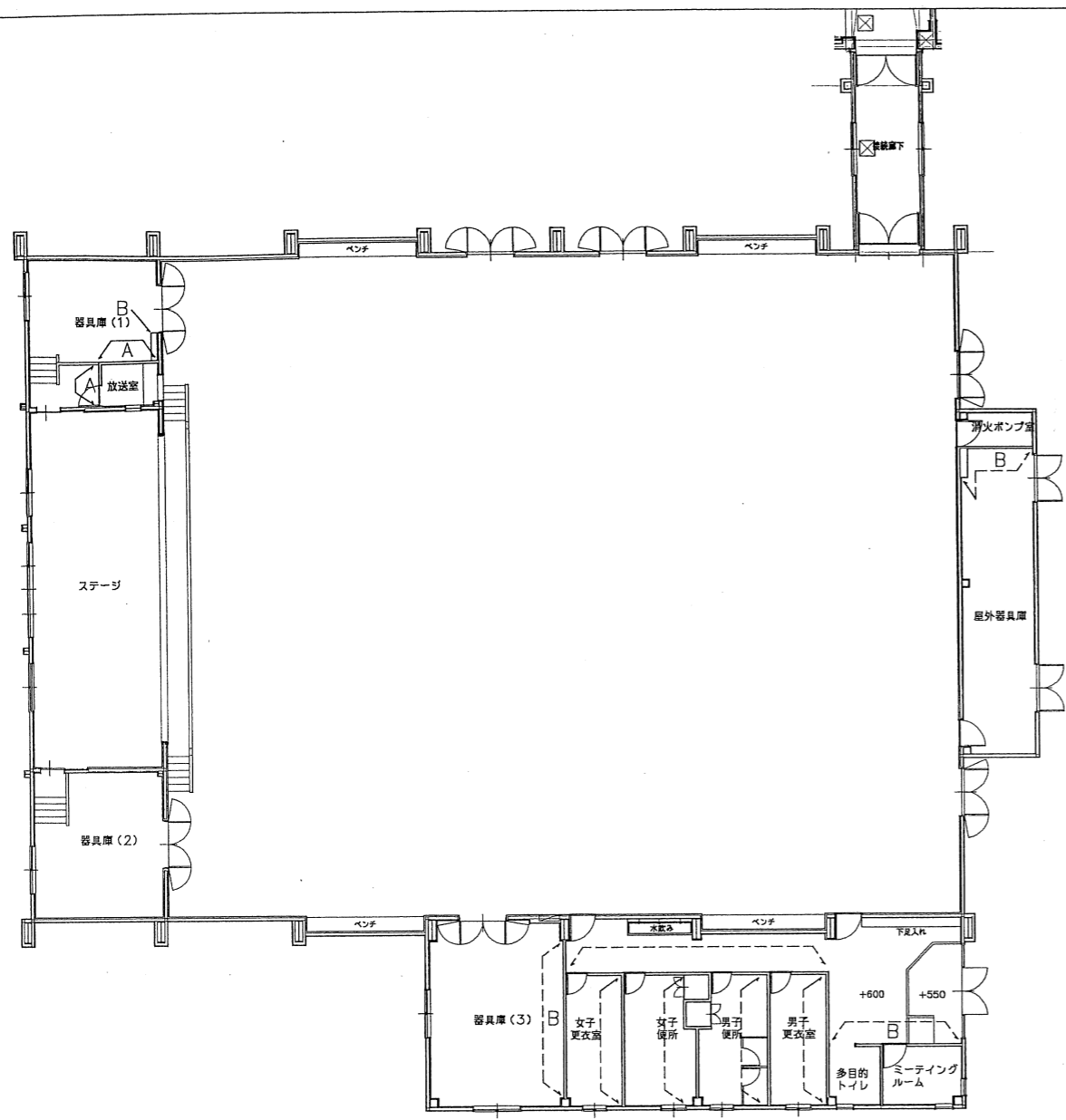


器具庫 (1) (2) 階段詳細図 S=1:30

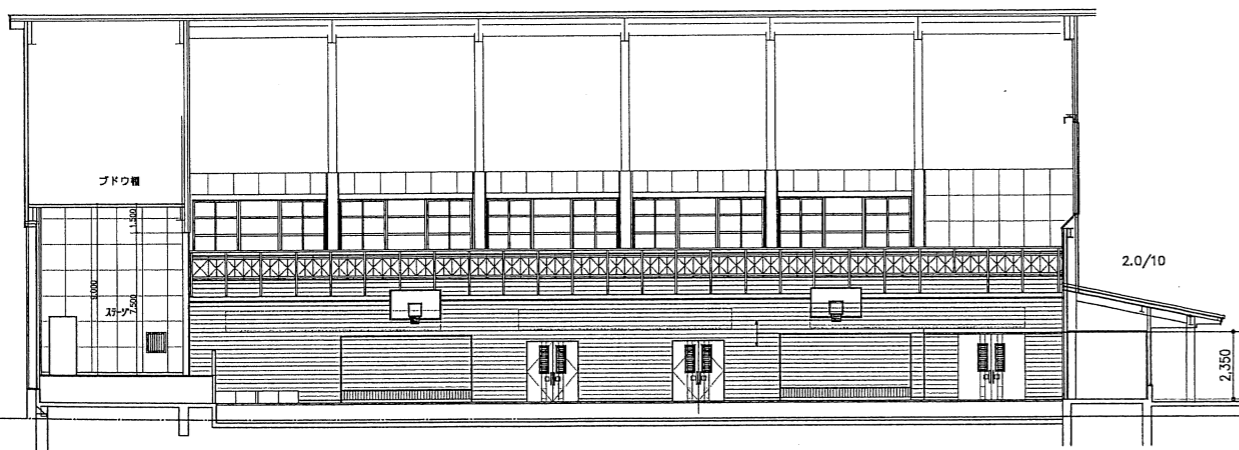
ステージ 階段詳細図 S=1:30

家具詳細図 1:30

器具庫 (2) 天井詳細図 S=1:30



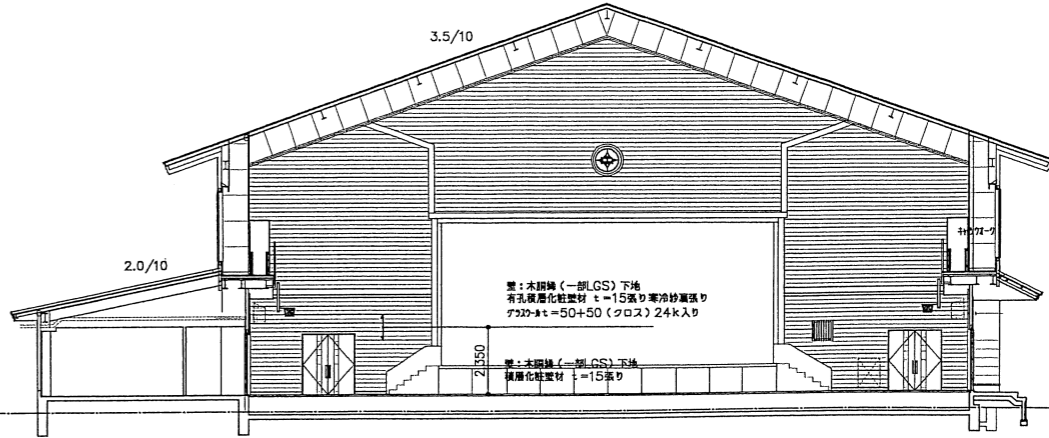
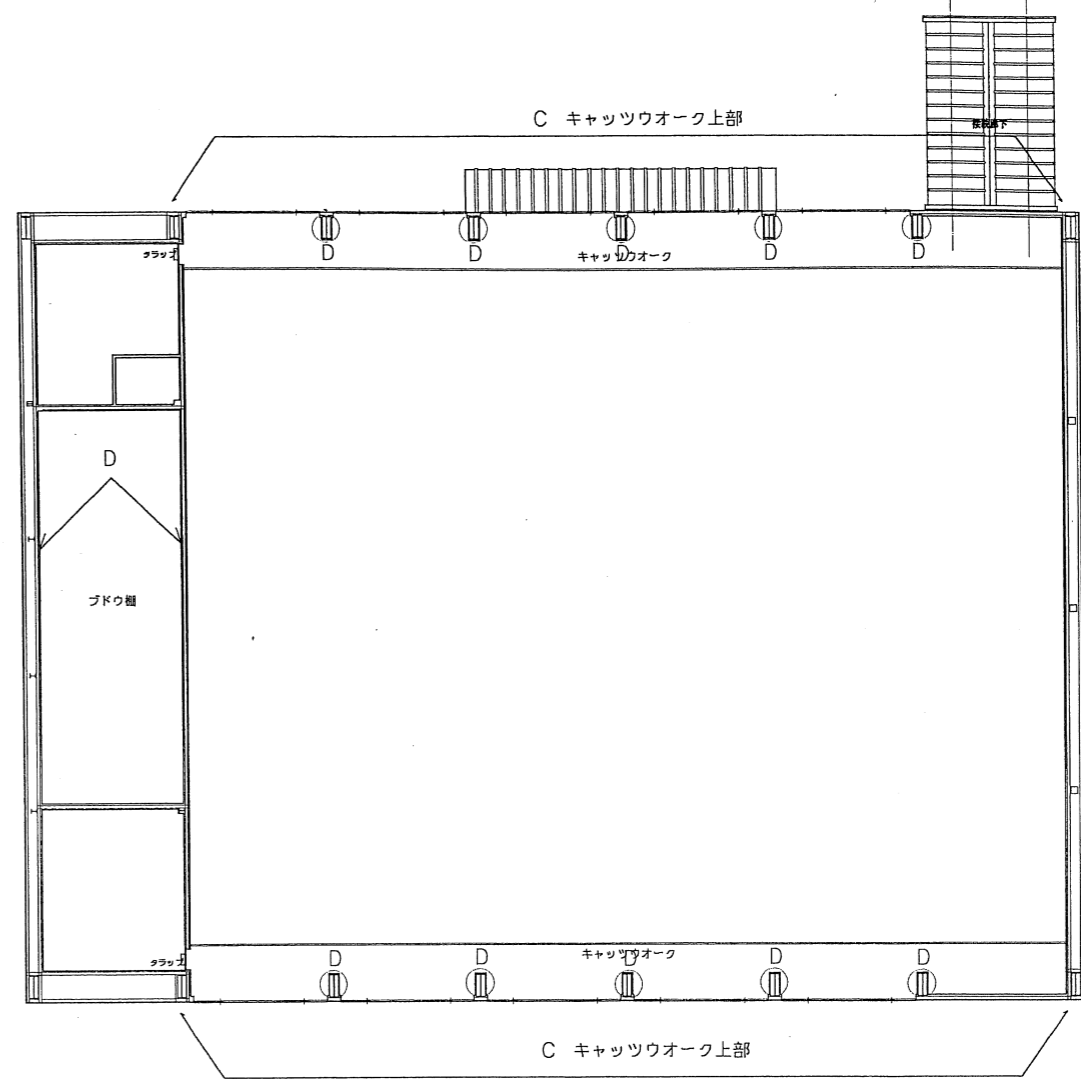
下層部分
外壁に面する部分及び柱型はD



壁：木調壁（一部LGS）下地
有孔炭素化粧壁材 t=15張り
断熱材 t=50+50（クロス）24k入り

壁：木調壁（一部LGS）下地
有孔炭素化粧壁材 t=15張り

下地範囲平面図 1:100

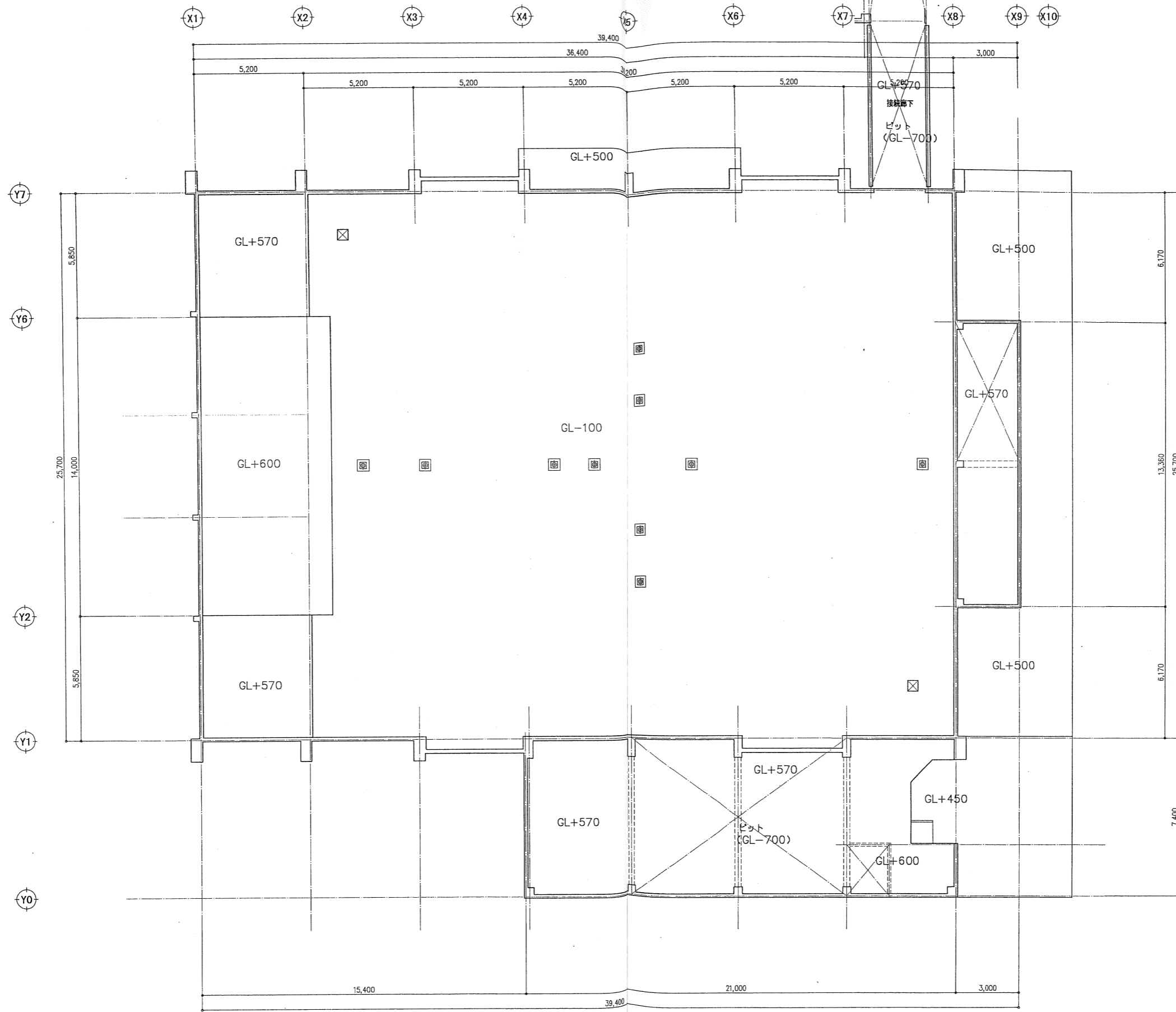


凡例
A LGS90 @303 C 木調壁25×40 @303タテ、ヨコ
B LGS65 @303 D 柱型 LGS25×40溶接 @303
特記なき限り木調壁45×40 @303タテ、ヨコとする。

特記	
改訂番号	
改訂月日	
改訂内容	

承認	審査	校閲	製図
桜木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事（建築工事）	一級建築士 登録第32339号 小川 博	発注番号 06178
図面内容	下地範囲平面図	縮尺 1:200	図面区分 建築意匠 図面番号 32



土間伏図 1:100

- 田 支柱基礎
- X 釜場500x500x300

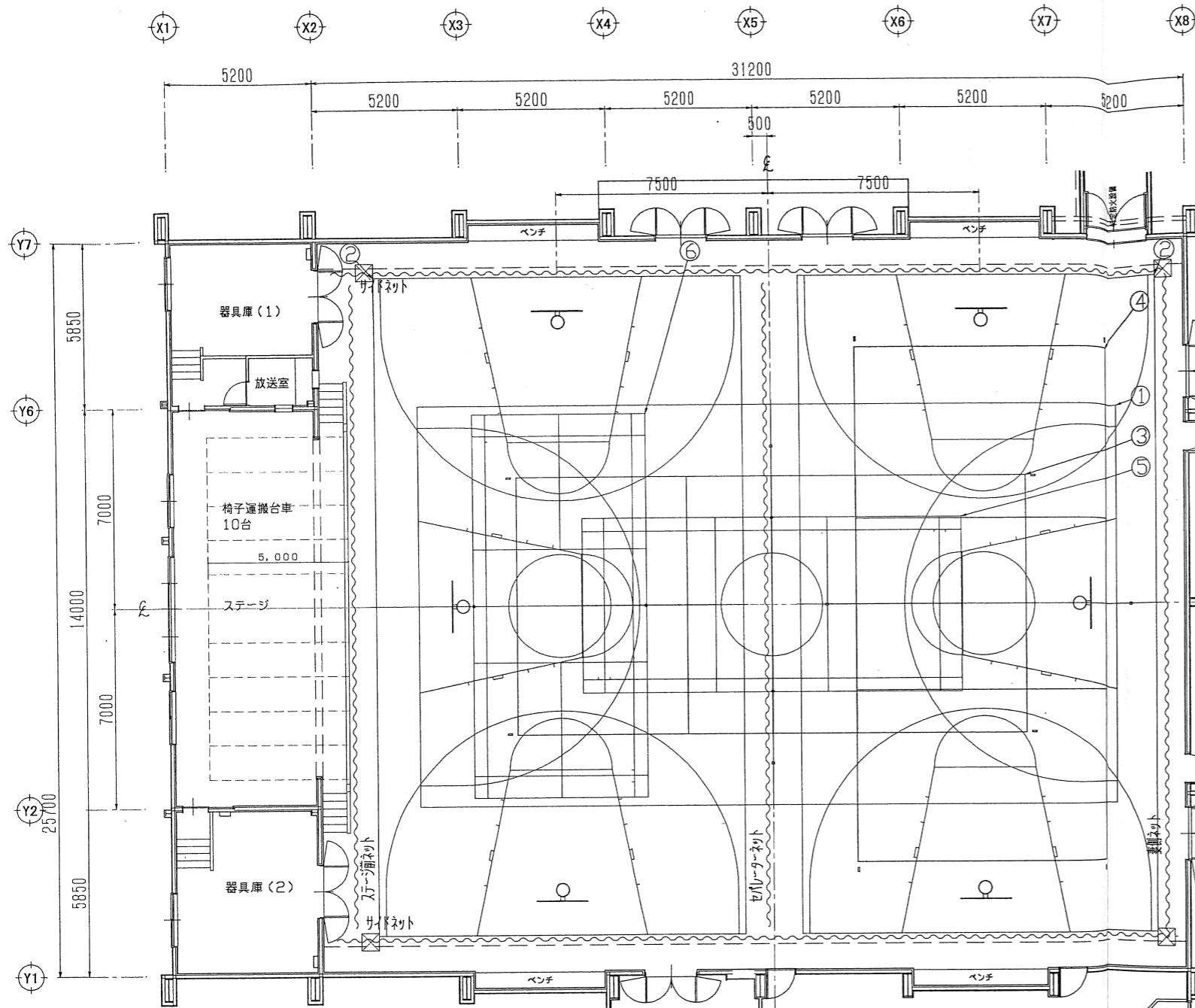
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

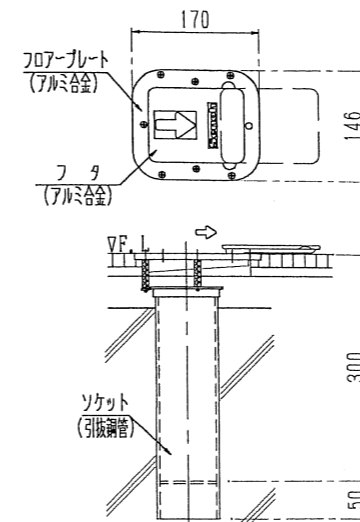
承認	審査	検図	製図
松木	熊谷	田村	田村

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	土間伏図

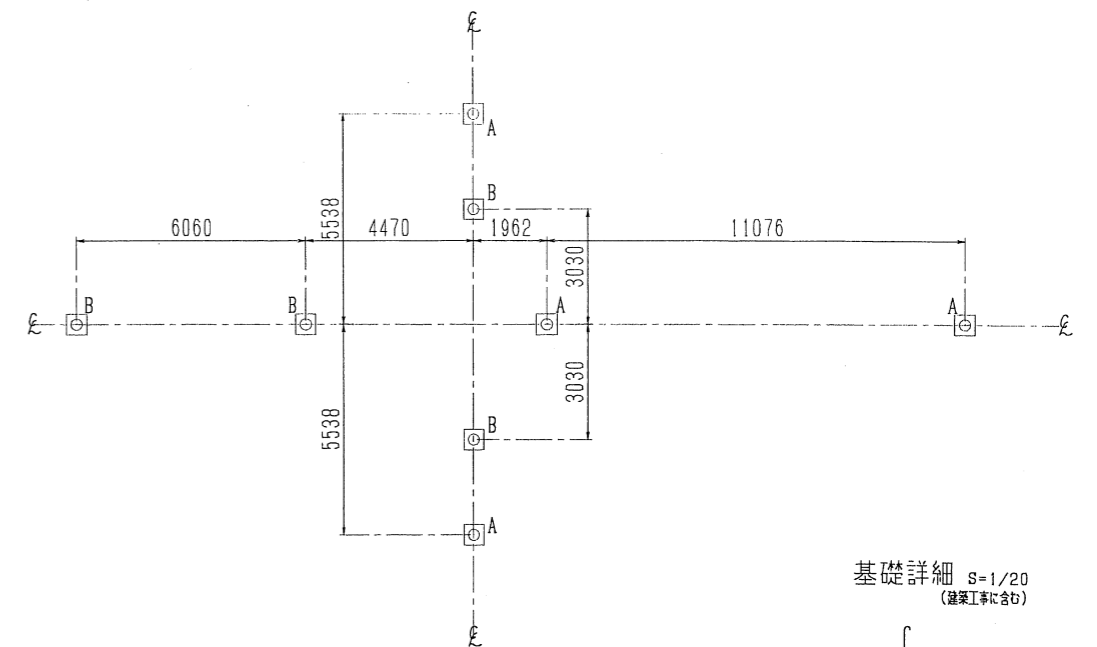
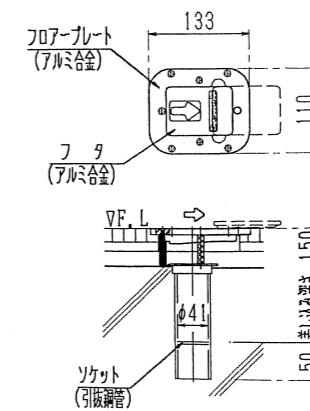
一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築意匠
	図面番号 33



KD0130 床金具AS型φ76用
(バレーボール用) S=1/5

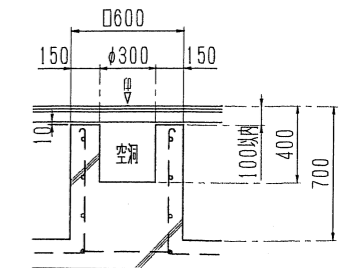
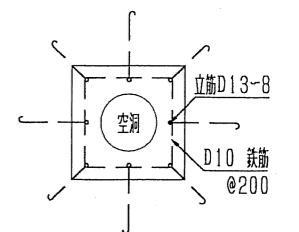


KD0530 床金具AS型φ40用
(バドミントン用) S=1/5

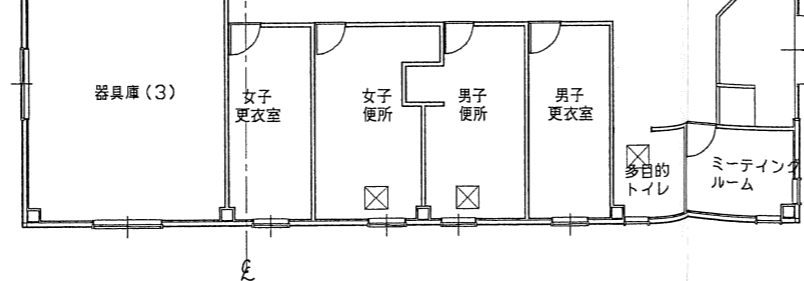


基礎配置図 S=1:100

基礎詳細 S=1/20
(建築工事を含む)

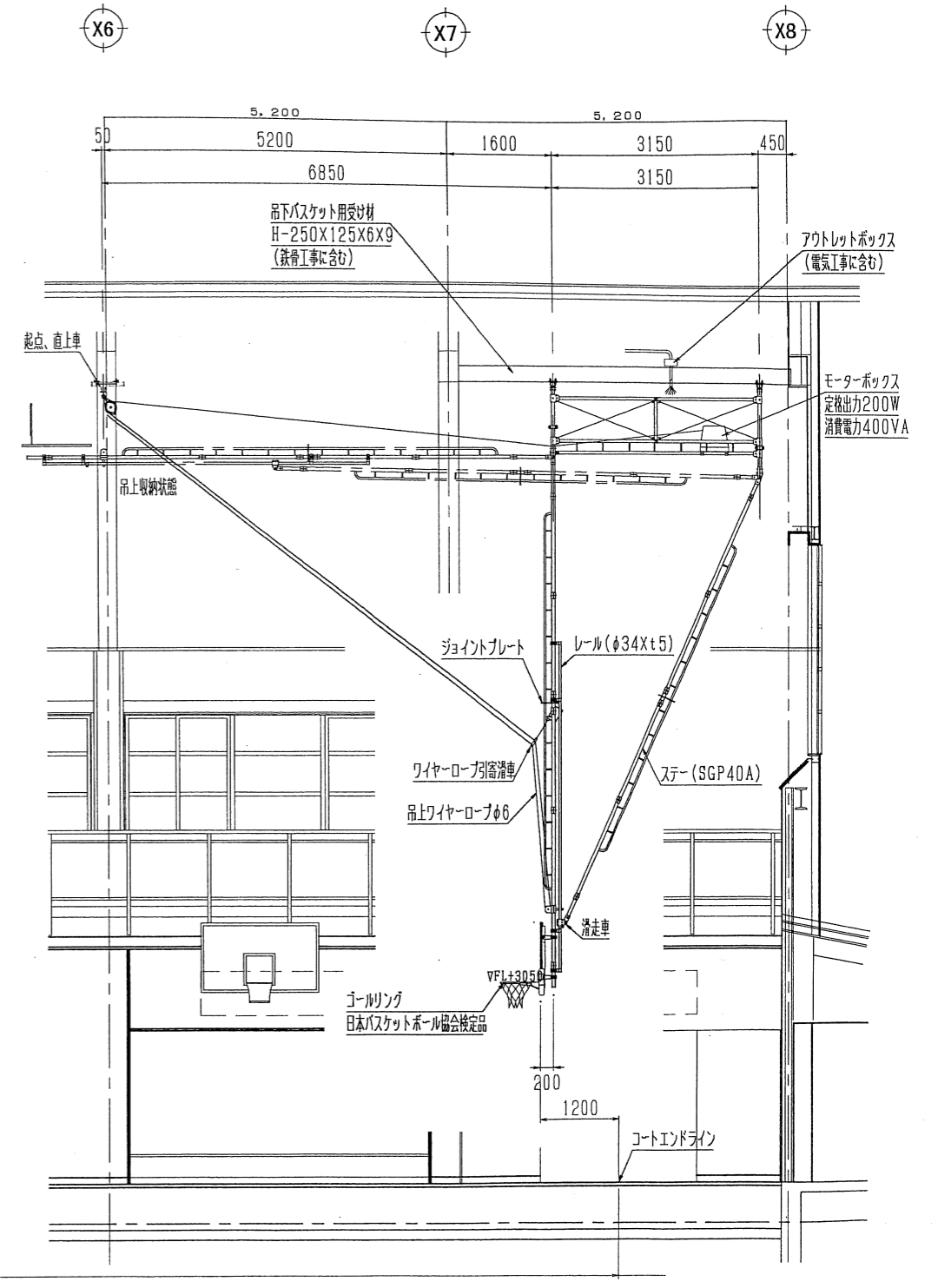
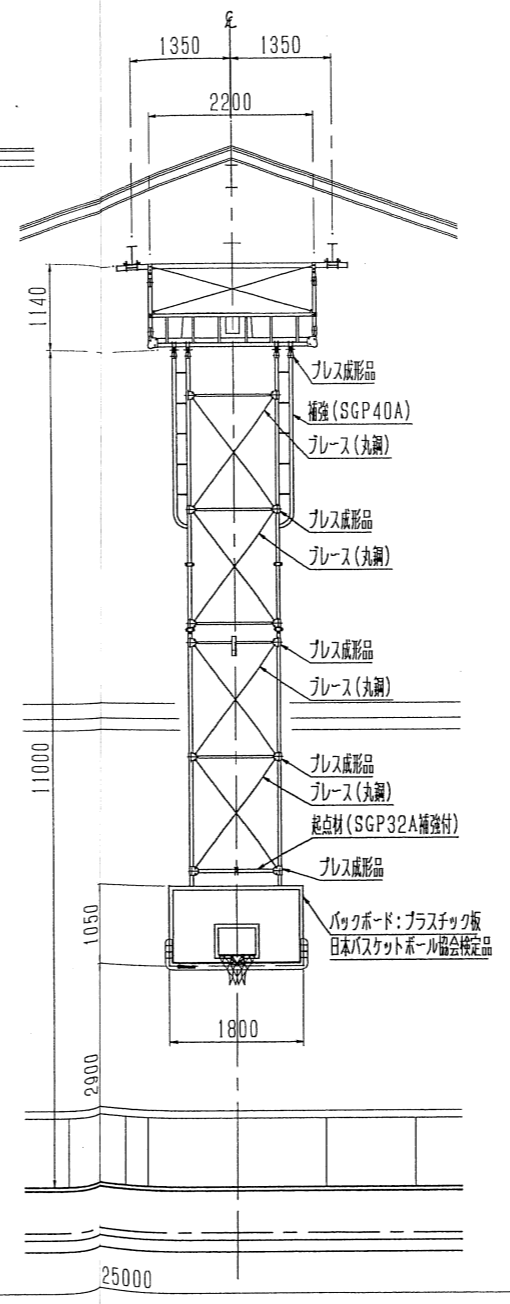
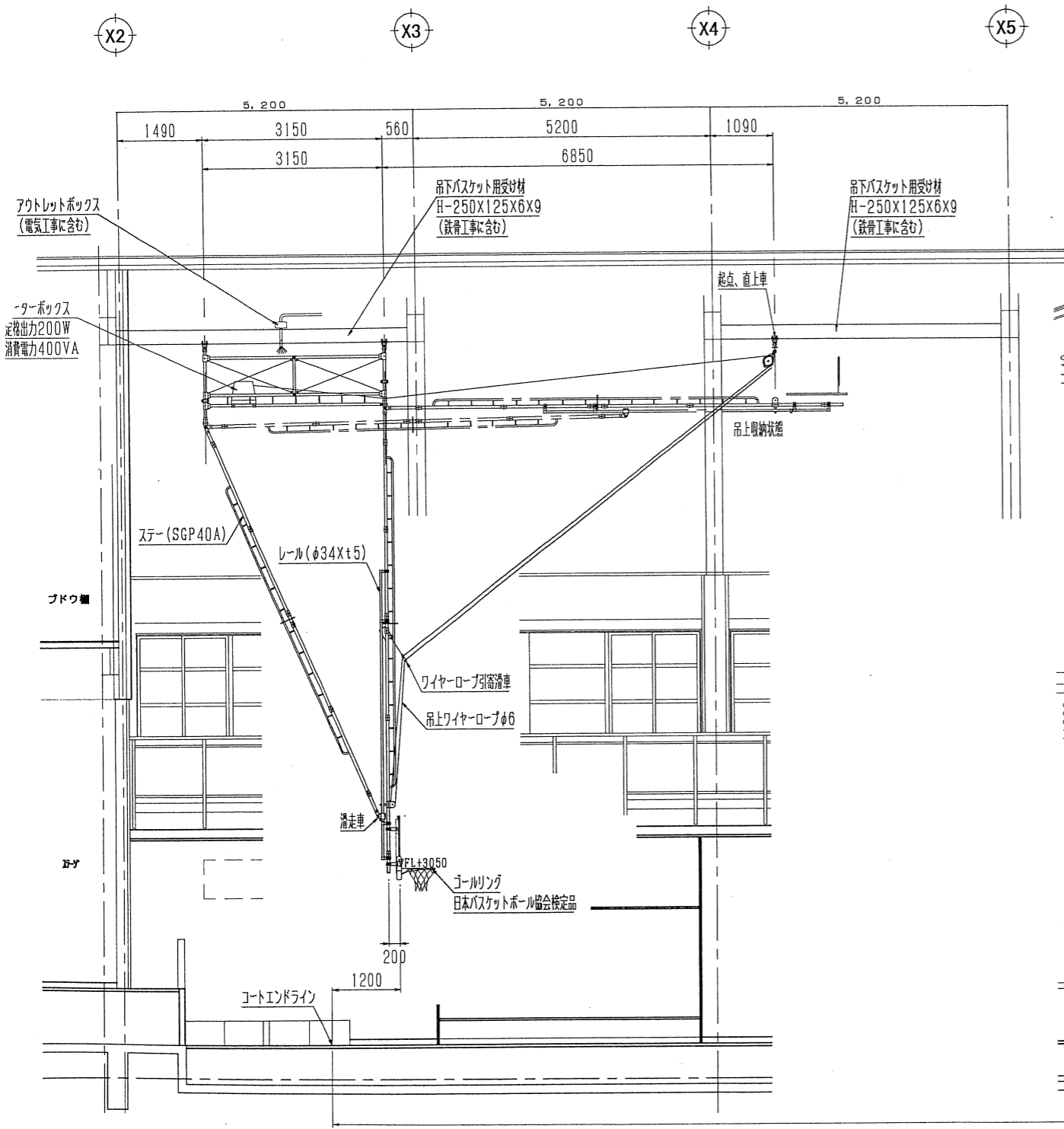


記号	種別	寸法	面数	備考	ライン色
1	メインバスケットボールコート	25000X14000	1面	実線	ライン幅50mm
2	サブバスケットボールコート	24000X13000	2面	実線	ライン幅50mm
3	メインバレーボールコート(6人制)	18000X 9000	1面	実線	ライン幅50mm
4	サブバレーボールコート(6人制)	18000X 9000	1面	実線	ライン幅50mm
5	メインバドミントンコート	13400X 6100	1面	実線	ライン幅40mm
6	サブバドミントンコート	13400X 6100	1面	実線	ライン幅40mm



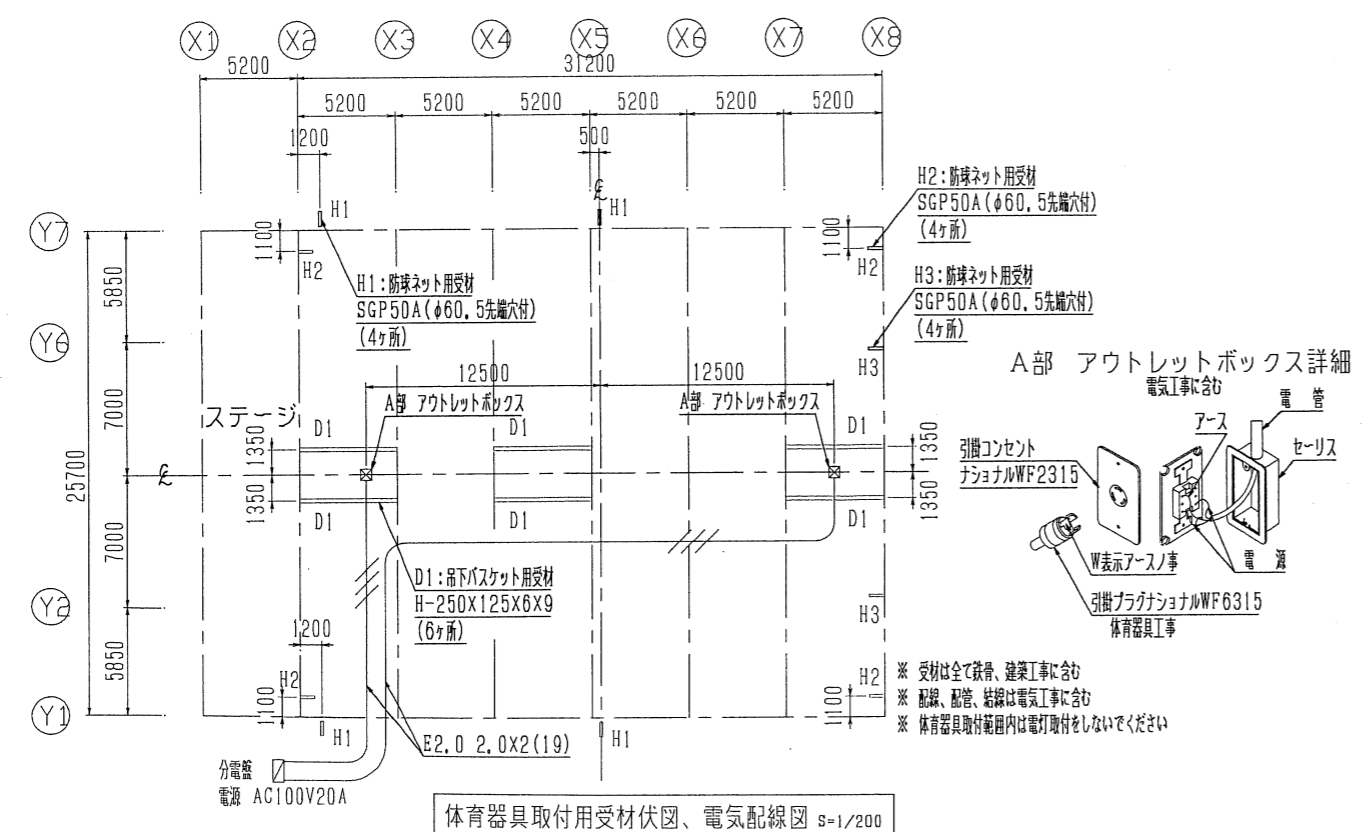
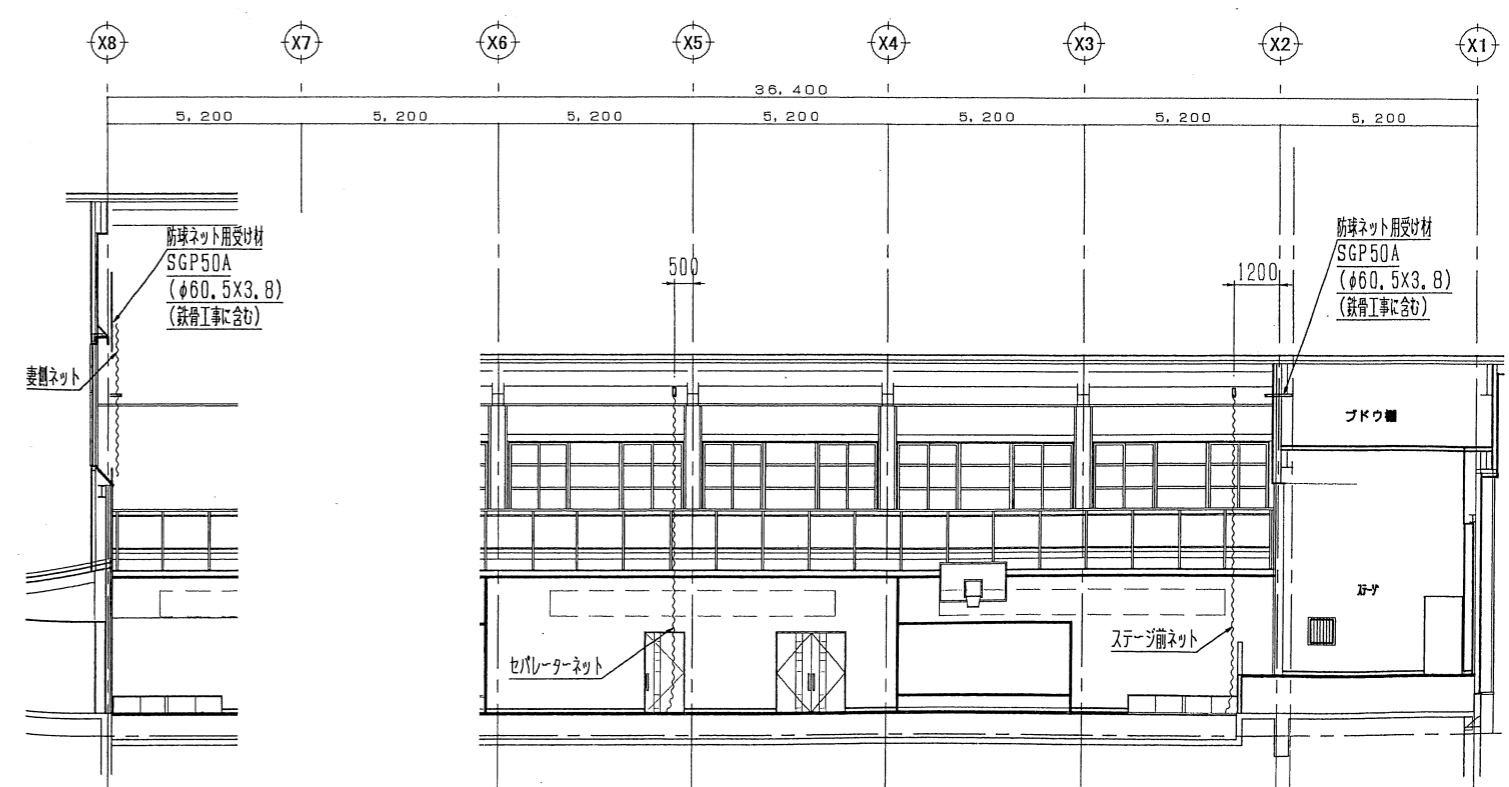
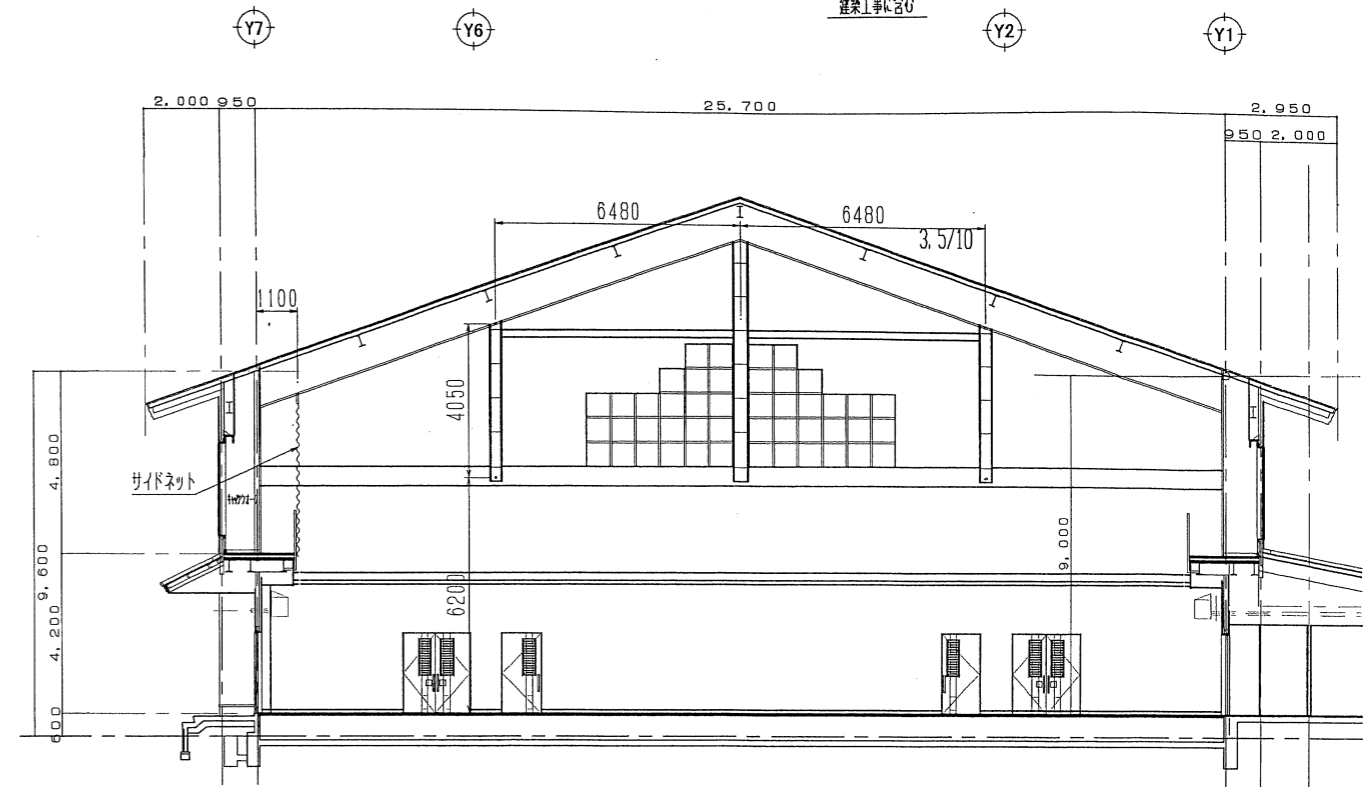
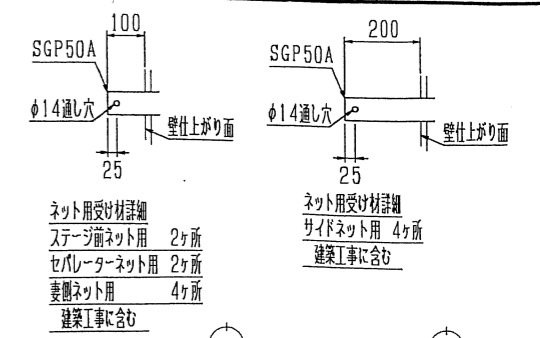
器具コート配置図 S=1:100

A	バレーボール用基礎	4個
B	バドミントン用基礎	4個
合計		12個



DA2140 バスケットゴール 前方吊上投光電動式 日本バスケットボール協会装置検定品 S=1/50

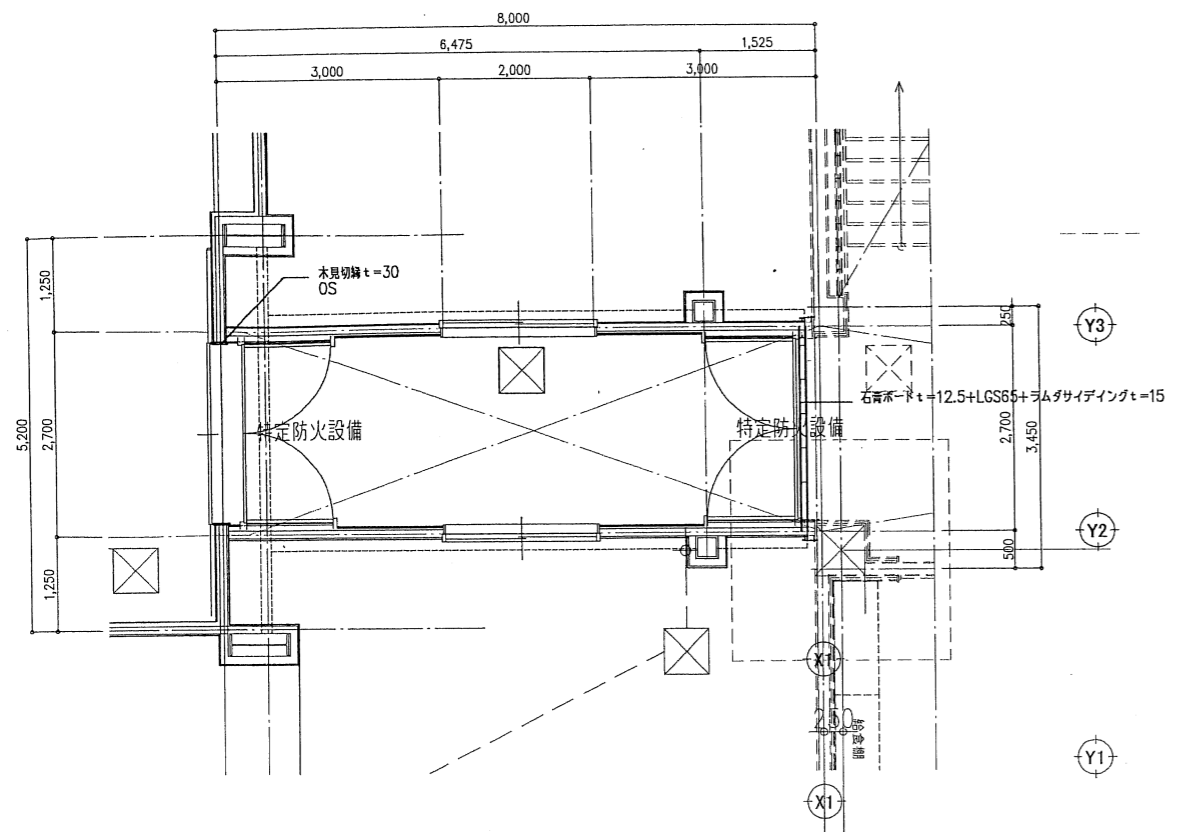
KUI ARCHITECTS STUDIO 株式会社 久慈設計 1級建築士事務所 岩手県 (株) 第5号 盛岡市雄勝町3番11号 TEL019-624-2020 FAX019-652-3040	特記	改訂番号	改訂月日	改訂内容	承認	審査	検図	製図	工事名称	一級建築士 登録第32339号 小川 博 図面区分 建築意匠 図面番号 屋-36
					櫻木	熊谷	田村	田村	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事) 図面内容 体育器具詳細図 (2)	図尺 1:50 図面番号 屋-36



特記	
改訂番号	
改訂月日	
改訂内容	

承認	審査	検図	製図	工事名称
				田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事(建築工事)
				図面内容
桜木	熊谷	田村	田村	体育器具詳細図

一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
図面区分 建築意匠	
縮尺 1:100	図面番号 屋-37

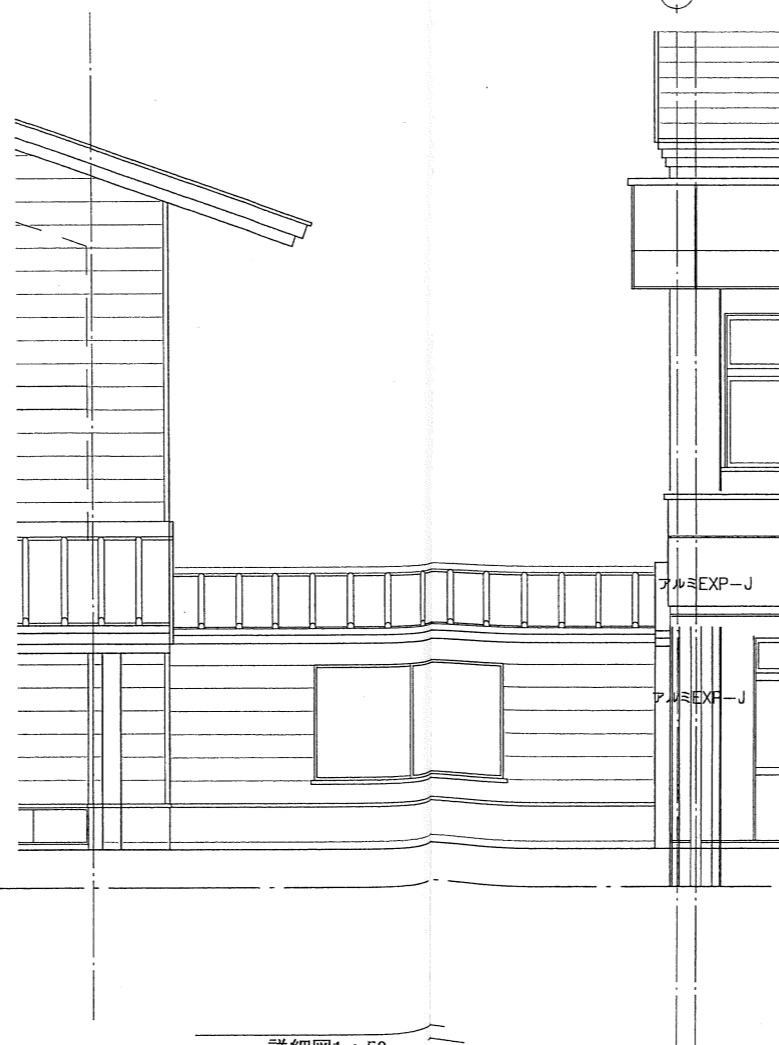
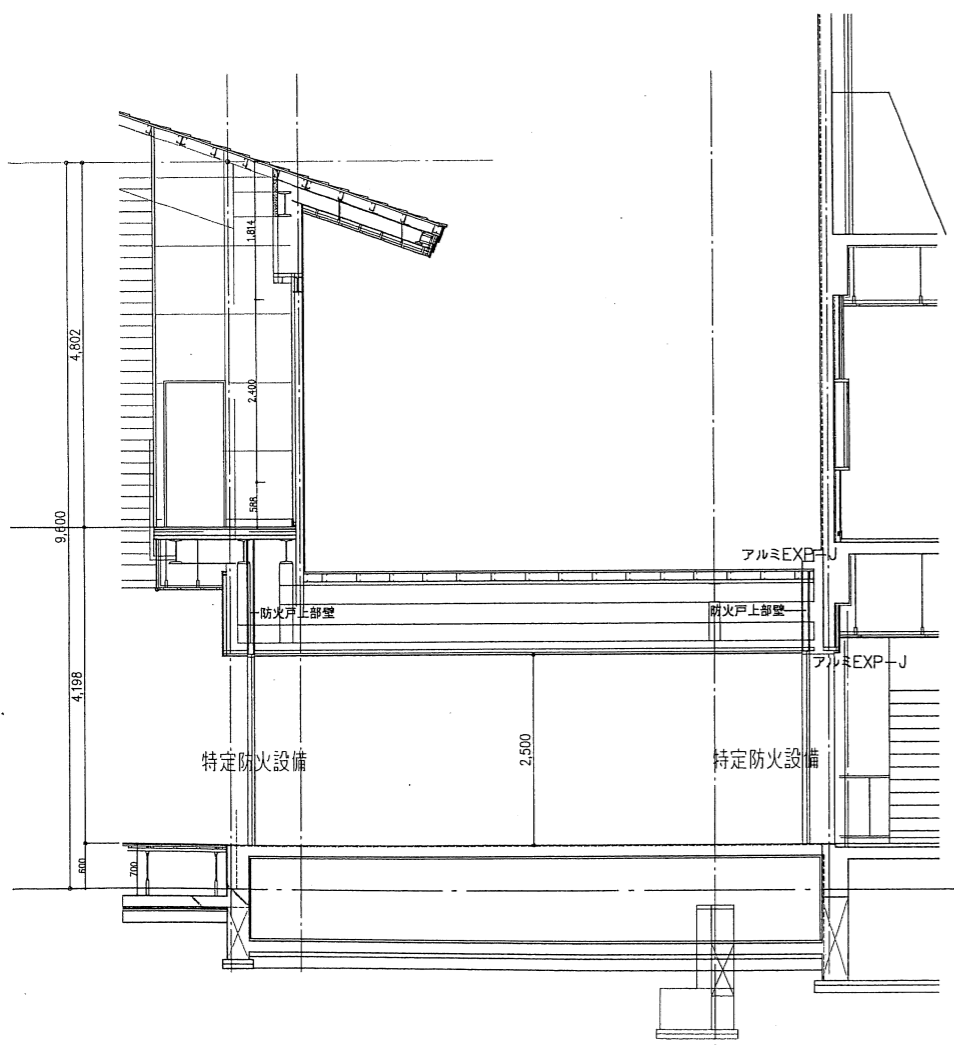


外部仕上表

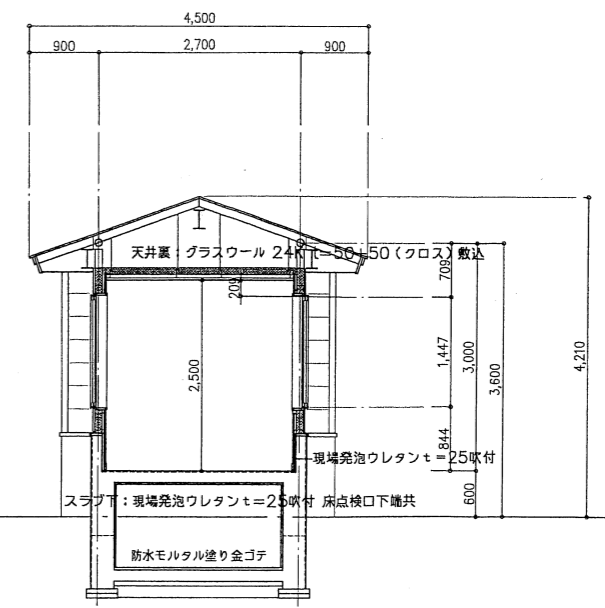
名称	内容
屋根	鉄骨小屋組ノ上 ハット型タルキ下地 木毛セメント板 t=25 下張りアスファルトルーフィング940下重 ハ合式瓦構(丸根カパー) フッ素樹脂鋼板 t=0.4 t=4.0ベフ裏張り 円筒葺き φ60 (勾配3.5/10) 役物 フッ素樹脂鋼板 t=0.4加工取付 鼻部、雨押工、棟包ミ、唐草水切アルミ 同上下地材 構造用合板(特種) t=12+12 積: 軒積120×120塩ビ製EP、縦積塩ビ製80φEP
軒天井	LGS野縁下地けい酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り EP(2) 廻縁 アルミ既製品
外壁	鉄骨脚縁下地透湿防水シートの上押出成形セメント板 t=15 ヨコ張り(金具止め) 塗装品 空気層10mm(ジョイントシーリング充填) 出隅、入隅: コーナー材は共材(シーリング充填) 水切: アルミ既製品 サッシ扉板 アルミパネル(スチカチ) t=2.0加工 裏ロックウールt=35吹付 表面扉板 アルミパネル(スチカチ) t=2.0加工 裏ロックウールt=35吹付 見切縁: フッ素樹脂鋼板 t=0.6加工包み L 170-60 構造用合板2+12下地 金物取合シーリング充填 基礎廻り: コンクリート打放補修ノ上アクリル系トップコート吹付仕上
その他	土間下 砕石地盤ノ上砂締メt=30 ポリエチレンフィルムt=0.15敷込合成樹脂発泡材 外壁廻り 防湿フィルム+ガラスウール50+50入り 24K(クロス) 天井裏: グラスウール 24K t=50+50(クロス) 敷込 外部廻りRC壁: コンクリート打放シ補修下地現場発泡ウレタンt=25吹付 接続廊下部分防火戸上部壁: LGS65下地9.5TB+9.5TSH(両面張り) QFO45NP-9009

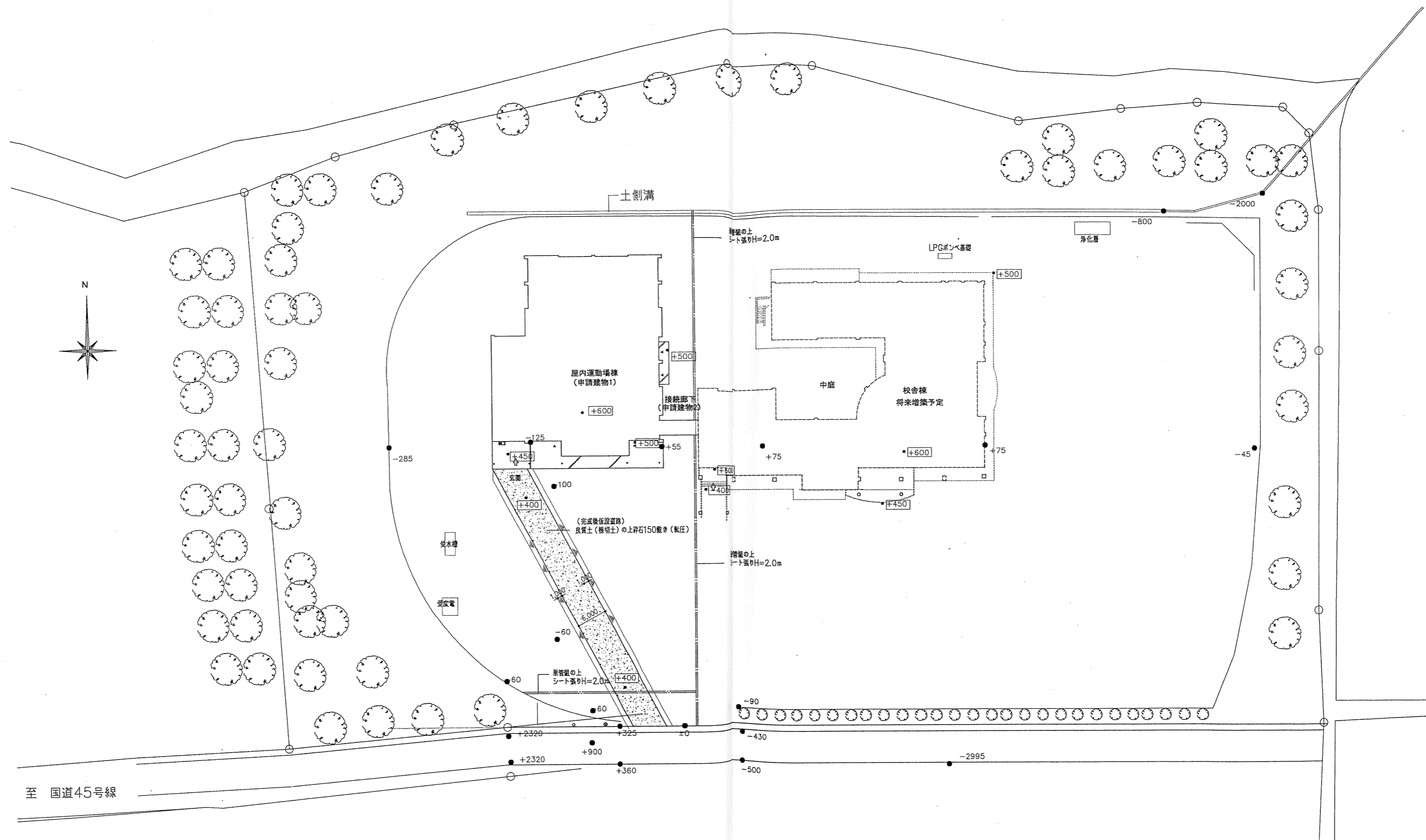
内部仕上表

室名	床	巾木	壁	天井	天井高	備考
接続廊下	コンクリート金ゴテ下地 複合フローリングt=15張り (ラバー付)	木製 100×25 OS	壁壁: 木脚縁下地(H=885) ラワンベニヤt=4.0下地 フローリングt=15張り 上壁: 木脚縁下地 ラワンベニヤt=4.0下地 シナ合板t=5.5張り 900×900 着色CL	LGS野縁下地 ロックウール吸音板GB t=12.0 -NC9.5下張り	2,500	床下点検口600 1ヶ所 天井点検口 2ヶ所



詳細図1: 50





□内は計画高さを示す

外構図 1/400

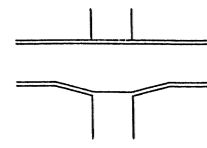
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検図	製図	工事名称
桜木	熊谷	田村	田村	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容				仮設計画図

縮尺	1:400
業務番号	06178
図面区分	建築意匠
図面番号	39

(d) ハンチが付いている場合、柱内定着を原則とする。ただし、幅が1/8以下の場合は折り曲げて通し金としてよい。



(f) 柱上層一階間の配筋 (ハンチのある場合)
図6.1.6

6-2 あばら筋腹筋及び幅止め筋

- (a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
- あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
 - 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000φ程度とする。
 - 腹筋に幅手を設ける場合の幅手長さは、150mm程度とする。
 - 腹筋の場合、腹筋の定着長さ及び幅手長さは、特記による。特記がなければ L_{2t} とする。
- (b) あばら筋組立ての形及びフックの位置
- 形は、図6.1.7(イ)とする。ただし、L形の場合は、(ウ)又は(ハ)、T形の場合は(ロ)-(ニ)とすることができる。

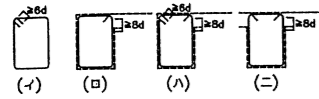
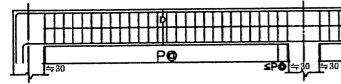


図6.1.7

- フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブのつく側、T形では交互とする。
- (ハ)の場合は、スラブのつく側を90°折曲げとする。

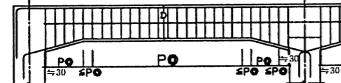
(c) あばら筋の割付

- 間隔が一様で、ハンチのない場合



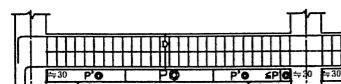
(注) 1. あばら筋は、柱筋の位置から30mm離れた位置から折り付ける。
2. 柱中のPφは、特記された場合の位置を示す。
図6.1.8

- 間隔が一様で、ハンチのある場合



(注) 1. あばら筋は、柱筋の位置から30mm離れた位置から折り付ける。
2. 柱中のPφは、特記された場合の位置を示す。
図6.1.9

- 梁の端部で異なる場合



(注) 1. あばら筋は、柱筋の位置から30mm離れた位置から折り付ける。
2. 柱中のPφは、特記された場合の位置を示す。
図6.1.10

あばら筋の折りつける柱筋から片押して折りつけるものとする。折り切れない部分は、決められたピッチより小さい部分を作って処理する。
ハンチがある場合は、柱筋位置、及び折りあばら筋の位置が決まり、ハンチ部分、中央部を決められた間隔または間隔以下に折りつける。

(d) 腹筋及び幅止め筋

- 一般の梁

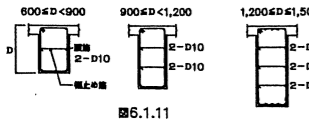


図6.1.11

- 壁梁

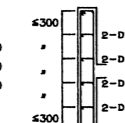


図6.1.12

- 2段筋の間隔保持のための用り筋

図6.1.13

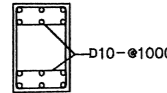


図6.1.13

7 小ばり及び片持ちばり

7-1 小ばり筋の継手及び定着

- (a) 連続小ばり

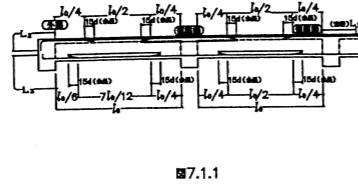


図7.1.1

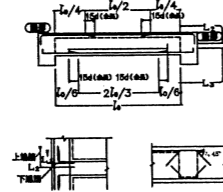


図7.1.2

- (c) あばら筋は、4-2による。
(d) 打増し補強筋は、図12.2.1による。

7-2 片持ち梁筋の定着

- (a) 先端に小梁のない場合

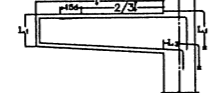


図7.2.1

- (b) 先端に小梁がある場合

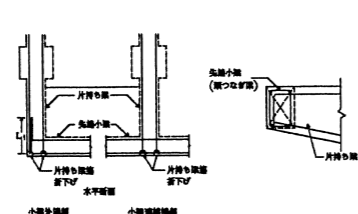


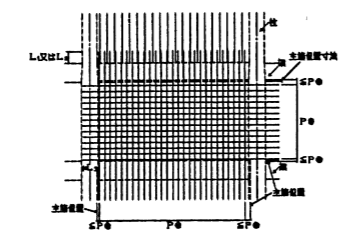
図7.2.2

- (b) あばら筋は、4-2による。
(c) 打増し補強筋は、図12.2.1による。

8 壁

8-1 一般事項

- 壁筋の重ね継手及び定着長さは、 L_{2t} とする。
- 土圧等を受ける壁及び耐震壁として特記されたものは、重ね継手長さを L_1 、定着長さを L_{2t} とする。
- 重ね継手及び定着の長さがとれない場合は、監督員の手承を受けて、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とすることができる。
- 幅止め筋は、縦、横ともD10-1,000φ程度とする。
- 一般壁筋の配筋は、図8.1.1による。



(注) Pφは、壁筋の位置を示す。
図8.1.1

特記

(b) 交差部及び端部の配筋

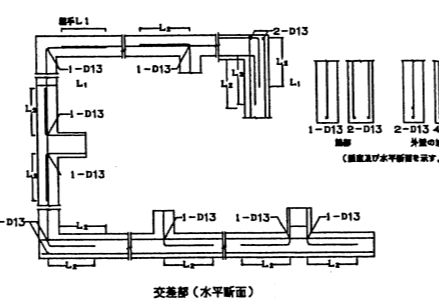


図8.1.2

8-2 柱への定着

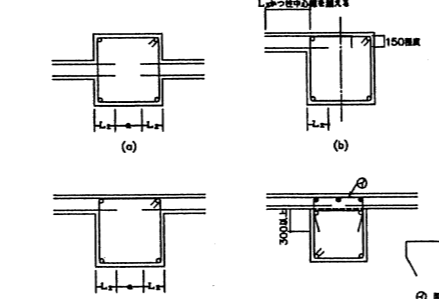


図8.2.1

8-3 はりへの定着

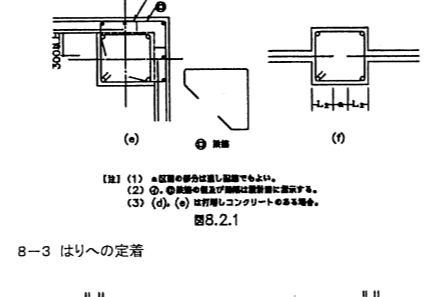


図8.3.1

8-4 壁開口部補強の定着長さ

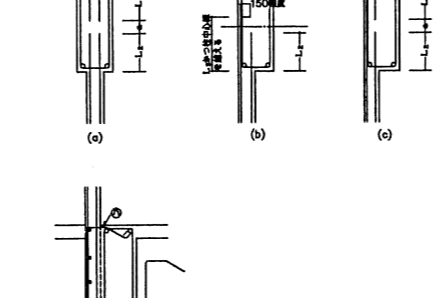


図8.4.1

(a) 開口部の補強

- 壁開口部補強筋の定着長さは、図8.4.1による。

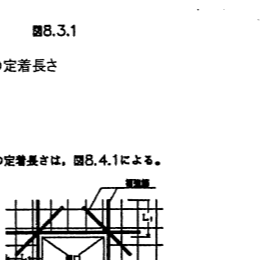


図8.4.1

- 開口部柱及び梁に挿入する部分又は最大径が300mm以下で鉄筋を壁や柱に曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

- (1) 一般の場合 (2) 開口部が、鉄筋コンクリートの柱又は梁に挿入する場合

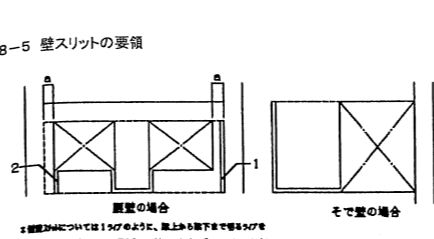


図8.5.1

8-5 壁スリットの要領

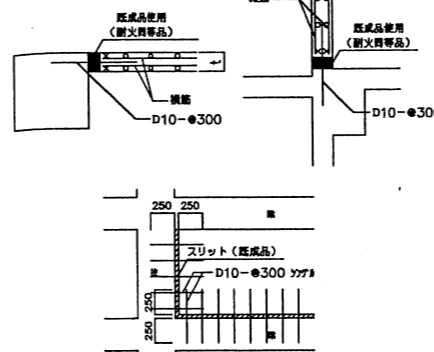


図8.5.1

8-6 パラベットの配筋

- パラベットの配筋は、表8.6.1による。

表8.6.1			
コンクリート厚さ	方向	配筋	先端補強筋
特記による	縦	D10-150φ	D10-200φ
	横	D10-150φ	D10-100φ

8-7 補強コンクリートブロック造

- この項は、建築用コンクリートブロック(以下、「ブロック」という)を組積し、鉄筋により補強された耐震壁による小規模な構造体(以下、「構造体」という)に適用する。なお、基礎、がらう、スラブ等については、共仕5章「鉄筋工事」及び共仕6章「コンクリート工事」による。

材料
(a) ブロックは、JIS A5406(建築用コンクリートブロック)により、種類及び厚さは特記による。
(b) コンクリート

- 積層材の最大寸法は砂利は25mm、砕石は20mmとし、充てん用コンクリートの場合は鉄筋を挿入する空洞部の最小径の1/5、かつ、砂利は20mm以下、砕石は15mm以下とする。
- (1)以外は、共仕5章3節「普通コンクリートの材料」による。
- 鉄筋は共仕5章2節「材料」により、種類の記号はSD295Aとする。
- モルタル用材料は、共仕15.2.2「材料」による。ただし、化粧目地用の砂の粒径は、共仕表15.2.1「砂の粒径」の上塗り用とする。

鉄筋の加工及び組立て

- (a) 一般事項
- 壁筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、上下端は、がらう、基礎等に定着する。

- なお、壁筋はに幅手を設けない。
- 壁筋は、壁筋の端部に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の筋筋に重ね継手とする。
 - 壁筋のかぶり厚さの最小値は、20mmとする。ただし、ブロックフェイスには、かぶり厚さには含まない。
 - 壁筋の重ね継手長さは45dとし、定着長さは40dとする。
 - (1)から(4)以外は、共仕5章「鉄筋工事」による。

- (b) 各部の配筋
- 壁の配筋(交差部、端部の補強筋を含む。)は、特記による。
 - 交差部、端部(開口部)の配筋は、図8.7.1による。

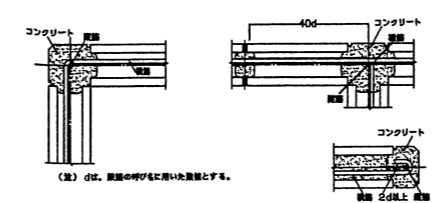


図8.7.1

- まがきは鉄筋コンクリート造とし、配筋は特記による。ただし、特記がなければ、図8.7.2及び図8.7.3による。なお、既設まがきを使用する場合は、監督員の手承を受けて、(1)一般の場合 (2) 開口部が、鉄筋コンクリートの柱又は梁に挿入する場合

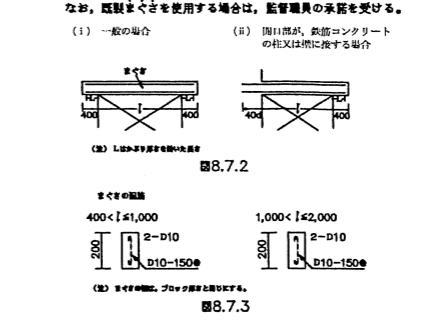


図8.7.2

- 最大径の制限
400 < L ≤ 1,000
2-D10
D10-150φ
- 1,000 < L ≤ 2,000
2-D10
D10-150φ

図8.7.3

8-8 コンクリートブロック組積壁及び壁

- この項は、建築用コンクリートブロック(以下この項では「ブロック」という。)を組積し、鉄筋により補強された最低高さ2.2m以下の壁に適用する。この項に定める以外の事項は、1項による。

鉄筋の加工および組立て

- (a) 一般事項
- 主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。なお、主筋はに幅手を設けない。ただし、組積の場合は、溶接長さ10d以上の片側アール溶接を行う場合は、幅手を設けることができる。
 - 壁筋は、壁筋の端部に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の筋筋に重ね継手とする。
 - 壁筋の重ね継手長さは45dとし、定着長さは次のとおりとする。

- 壁筋の重ね継手長さは45dとし、定着長さは次のとおりとする。
- (1)以外の場合は、40dとする。
- ブロックの端部の筋筋は、壁筋の端部に定着する。ただし、定着長さがとれない場合は、端部の筋筋にかぎ掛けとし、最上層は、下に折り曲げて定着する。
- ブロックの筋筋は、下部は基礎に定着し、上部は筋筋に180°フックによりかぎ掛ける。ただし、増層部の場合は、壁筋の空洞部に定着する。

- (b) 各部の配筋
- 壁の配筋は、特記による。ただし、特記がなければ表8.8.1による。

表8.8.1 壁の配筋間隔			
用途	厚さ	筋	配力筋
内	200	D10-400φ	D10-400φ
外	200	D13-400φ	D10-400φ

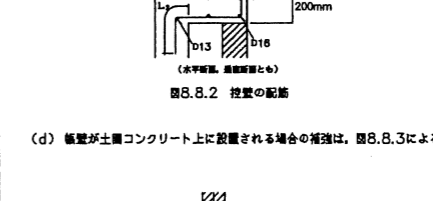


図8.8.1

(c) 控壁

- 控壁の配筋は、特記による。
- 配筋は、図8.8.2による。

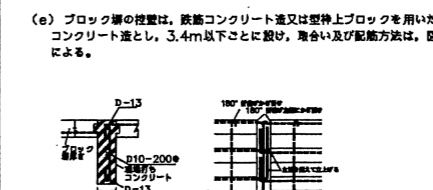


図8.8.2

(d) 基礎が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図8.8.3による。

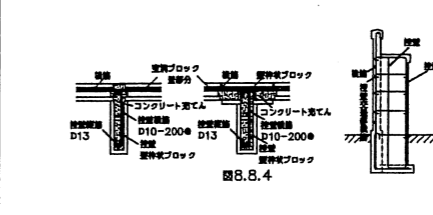


図8.8.3

- (e) ブロック壁の控壁は、鉄筋コンクリート造又は型枠コンクリート造を用いた鉄筋コンクリート造とし、3.4m以下に設け、取合い及び配筋方法は、図8.8.4による。

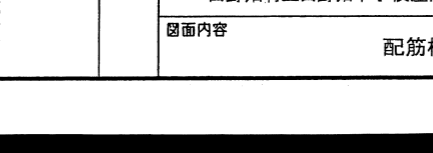


図8.8.4

- (f) ブロック壁の交差部及び端部の配筋は、図8.8.5による。

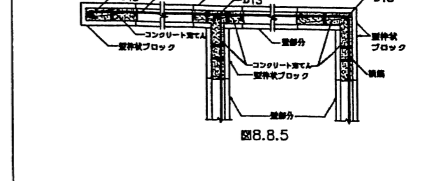


図8.8.5

9 スラブ

9-1 スラブの配筋

- スラブの配筋は図9.1.1により、配筋及び厚さは特記による。

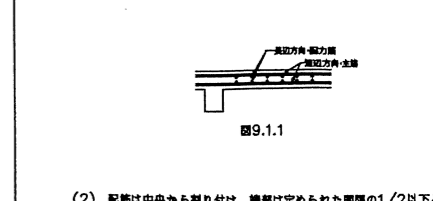


図9.1.1

- 配筋は中央から折り付け、端部は定められた間隔の1/2以下とする。
- 鉄筋の重ね継手長さは、 L_1 とする。
- 定着長さ及び受け筋は、図9.1.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図9.1.3により端部に定着する。

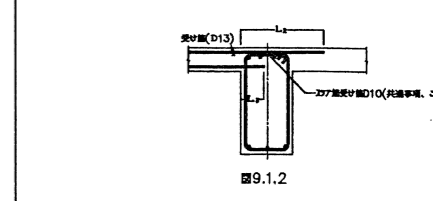


図9.1.2

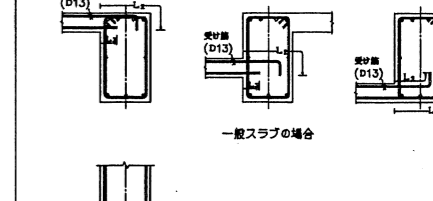


図9.1.3

- (b) 各部の配筋
- 壁の配筋は、特記による。ただし、特記がなければ表8.8.1による。

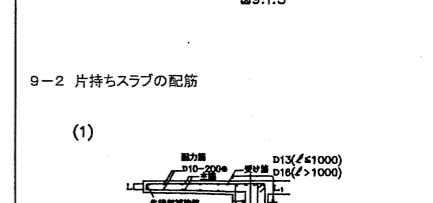


図9.1.3

9-2 片持ちスラブの配筋

- 片持ちスラブの配筋は、図9.2.1による。

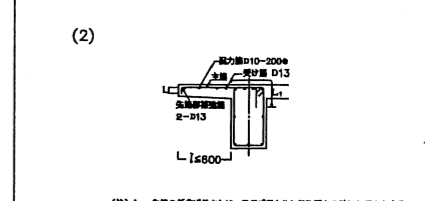


図9.2.1

- 片持ちスラブの配筋は、図9.2.2による。

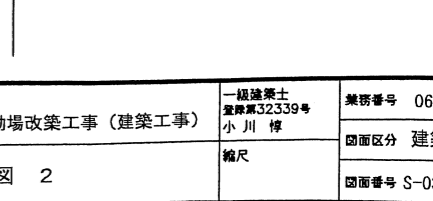


図9.2.2

(2) 先端に壁が付く場合

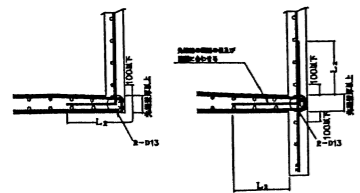


図9.2.3

- (3) 出隅部
 (1) 補強筋の配筋は、特記による。特記がなければ、D10-100φダブルとする。配筋方法は、図9.2.4による。
 (2) 出隅受け部の補強筋は、特記による。

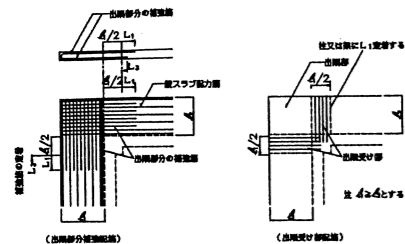


図9.2.4

(a) スラブ開口部の補強

- スラブ開口部の補強は、特記による。特記がなければ、次による。
 (1) スラブ開口部の最大径が70mm以下の場合は、図9.2.5により開口部によって切られる鉄筋と同等の鉄筋で周縁を補強し、隅角部に斜め方向に2-D10(L=2L)ラングルを上下筋の内側に配筋する。

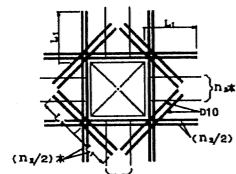


図9.2.5

- (2) スラブ開口部の最大径が開口部方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 (b) 重複スラブの補強
 重複スラブの出隅及び入隅部分には、図9.2.6により、補強筋を上筋筋の下側に配置する。

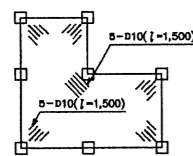


図9.2.6

(c) 土間スラブの打増し補強

- 基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打増しを設ける場合の補強は、特記による。特記がなければ、図9.2.7による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

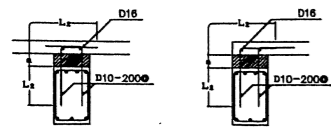


図9.2.7

(d) 土間コンクリートの補強

- 土間コンクリートの補強筋は、特記による。なお、基礎梁との接合部は、図9.2.8による。

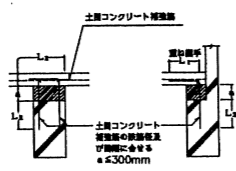


図9.2.8

10 階段

10-1 片持ちスラブ形階段の配筋

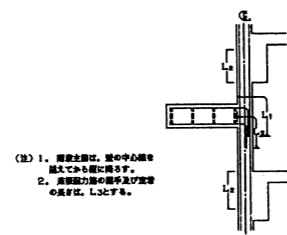


図10.1.1

10-2 二辺固定スラブ形階段の配筋

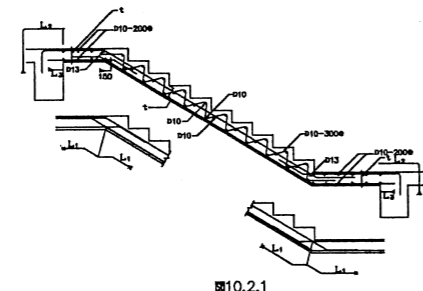


図10.2.1

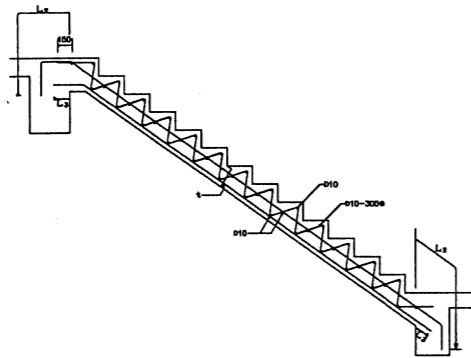


図10.2.2

11 梁貫通孔の補強

11-1 一般事項

- (a) 梁貫通孔の補強は、特記による。特記がなければ、次による。
 (1) 梁貫通孔補強の名称等は、図11.1.1による。
 (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外縁とする。
 (3) 孔の上下方向の位置は、図11.1.2による。
 (4) 孔の中心位置の偏位は、柱及び重なる梁(小梁)の面から原則として1.2D(Dは梁せい)以上離す。
 (5) 孔が並列する場合は、その中心間隔は、孔の平均径の3倍以上とする。
 (6) 縦筋及び上下筋は、あばら筋の形に配筋する。
 (7) 補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督職員の承認を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定長は、図11.1.3による。
 (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。
 (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出は10mm以上とする。
 (10) 溶接金網に付けるリング筋は、溶接金網に4個以上溶接する。
 (11) 溶接金網の割付け地点は、縦筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
 (12) 補強筋で定められている製品を使ってもよい。ただし、その際は計算と施工要領書を提出すること。

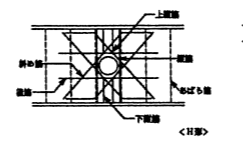


図11.1.1

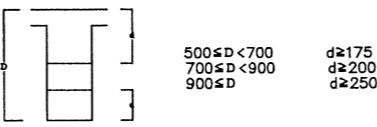


図11.1.2

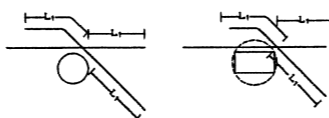


図11.1.3

- (13) 補強形式は表11.2.1～表11.4.1により、配筋種別は特記による。

11-2 H形配筋

表11.2.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

11-3 M形配筋

表11.3.1 M形配筋

配筋種別	斜め筋	溶接金網	リブ筋	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13	なし	なし	
M3	4-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
M4	6-2-D13	なし	なし	

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

11-4 MH形配筋

表11.4.1 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リブ筋	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
MH3	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
MH5	4-2-D16	なし	なし	なし	
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	13φ	
MH7	4-2-D19	なし	なし	なし	

(注) - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

11-5 配筋の表示

凡例	配筋
斜め筋 4-2-D22	4本のD22が2面入ることを示す
縦筋 4-2-D13	4本のD13があばら筋状に孔の両側に2本ずつ入ることを示す
上下縦筋 3-2-D13	孔の上下の部分にそれぞれD13のあばら筋が3本入ることを示す
溶接金網 2-6φ-100φ	6φ-100φの溶接金網が2面入ることを示す

11-6 配筋種別選定表

配筋種別選定表用せん断補強係数
 付表中A～Hは梁のせん断補強係数に対応した記号で下記による。

A	D10-200φ	E	D10-100φ
B	D10-150φorD10-D13-200φ	F	D13-150φorD10-D13-125φ
C	D10-125φ	G	D13-125φorD10-D13-100φ
D	D13-200φorD10-D13-150φ	H	D13-100φ

11-7 貫通孔標準補強表

梁径φ	梁高h	貫通孔標準補強表 (F ₀ ≦240kgf/cm ²)															
		30				35				40							
cm	cm	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H
50	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
55	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
60	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
65	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
70	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
75	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
80	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
85	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
90	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
95	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
100	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
110	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
115	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
125	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
130	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
135	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
140	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
145	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
150	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
155	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
160	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
165	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
170	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
175	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
180	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
185	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
190	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
195	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
200	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(注) 梁せい等が上表の中間にある場合は、補強筋の多い方を採用する。

12-3 壁の打増し補強筋

- 壁の打増し補強筋は図12.3.1により、打増し厚さが50mm以上、200mm以下に適用する。200mmを超える場合は特記による。

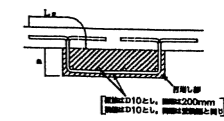
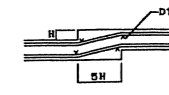


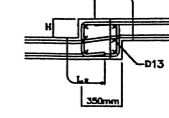
図12.3.1

12-4 段差のある床版の補強筋

- 150mm以下の段差のあるスラブの補強は、図12.4.1による。



(a) 段差が70mm以下の場合



(b) 段差が70mmを超え、150mm以下の場合

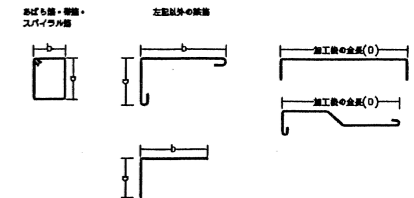
図12.4.1

13 その他

13-1 鉄筋の加工寸法の許容差

加工寸法の許容差	加工寸法の許容差		
	項目	符号	許容差(mm)
各加工寸法 ⁽¹⁾	あばら筋・溶接金網・スパイラル筋	a, b	±5
	径28mm以下の丸筋、径25以下の角形鉄筋	a, b	±15
	径32mm以下の丸筋、径29以上の角形鉄筋	a, b	±20
	加工後の全長	0	±20

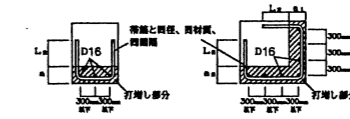
[注] (1) 各加工寸法および加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



12 その他の補強

12-1 柱の打増し補強筋

- (a) 柱の打増しは図12.1.1により、打増し幅が70mm以上、200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、特記による。
 (b) 梁及び耐力壁の鉄筋の定長は、打増し部分を除いて算定する。



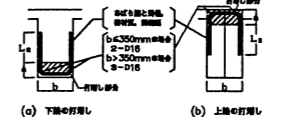
(a) 1方向の打増し (b) 2方向の打増し

(70mm≦a, a, a≦200mmの場合)

図12.1.1 柱の打増し補強

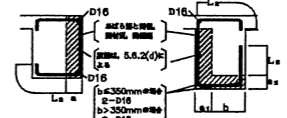
12-2 梁の打増し補強筋

- 梁の打増しは図12.2.1により、打増し幅が70mm以上、200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、特記による。
 なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定長は、打増し部分を除いて算定する。



(a) 下側の打増し

(b) 上側の打増し



(c) 側面の打増し

(d) 2方向の打増し

(70mm≦a, a, a≦200mmの場合)

図12.2.1 梁の打増し補強

第1章 総則

1.1 目的

この設計標準は、建築工事の鉄骨に關する基本的事項及び接合部の標準的な詳細について定め、鉄骨工事の質の均一化をはかることを目的とする。

1.2 適用範囲

この設計標準は、原則として鉄骨鉄筋コンクリート造及び中小規模の鉄骨造の設計に適用する。

第2章 溶接接合

2.1 溶接工法

適用する溶接工法は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフガスシールドアーク半自動溶接及びサブマージアーク自動溶接及びアークスタッド溶接とする。

2.2 溶接継手

溶接継手の種類は、突合せ溶接、隅肉溶接、部分溶込み溶接、フレア溶接とし、突合せ溶接の継手形状の種類は、突合せ継手、T形継手、かど継手とする。

2.3 溶接継手の表示記号及び記載方法

(1) 表示記号

表 2.1 溶接工法、溶接継手及び溶接面の分類記号

分類	種類	記号
溶接工法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフガスシールドアーク半自動溶接	H
	サブマージアーク自動溶接	A
溶接継手	アークスタッド溶接	SW
	突合せ溶接	B
	T形継手	T
	かど継手	L
	隅肉溶接	F
溶接面	部分溶込み溶接	P
	フレア溶接	FL
	片面溶接	1
	両面溶接	2

(注) 両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表裏の両面より溶接を行うことをいう。

区分	補助記号
現場溶接	▲
全周溶接	○
全周現場溶接	○▲
断面溶接の長さ及び間隔	L-P

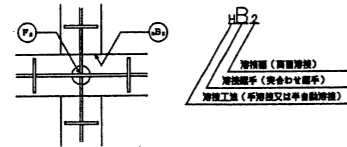


図 2.1 溶接継手の記載方法の例

2.4 溶接の種類別開先形状

(1) 突合せ溶接

図 2.2 突合せ継手 (B)

(単位: mm)

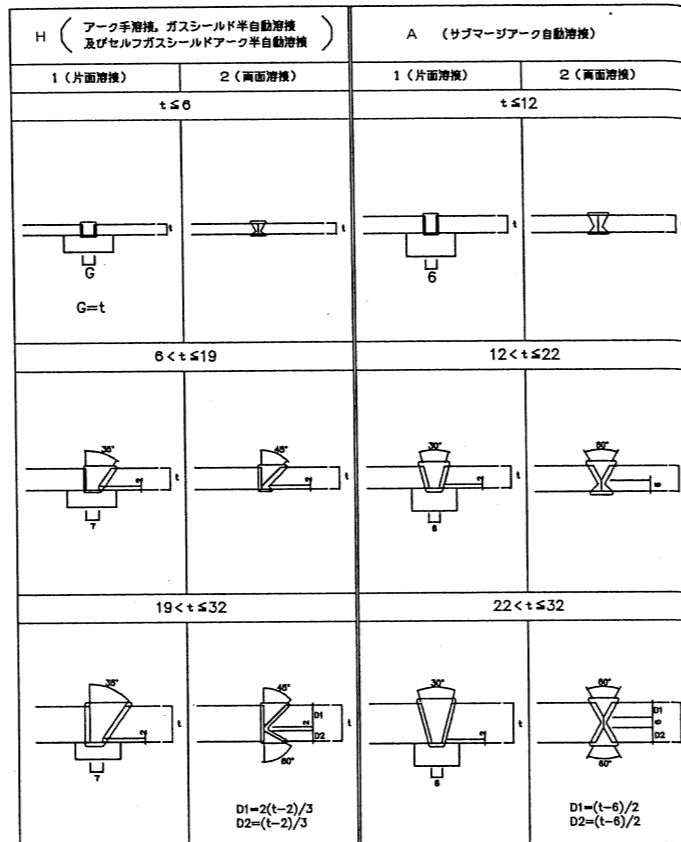


図 2.3 T形継手 (T)

(単位: mm)

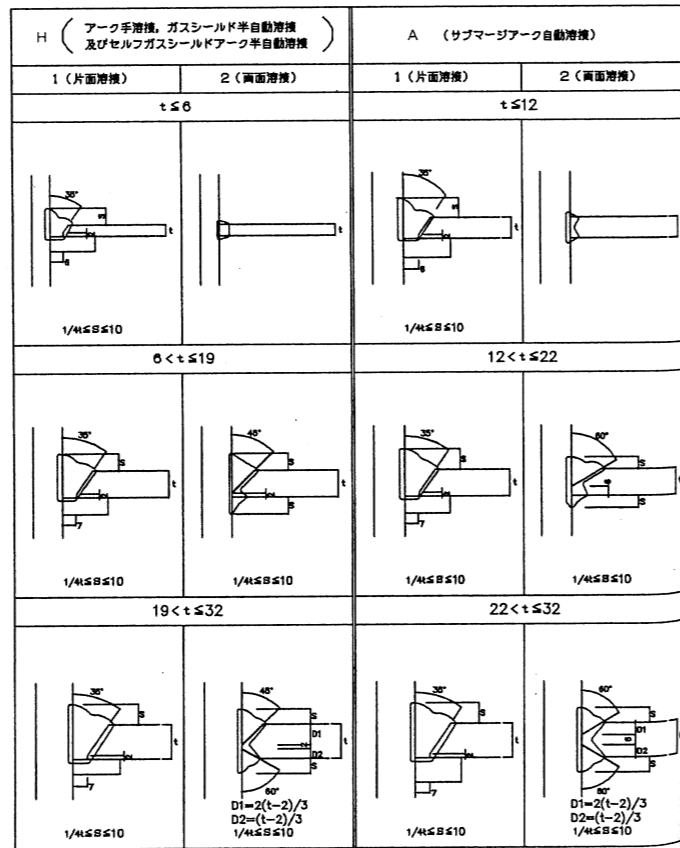
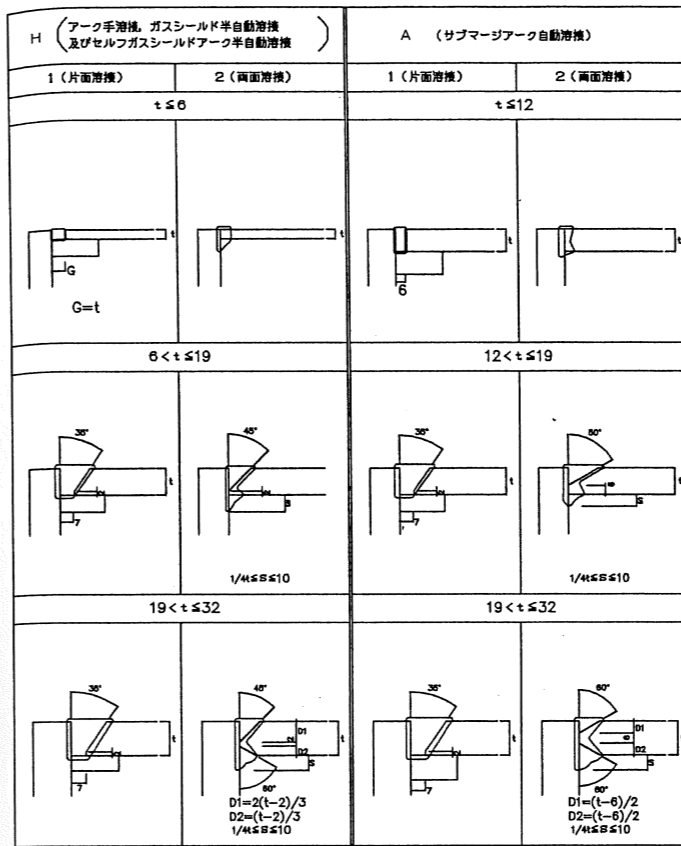


図 2.4 かど継手 (L)

(単位: mm)



(2) 隅肉溶接

隅肉溶接(F)の開先標準は、図2.5により隅肉溶接(S)は表2.2による。

(単位: mm)

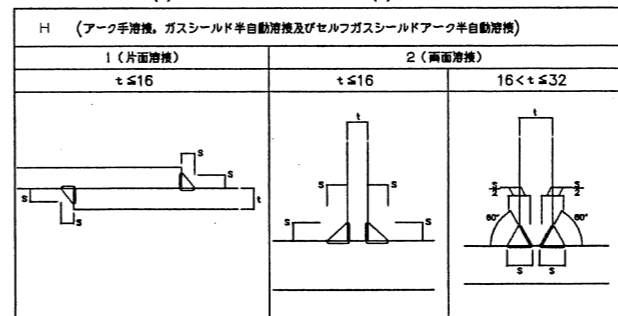


図 2.5 隅肉溶接の開先標準

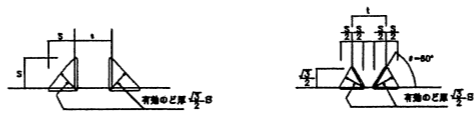
表 2.2 隅肉溶接のサイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	28	30	32
S	3	4	5	6	7	8	9	10	10	11	12	13	13	14	14	15	16	16	17	18	18	19	19	20	21	21

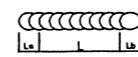
(注) 1. 隅肉溶接のサイズ(S)は、有効の厚の根元(t)と等しくなるように次式により求めたものである。

$$t \leq 16 \text{ の場合} \\ S = t / \sqrt{2}$$

$$16 < t \leq 32 \text{ の場合} \\ S = t / \sqrt{3}$$



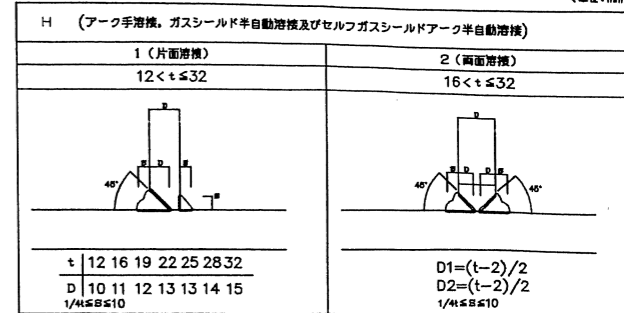
1. 設計図書(図面及び仕様書をいう。)に示す所轄隅肉溶接の長さ(次図の有効長さ(L)とし、隅肉のサイズ(S)の10倍以上とする。ただし、有効長さは、ヒートの始点(La)及びクレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。



(3) 部分溶込み溶接

図 2.6 部分溶込み溶接 (P)

(単位: mm)

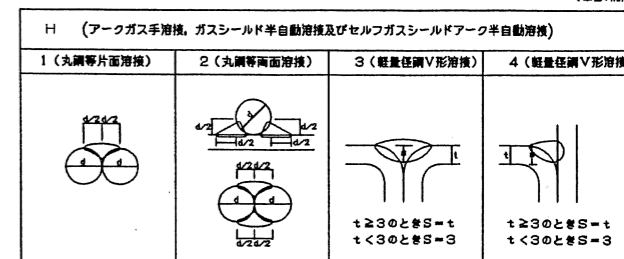


(注) 1. 溶接工法 原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接とする。
2. 片面溶接 原則として、両先をとらない側にも補強隅肉溶接を行う。(Sは補強隅肉溶接のサイズ)

(4) フレア溶接

図 2.7 フレア溶接

(単位: mm)



(注) 溶接工法 原則として、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接とする。

2.5 柱現場溶接

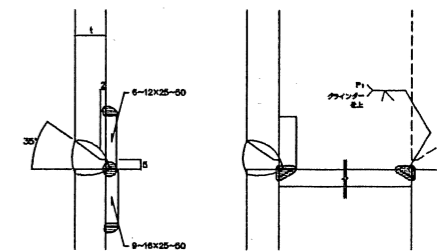
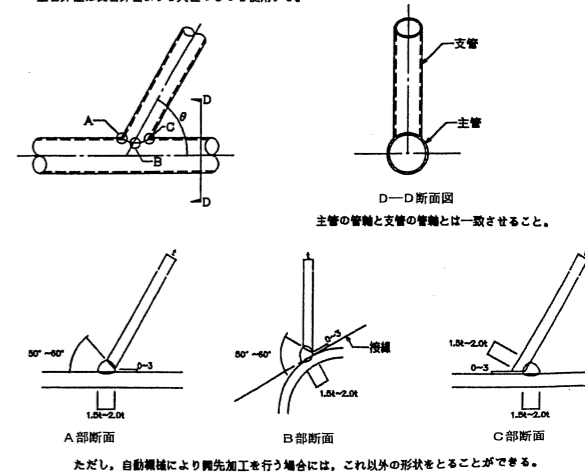


図 2.8

2.6 鋼管分岐継手

適用管厚 3.2 ≤ t ≤ 12
 交角 30° ≤ θ ≤ 150°
 主管外径は支管外径よりも大径のものを使用する。

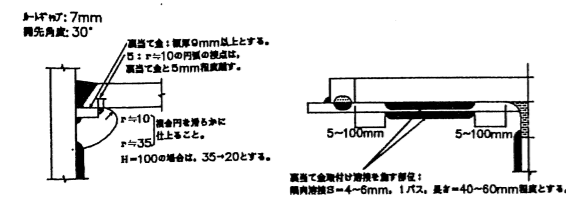


ただし、自動機械により開先加工を行う場合には、これ以外の形状をとることができる。

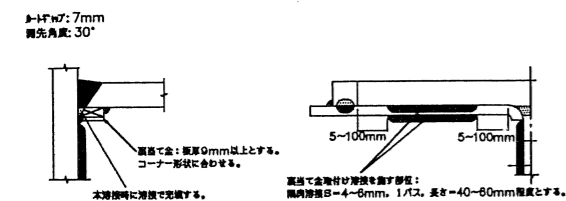
2.9 スカラップ

- (a) パターン1,3を採用する場合
 - ・高当て金を使用する場合、通し形の高当て金とし、板厚9mm以上とする。
- (b) パターン2,4を採用する場合
 - ・フィレット部は本溶接時に、十分に注意して、溶接で充填する。
 - ・高当て金は、フィレットのコーナー部の形状に合わせた高当て金とし、板厚9mm以上とする。
- (c) パターン3,4を採用する場合
 - ・ダイヤフラムの出隅寸法 ϕ は、 $\phi = \text{Max}\{30, tp\}$ によるものとする。
- (d) 深透しタイプの場合、ダイヤフラムの厚さは、梁フランジ厚さの1~2サイズアップとする。
- (e) これ以外のスカラップ形状の場合は工作図により設計者の承認を受ける。

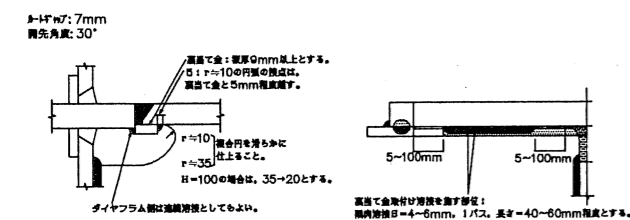
(パターン1) T型手で、スカラップを施す場合



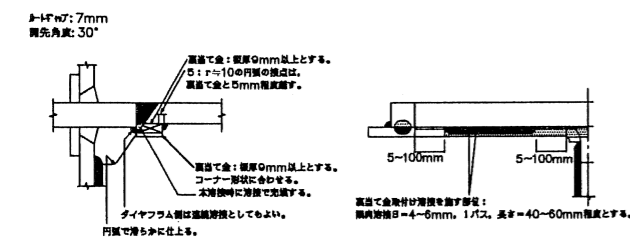
(パターン2) T型手で、ノンスカラップの場合



(パターン3) パターン1で、深透しの場合

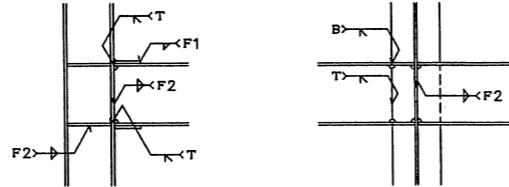
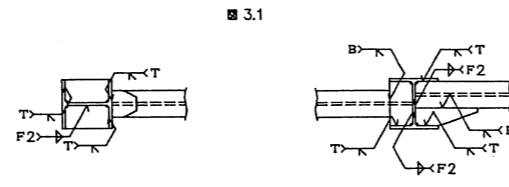


(パターン4) パターン2で、深透しの場合



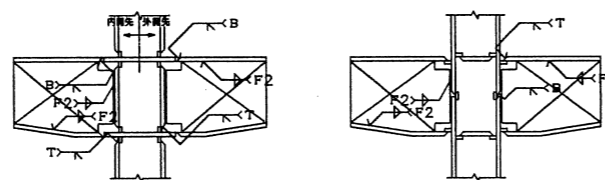
第3章 鉄骨標準詳細

3.1 柱・はり仕口部(H形柱)

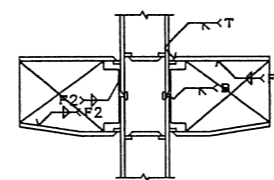


3.2 柱・はり仕口部(Box形柱)

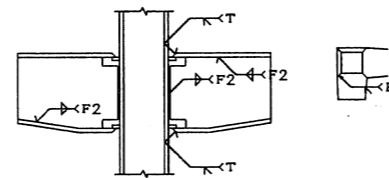
(1) 通しダイヤフラム



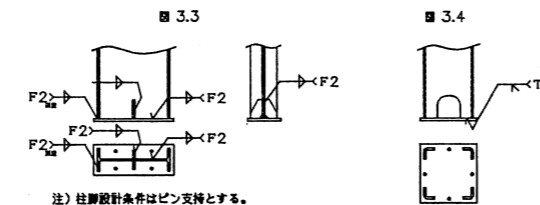
(2) 内ダイヤフラム



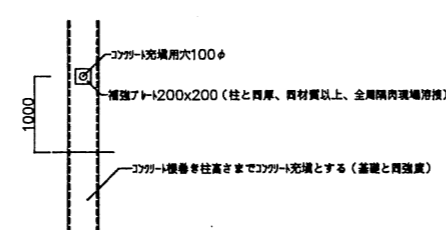
(3) 外ダイヤフラム



3.3 柱脚仕口部



3.4 埋込み形柱脚施工要領



3.4 小ばり仕口部

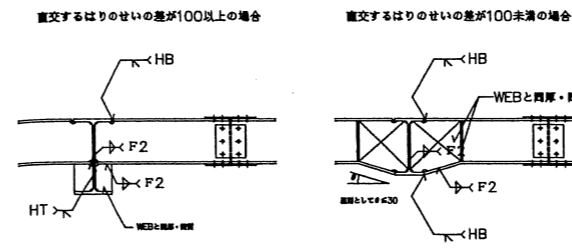
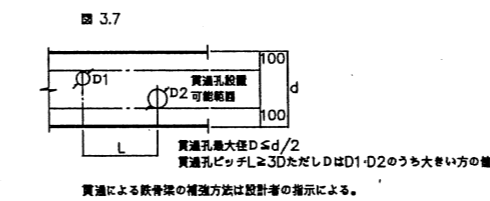


図 3.6 剛接小ばり

3.5 はり貫通の補強



3.6 鉄筋貫通孔の径

はり筋の定着又は引渡しのため鉄骨における貫通孔は、表 3.1 を標準とする。ただし、設計における鉄骨の貫通孔(フープを除く)は、使われる主筋の貫通孔の内、最大の孔径に統一する。

表 3.1

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔径 (mm)	24	28	31	35	38	43	46	

(1) コンクリートの種類

施工箇所	コンクリートの種類	設計基準強度		圧縮強度 (N/mm ²)	圧縮強度 (MPa)	単位重量 (kg/m ³)
		A	B			
基礎・基礎梁	普通コンクリート	21	18	55	185	
1階~4階	普通コンクリート	21	18	55	185	
土庫コンクリート	普通コンクリート	18	15	65	185	
地下コンクリート	普通コンクリート	16	15	65	200	
床下コンクリート	普通コンクリート	18	18	65	185	
床仕上げコンクリート	普通コンクリート	18	18	65	185	

- ・建築物の構造躯体(場所打ちコンクリート)は設計基準強度に3N/m²を加える
- ・単位重量は185kg/m³以下を遵守する。
- ・空気量 4.5%±1.5%

(2) セメント及び添加剤

- ① セメント
 - 普通ポルトランドセメント (施工箇所: 構造躯体、外構コンクリート)
 - 高炉セメントB種 (施工箇所:)
- ② 添加剤
 - AE減水剤 (凹型形状 凹型形状 凹型形状)
 - 流動化剤 (施工箇所: 構造躯体、外構コンクリート)
 - 高性能減水剤 (施工箇所: 構造躯体、外構コンクリート)
 - (施工箇所:)
- ※ 高性能減水剤はAE減水剤、AE減水剤、流動化剤は花王マイマイ及び山形化学工業品とする。

(3) 鉄のコンクリート

- ① 水セメント比
 - 60%以下
 - 55%以下
- ② 単位セメント量
 - 300kg/m³以上
 - 340kg/m³以上
- ③ 添加剤
 - AE減水剤 (凹型形状 凹型形状 凹型形状)

(4) コンクリートに含まれる塩化物の含有量の基準

鉄筋コンクリートなどの構造耐力上主要な部分に用いられるコンクリートについては、原則として塩化物量は0.3kg/m³以下(塩素イオン換算)とする。

(5) その他の仕様

- 中コンクリート(適用期間 月 日 ~ 月 日)
- コングリート打設後、28B(4期)間の予想平均気温が3.2℃以下となる場合に適用する。
- 中コンクリート(適用期間 月 日 ~ 月 日)
- マスコンクリート
-
- (6) 打ち込み、締め締め、打ち締め、養生
- コンクリートの打ち込み、締め締め、打ち締め、養生については JASS5-7、8章に準拠し、施工を行うものとする。

(7) 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

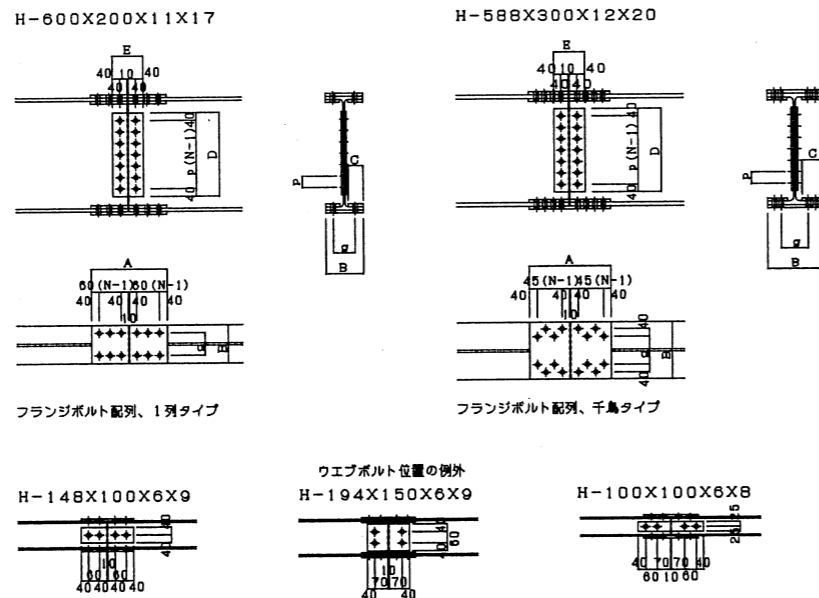
構造部分	最小かぶり厚さ(mm)		設計かぶり厚さ(mm)	
	屋内	屋外	屋内	屋外
重量スラブ・底スラブ・片持ちスラブ [※] ・非耐力壁	20	30 [※]	30	40 [※]
耐力壁・窓枠・小梁・片持ち梁	30	40 [※]	40	50 [※]
土に接する耐力壁・底スラブ・布基礎の立上り部分・基礎部分			40	50
蓋板 (鉄コンクリート部分を除く)			60	70

(注) 1: 鉄筋の打ち込み、締め締め、打ち締め、養生については JASS5-7、8章に準拠し、施工を行うものとする。
 ※ 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。[B-(1)の参照]

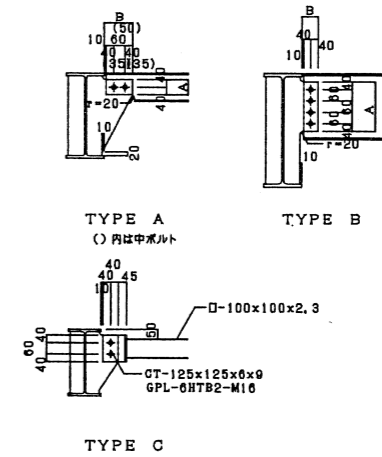
使用部材	シリーズ	中央梁サイズ	フランジ												ウェブ			
			HTB (F10T)				外添板 (SS400)				内添板 (SS400)				HTB (F10T)		添板 (SS400)	
			BXN	径	φ	配列	数量	厚さt	A	B	数量	厚さt	A	B	2XN	径	厚さt	D
○	H-200・100	*H-200・100・5.5・8	16	M16	58	1列	2	PL-16	290	100					4	M16		
○	H-250・125	H-250・125・6・9	24	M16	75	1列	2	PL-12	410	125					8	M16		
○	H-300・150	H-300・150・6.5・9	16	M20	90	1列	2	PL-9	290	150	4	PL-9	290	60	4	M20		
○	H-350・175	H-350・175・7・11	16	M20	105	1列	2	PL-9	290	175	4	PL-9	290	70	6	M20		
○	H-400・200	H-400・200・8・13	24	M20	120	1列	2	PL-9	410	200	4	PL-12	410	80	8	M20		
○	H-450・200	H-450・200・9・14	24	M20	120	1列	2	PL-12	410	200	4	PL-12	410	80	10	M20		
○	H-500・200	H-500・200・10・16	24	M20	120	1列	2	PL-12	410	200	4	PL-12	410	80	10	M20		
○	H-600・200	H-600・200・11・17	24	M22	120	1列	2	PL-12	410	200	4	PL-12	410	80	14	M22		
○	H-150・100	*H-148・100・6・9	16	M16	58	1列	2	PL-16	290	100				4	M16			
○	H-200・150	H-194・150・6・9	16	M20	90	1列	2	PL-9	290	150	4	PL-9	290	60	4	M20		
○	H-250・175	H-244・175・7・11	16	M20	105	1列	2	PL-9	290	175	4	PL-9	290	70	4	M20		
○	H-300・200	H-294・200・8・12	24	M20	120	1列	2	PL-9	410	200	4	PL-9	410	80	6	M20		
○	H-350・250	H-340・250・9・14	32	M20	150	1列	2	PL-12	530	250	4	PL-12	530	100	12	M20		
○	H-400・300	H-390・300・10・16	32	M20	150	千鳥	2	PL-12	440	300	4	PL-12	440	110	8	M20		
○	H-450・300	H-440・300・11・18	32	M20	150	千鳥	2	PL-12	440	300	4	PL-12	440	110	10	M20		
○	H-500・300	H-488・300・11・18	32	M22	150	千鳥	2	PL-12	440	300	4	PL-12	440	110	10	M22		
○	H-600・300	H-588・300・12・20	32	M22	150	千鳥	2	PL-12	440	300	4	PL-16	440	110	14	M22		
○	H-700・300	H-700・300・13・24	40	M22	150	千鳥	2	PL-19	530	300	4	PL-19	530	110	18	M22		
○	H-800・300	H-800・300・14・28	40	M22	150	千鳥	2	PL-19	530	300	4	PL-19	530	110	20	M22		
○	H-900・300	H-890・299・15・23	40	M22	150	千鳥	2	PL-16	530	300	4	PL-19	530	110	24	M22		
○	H-900・300	H-900・300・16・28	48	M22	150	千鳥	2	PL-19	620	300	4	PL-22	620	110	24	M22		
○	H-900・300	H-912・302・18・34	56	M22	150	千鳥	2	PL-25	710	300	4	PL-25	710	110	40	M22		
○	H-900・300	H-918・303・19・37	56	M22	150	千鳥	2	PL-25	710	300	4	PL-28	710	110	40	M22		
○	H-100・100	*H-100・100・6・8	16	M16	58	1列	2	PL-16	290	100				4	M16			
○	H-250・250	H-250・250・9・14	24	M20	120	1列	2	PL-9	410	250	4	PL-12	410	100	4	M20		
○	H-125・125	H-125・125・6.5・9	24	M16	75	1列	2	PL-12	410	125				4	M16			
○	H-150・150	H-150・150・7・11	24	M16	120	1列	2	PL-9	290	150	4	PL-9	290	80	6	M16		

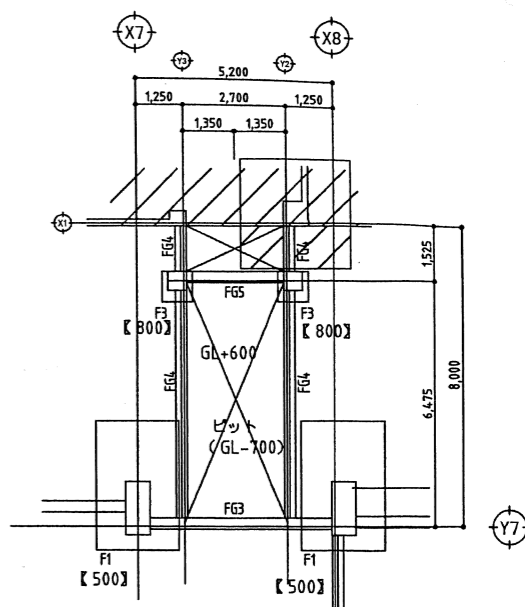
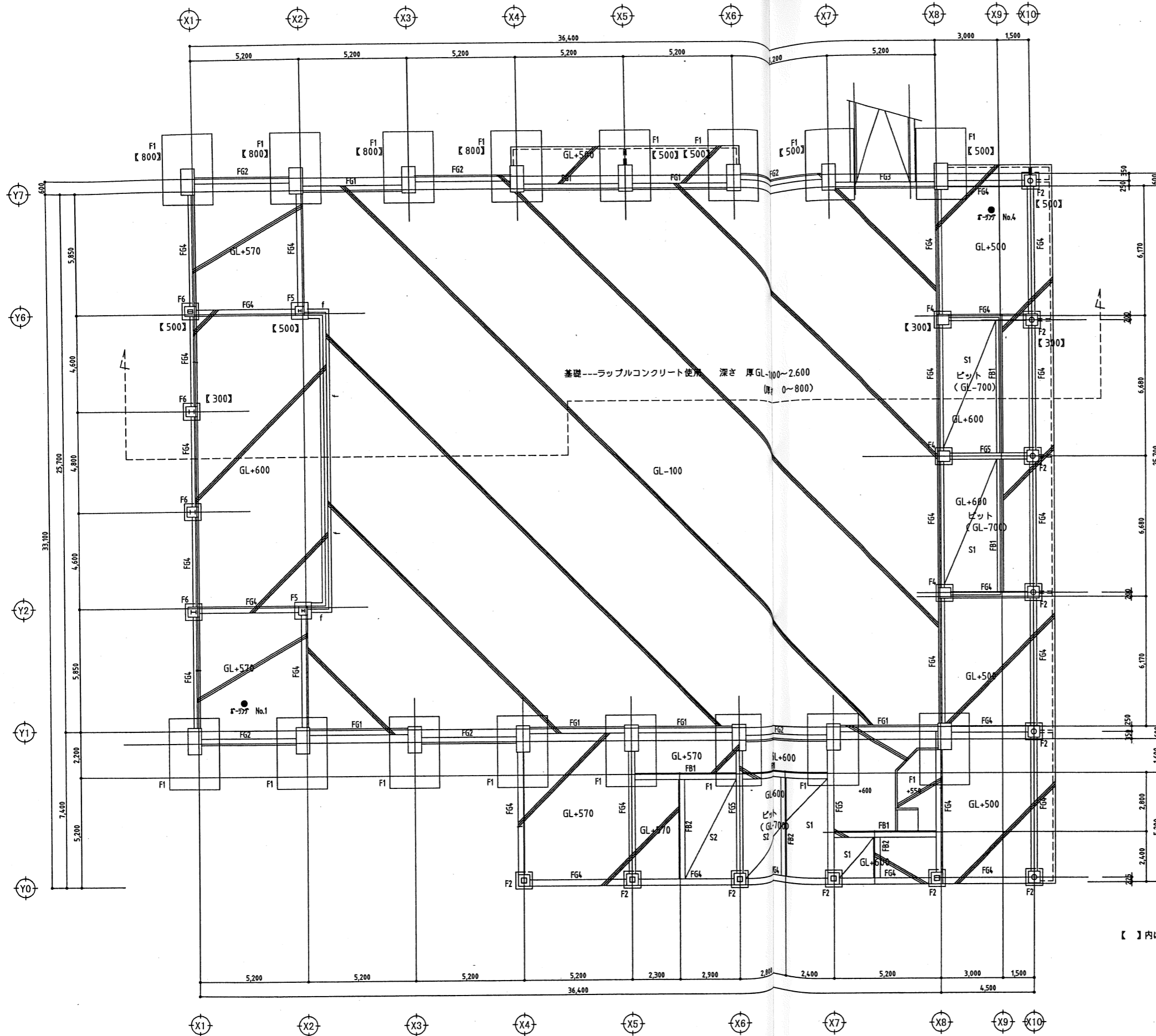
使用部材	シリーズ	小梁サイズ	TYPE	HTB (F10T)		GPL (SS400)		
				N	径	厚さt	A	B
○	H-150・75	H-150・75・5・7	A	2	M16	PL-6	80	150
○	H-175・90	H-175・90・5・8	A	2	M16	PL-6	80	150
○	H-200・100	H-200・100・5.5・8	B	2	M16	PL-9	140	90
○	H-250・125	H-250・125・6・9	B	2	M20	PL-9	140	90
○	H-300・150	H-300・150・6.5・9	B	3	M20	PL-9	200	90
○	H-350・175	H-350・175・7・11	B	4	M20	PL-9	260	90
○	H-400・200	H-400・200・8・13	B	4	M20	PL-12	260	90
○	H-450・200	H-450・200・9・14	B	5	M20	PL-12	320	90
○	H-500・200	H-500・200・10・16	B	6	M20	PL-12	380	90
○	H-600・200	H-600・200・11・17	B	7	M20	PL-16	440	90
○	H-500・300	H-488・300・11・18	B	6	M20	PL-16	380	90
○	H-600・300	H-588・300・12・20	B	7	M20	PL-16	440	90
○	H-100・100	H-100・100・6・8	A	2	M16	PL-9	60	150
○	2C-100・50	2C-100・50・20・2.3	A	2	M16	PL-4.5	80	150
○		2C-100・50・20・3.2	A	2	M16	PL-4.5	80	150
○		2C-100・50・20・2.3	A	2	中ボルト M16	PL-4.5	80	130
○	□-100・100	□-100・100・3.2	C	2	中ボルト M12	PL-4.5	140	90
○		□-100・100	□-100・100・6.0	B	2	M16	PL-6	140
○	H-250・175	H-244・175・7・11	B	4	M20	PL-12	140	170
○	H-150・150	H-150・150・7・10	A	2	M16	PL-9	80	150
○	□-100・100	□-100・100・6.0	B	2	M16	PL-6	140	90
○	□-150・150	□-150・150・9.0	B	3	M16	PL-9	200	90
○	H-125・125	H-125・125・6.5・9	A	2	M16	PL-9	80	150

大梁継手標準図



小梁仕口標準図





基礎伏図 1:100

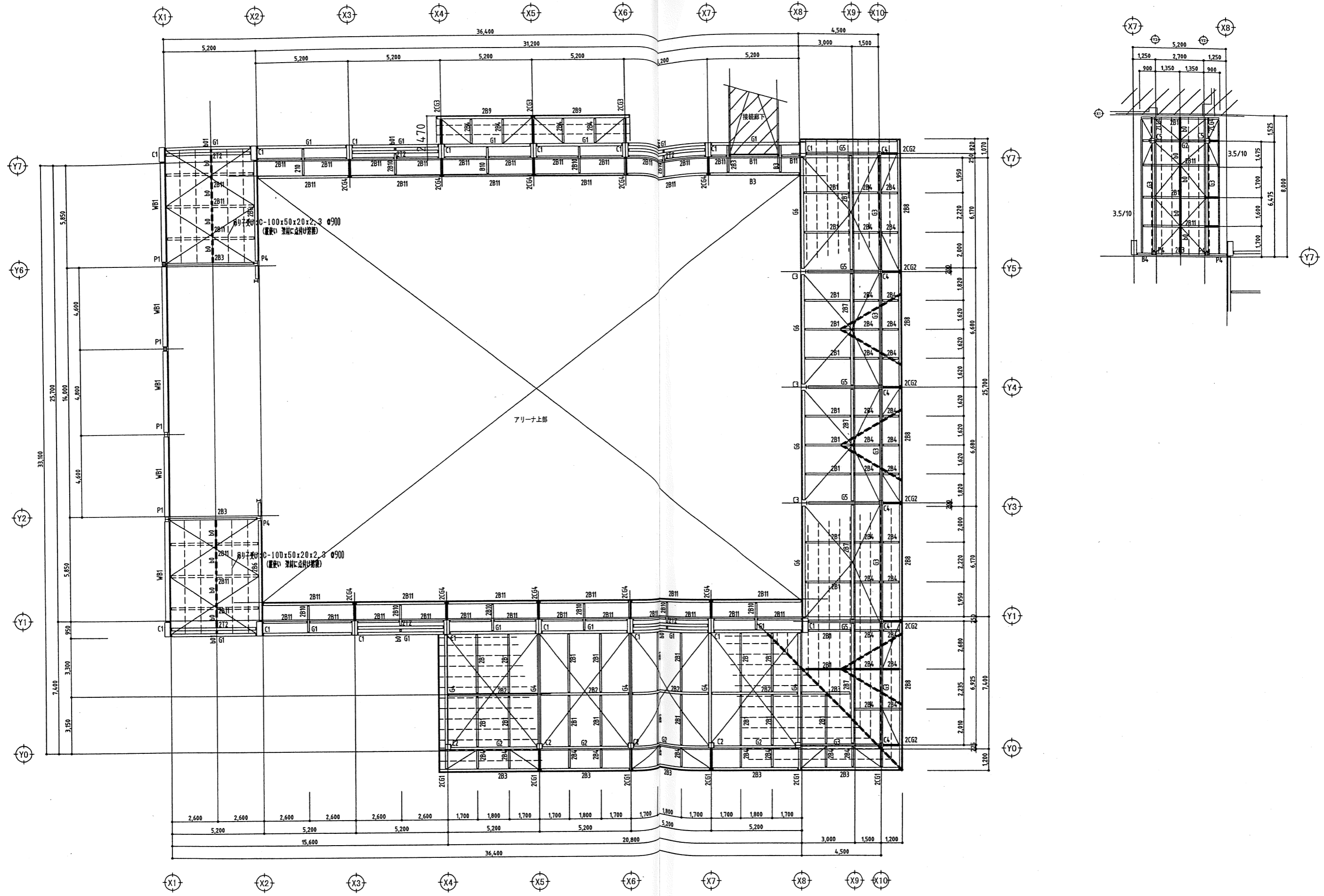
【 】内はラップコンクリート厚さを示す。

特記	
改訂番号	改訂月日 改訂内容

承認	審査	校閲	製図

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	屋内運動場 基礎伏図

一級建築士 登録第32339号 小川 輝	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築構造
	図面番号 S-08



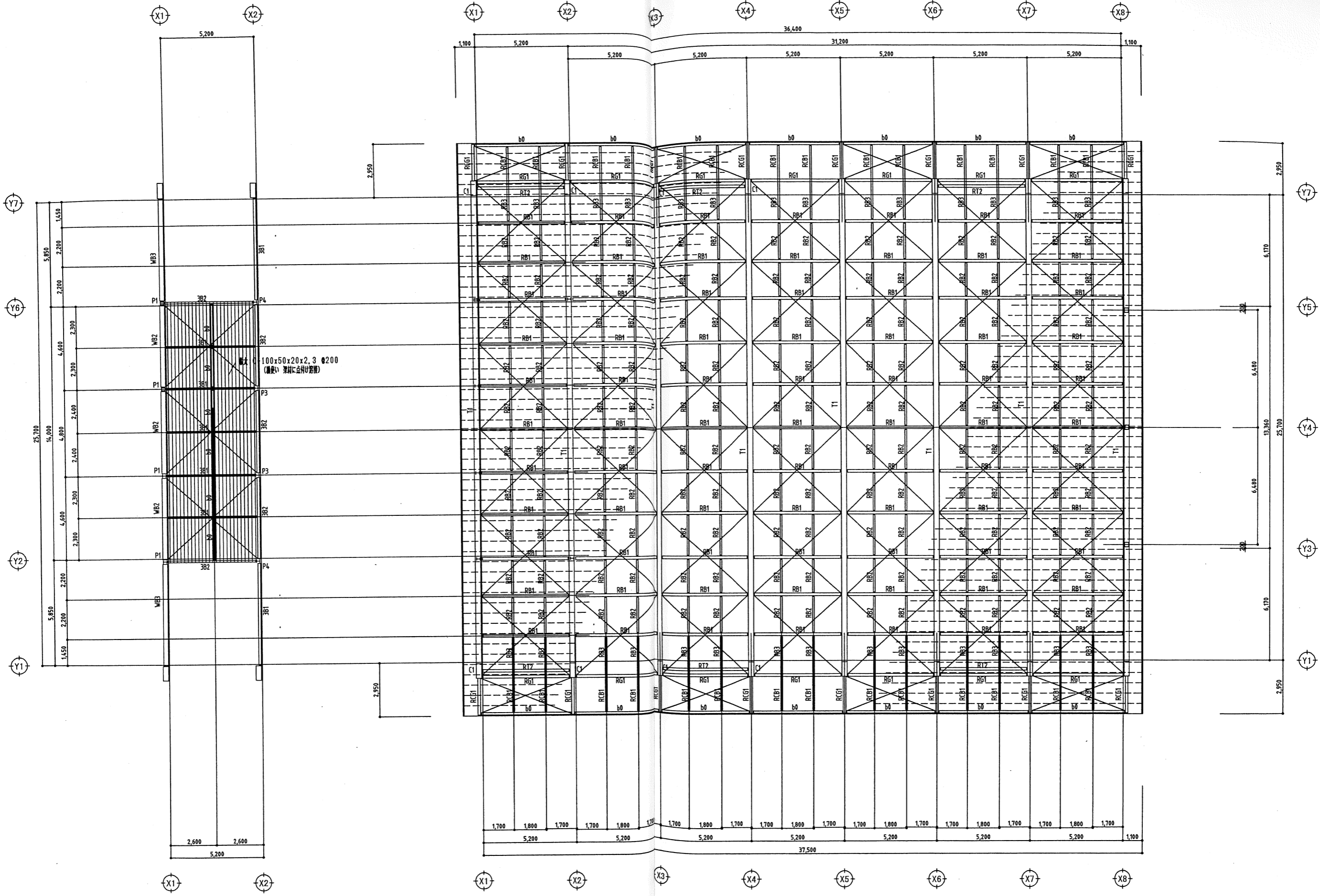
2階 床梁伏図 1:100

特記	
改訂番号	
改訂月日	
改訂内容	

承認	
審査	
検図	
製図	

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	屋内運動場 2階 床 伏 梁 図

一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築構造
	図面番号 S-09 追S-09



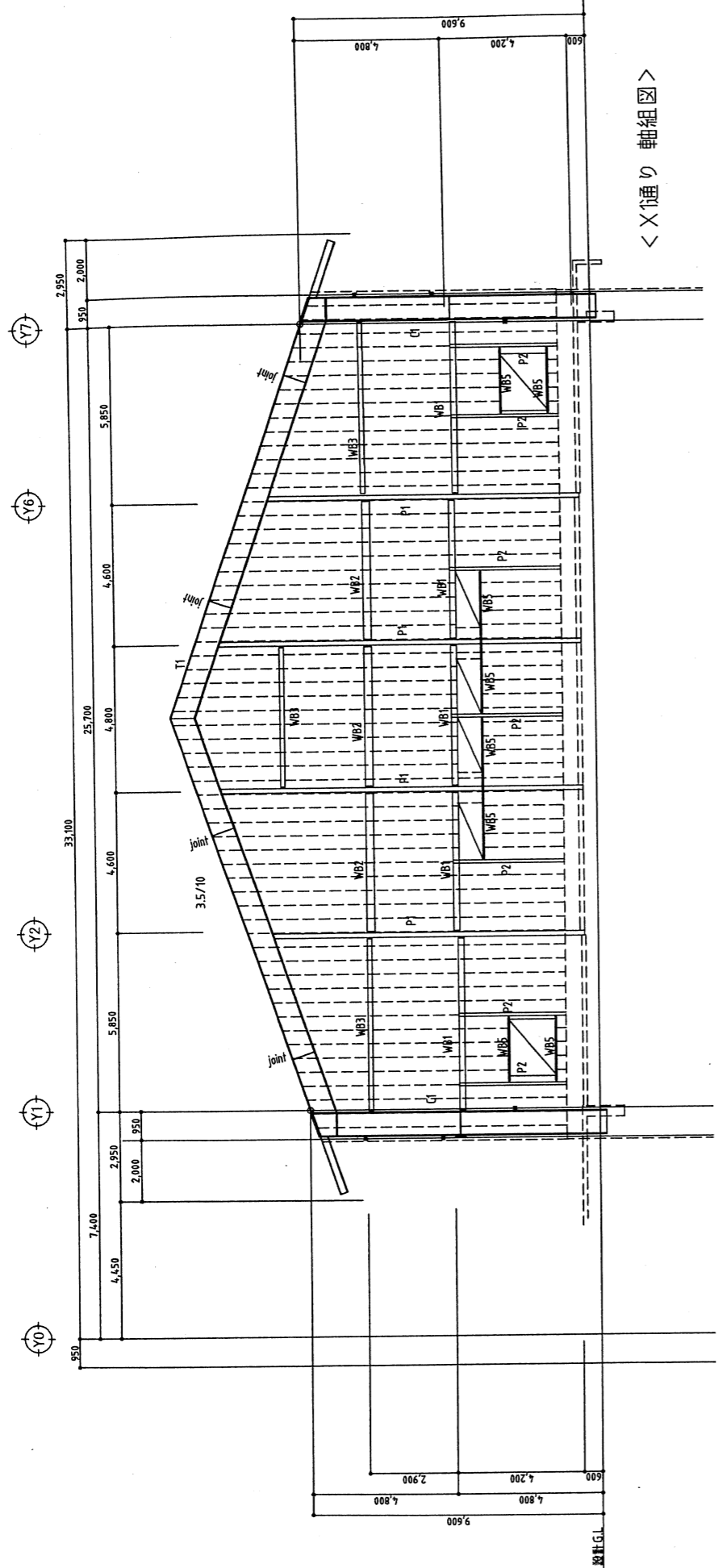
— 小屋伏図 1:100 —

特記	

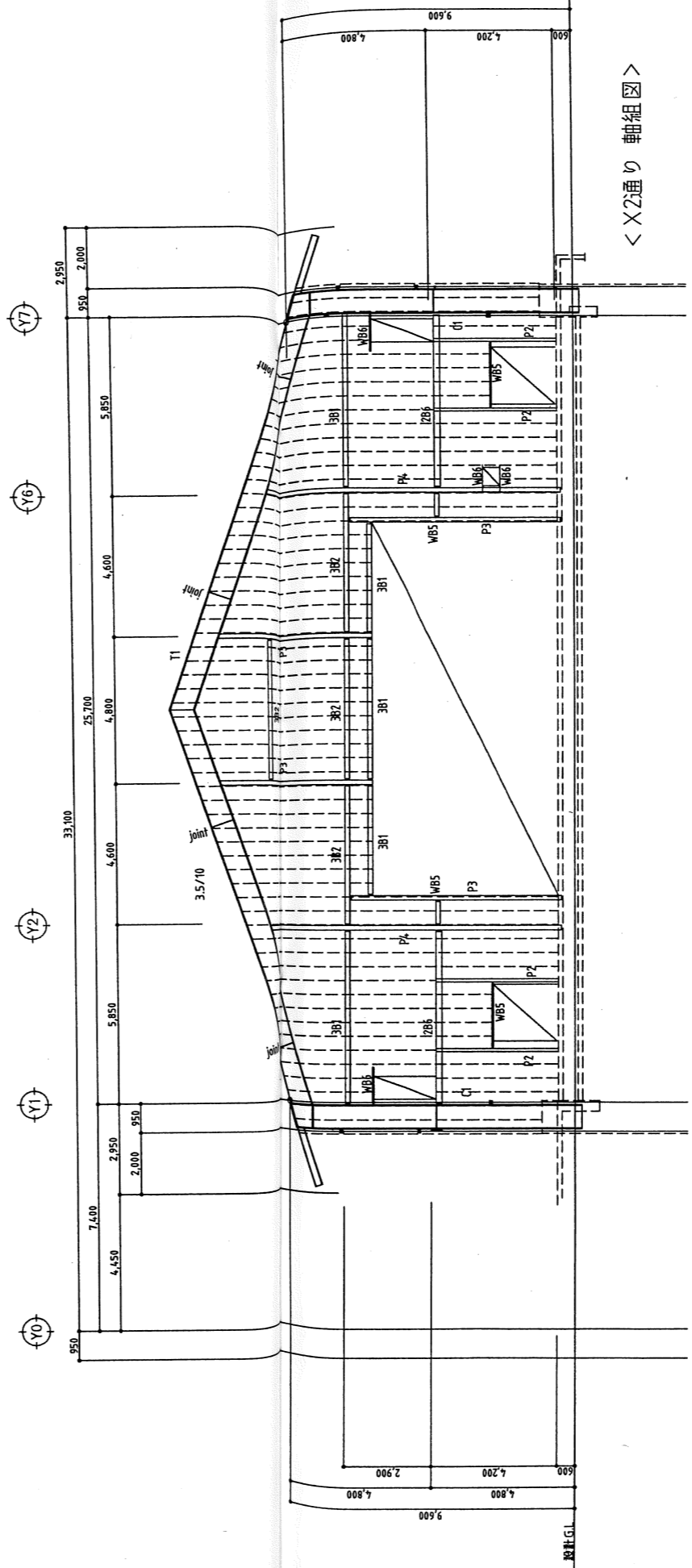
改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	校閲	製図	工事名称
				田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
				図面内容
				屋内運動場 小屋伏図

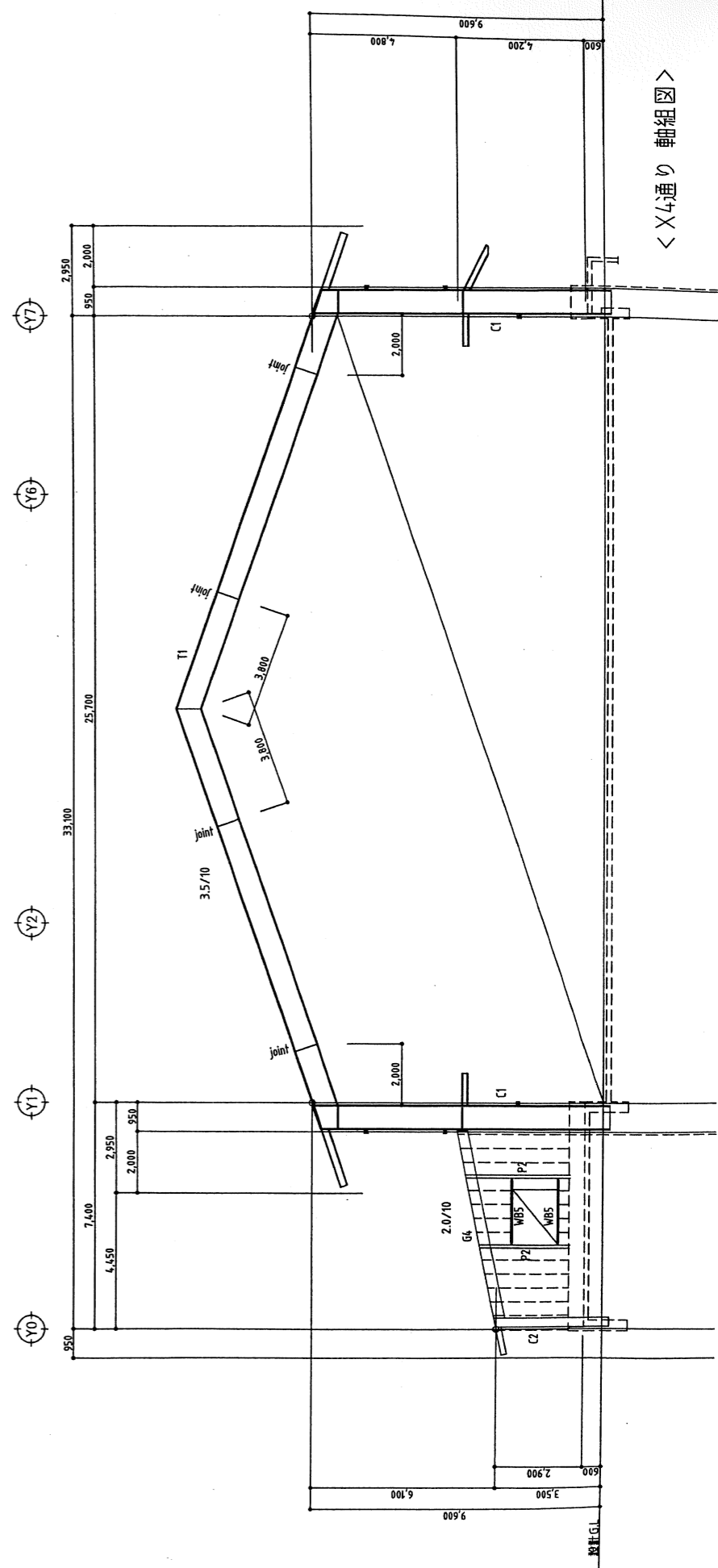
一級建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築構造
	図面番号 S-10



軸組図



軸組図



軸組図

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	校閲	製図

工事名称	田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
図面内容	屋内運動場 軸組図 (1)

一級建築士 登録番号32339号 小川 博	業務番号 06178
縮尺 1:100	図面区分 建築構造
	図面番号 S-11 追S-11

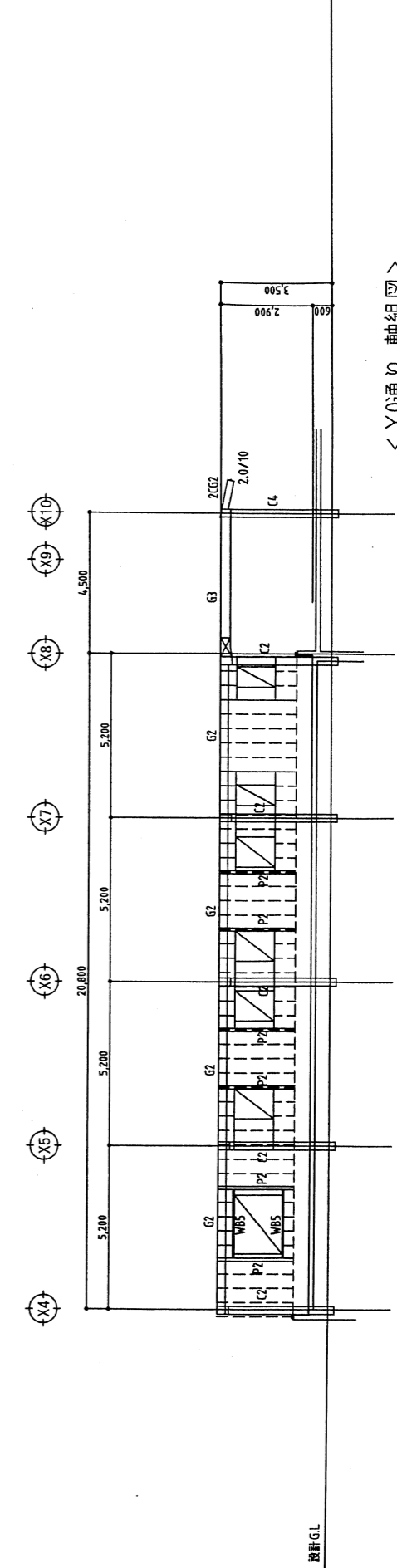
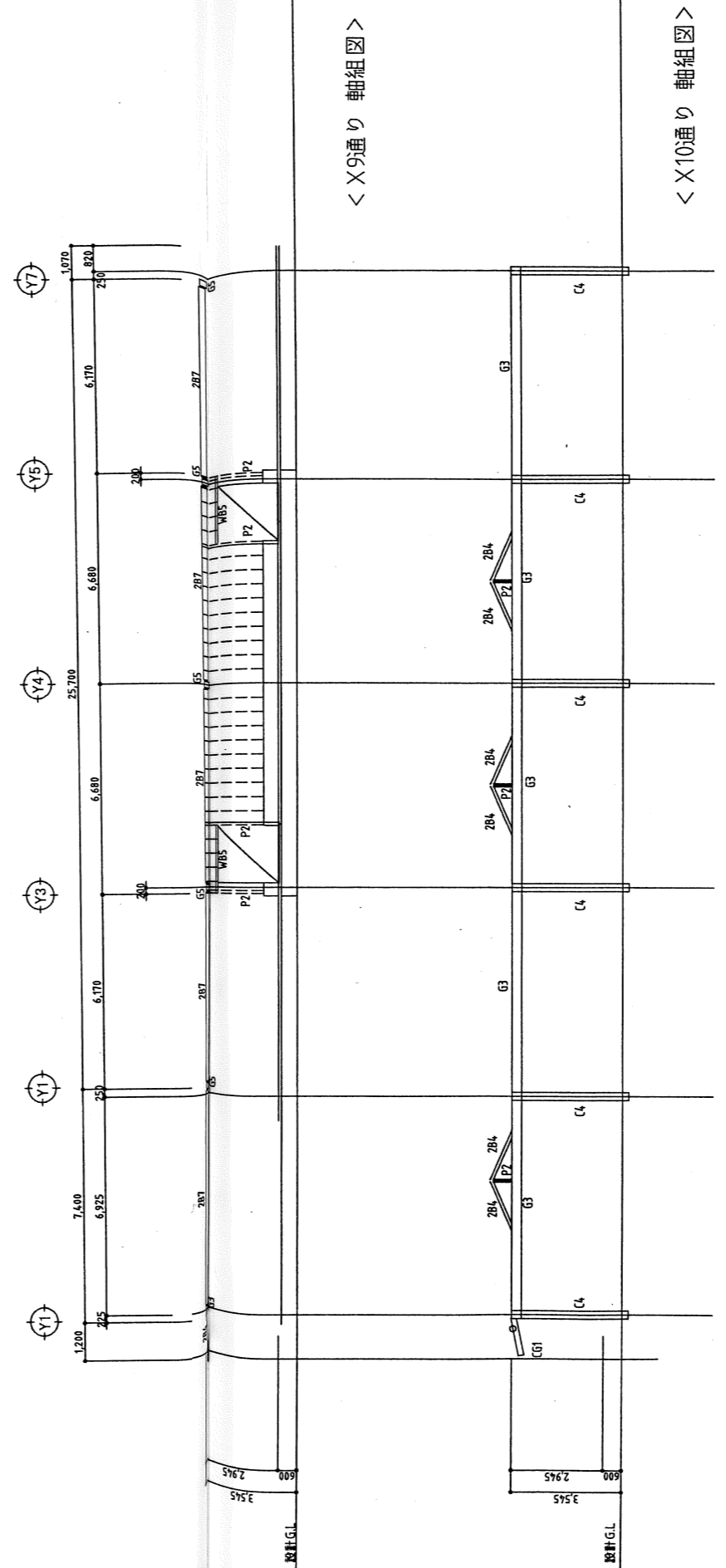
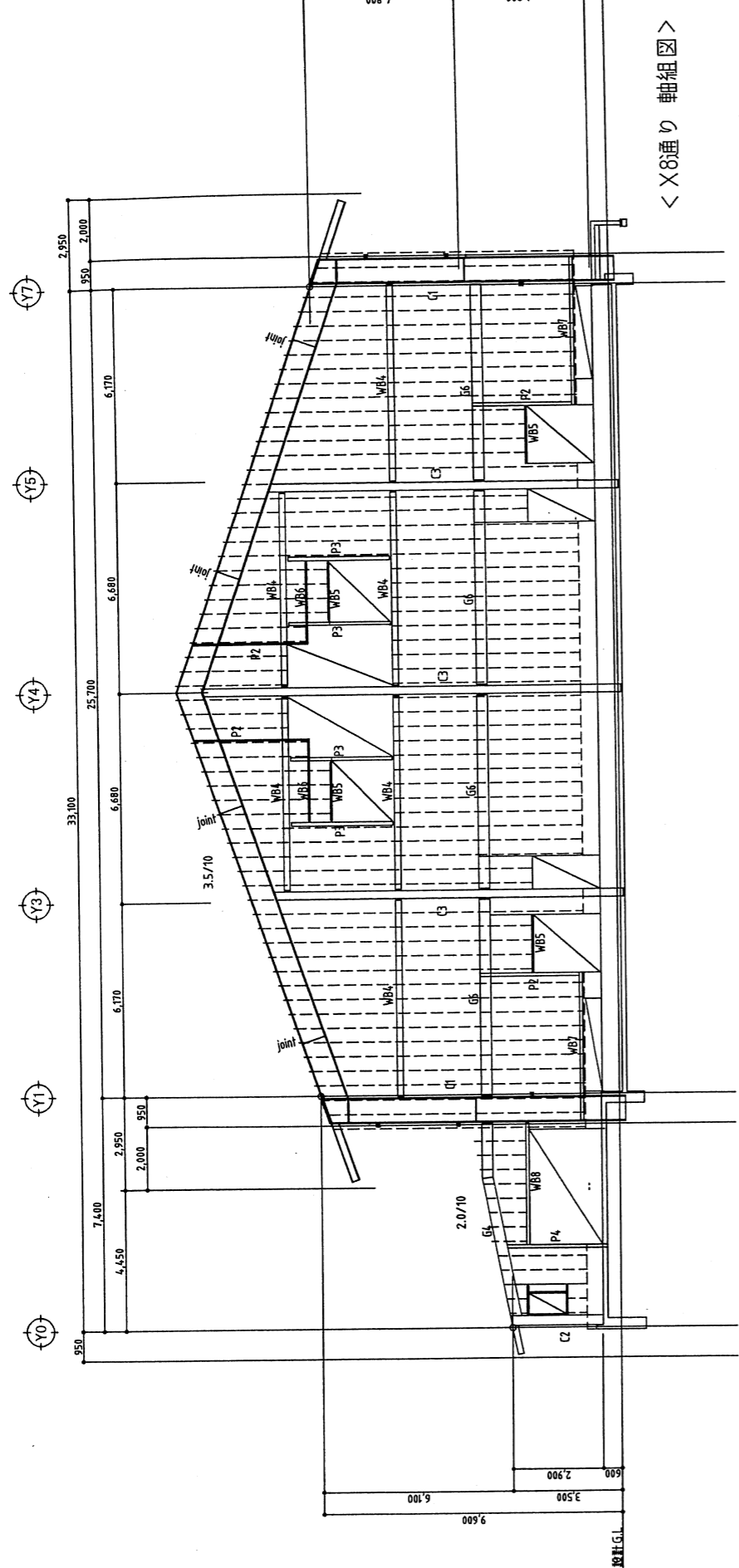
特記	

改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検閲	製図

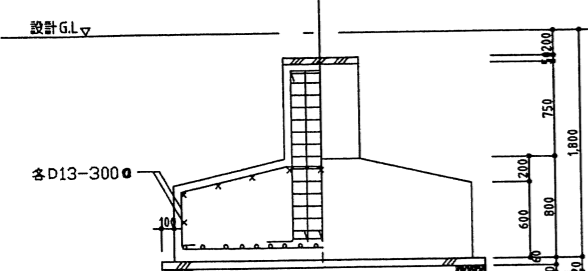
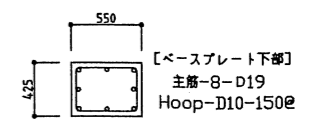
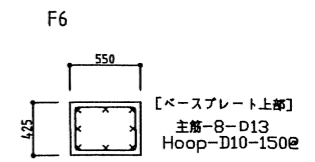
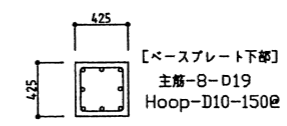
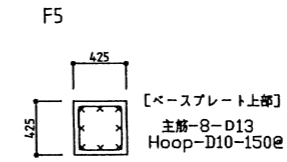
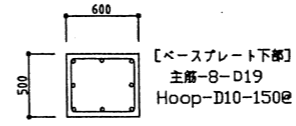
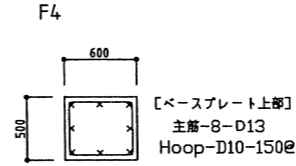
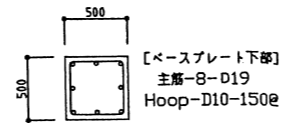
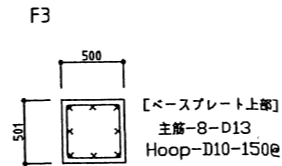
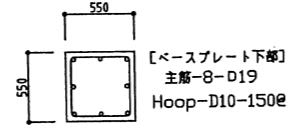
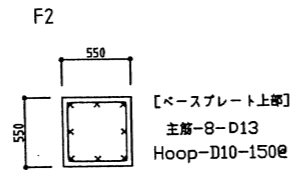
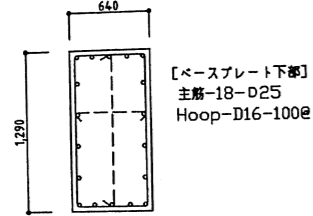
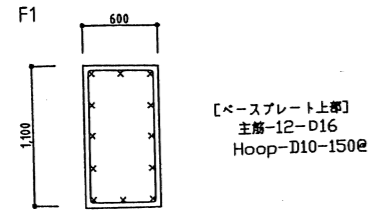
工事名称 田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)	一級建築士 登録第32339号 小川 博
図面内容 屋内運動場 軸組図 (2)	図面区分 建築構造 縮尺 1:100 図面番号 S-12 追S-12

業務番号 06178 図面番号 S-12 追S-12

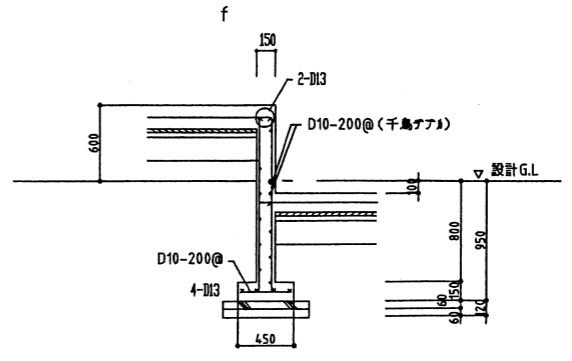
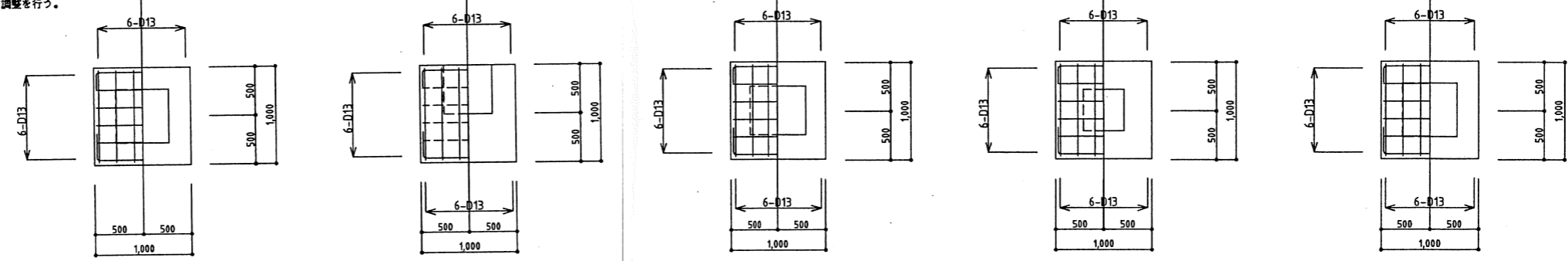
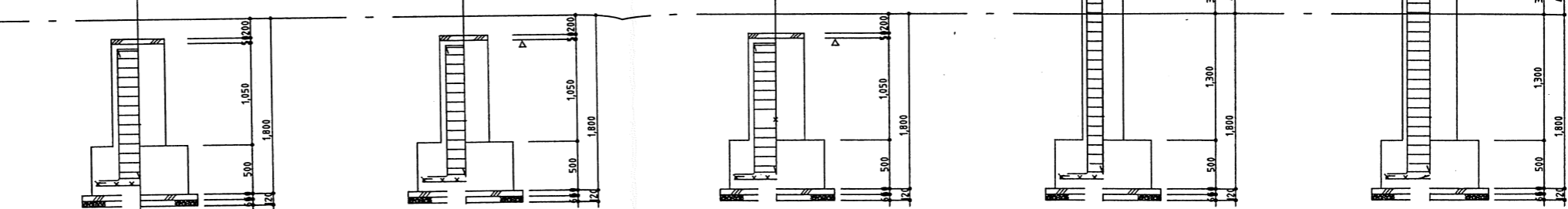
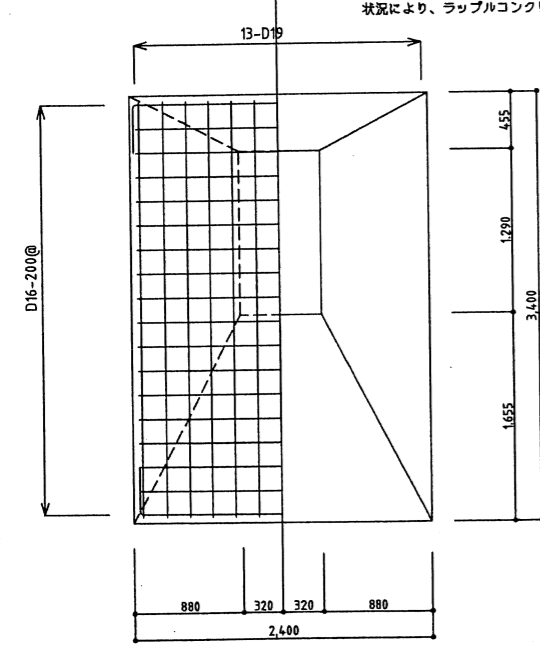


< Y0通り 軸組図 >

基礎断面表 1/30



共通次項
ラップルコンクリート使用の場合、碎石なし、
状況により、ラップルコンクリート厚の調整を行う。



改訂番号	改訂月日	改訂内容

承認	審査	検図	製図	工事名称
				田野畑村立田野畑中学校屋内運動場改築工事 (建築工事)
				図面内容 基礎断面表

一级建築士 登録第32339号 小川 博	業務番号 06178
図面区分 建築構造	縮尺 1:30
図面番号 S-14 追S-14	

